○明治二十六年六月一日北海道廳訓第百六十二號（郡區役所宛）

所得稅賦課現計書中轉出入ノ事蹟ヲ明瞭ナラシムル爲メ調査上要用ノ趣大藏省ヨリ通牒ノ次第モ有之ニ付他府縣及他郡區轉出入ニ係ル分ニ對シ其府縣及郡區名人員所得高稅額事由等廉限リ記載シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

但明治二十五年度分ハ此際差出スヘシ

○明治二十五年六月二十二日北海道廳訓令第三十五號（郡區役所宛）

鑛業條例實施ニ付鑛業稅及鑛區稅徵收方左ノ通心得ヘシ

一　郡區長ハ別冊樣式ニ倣ヒ鑛業稅及鑛區稅臺帳ヲ設ケ財務長ヨリ鑛業人ノ住所氏名納稅額等ノ通知ヲ受ケ之ヲ整理スヘシ

一　鑛業稅又ハ鑛區稅ヲ滯納スルモノアルトキハ其都度滯納者ノ住所氏名及稅目金額ヲ收入官吏ヨリ鑛山監督署長ヘ通知シ同時ニ財務長ヘ其寫書ヲ差出サシムヘシ

（別冊略ス）

## ○租稅外諸收入

○明治二十年十一月三十日北海道廳訓令第百三十五號（郡區役所宛）

官有地貸下料徵收方自今左ノ通取扱フヘシ

一　貸地料ハ貸下許ノ指令書本人ヘ到達ノ月ヨリ徵收ス（二十三年四月訓令第三十四號ヲ以テ指令ノ下本項ノ通改正）

一　貸渡年限中事故アリ返上スルモノノ料金ハ返地許可指令ノ月マテ徵收ス





○明治二十三年九月三日北海道廳訓令號外（各通）

奥尻郡釣掛外三ケ村戸長役場ニ於テ國稅外ノ諸收入ヲ徵收スル收入官吏ノ收入シタル現金ノ監守證ハ其郡役所々在地ノ金庫ヘ送付スヘシ

苫前郡燒尻外一ケ村（以下前同文）　久遠外三郡役所

宗谷禮文及利尻三郡各村（以下前同文）　增毛外五郡役所

國後及色丹郡各村（以下前同文）　宗谷外三郡役所

○明治二十三年十二月十八日北海道廳訓令第八十八號（郡區役所戸長役場宛）　根室外九郡役所

官有山野ニ係ル地所貸下料及地所拂下代明治十九年農商務省訓令第十三號ニ依リ徵收ヲ了シタルトキハ二十年同省訓令第二號甲乙號書式ノ皆濟帳及未納仕譯書ヲ製シ會計閉鎖期限後十五日以内ニ當廳第三部ヘ差出スヘシ（二十四年三月農商務省訓令第十一號ヲ以テ本文中第十三號ヲ改正ス）

但本年四月當廳訓令第二十一號第七條第二項ヲ删除ス（訓令第二十一號ハ第二類土地、官有地貸貸ノ部ニ見ユ）

○明治二十四年四月七日北海道廳訓第二十七號（各通）　札幌外九郡役所

厚田郡厚田村及濱益郡茂生村ニ於テ國稅外諸收入ヲ取扱ヲ收入官吏ノ徵收金拂込ノ義ハ二十二年十月大藏省令第十三號第十七條ニ據リ取扱監守證ハ其所屬仕拂命令官所在地ノ金庫ヘ送付スヘシ

室蘭外五郡役所

勇拂郡苫小牧村白老郡白老村虻田村ニ於テ國稅（以下前文ニ同シ）

小樽外六郡役所

古平郡濱町美國郡小泊村積丹郡野塚村及ヒ余別村ニ於テ國稅（以下同上）

浦河外六郡役所

幌泉郡幌泉村靜內郡下々方村沙流郡捫別村三石郡姨布村樣似郡樣似村ニ於テ國稅（以下同上）

增毛外五郡役所

留萌郡鬼鹿村苫前村ニ於テ國稅（以下同上）

龜田外三郡役所

龜田郡龜田、下湯川、錢龜澤、大野、戶井、尻岸內、椴法華ノ七ヶ村上磯郡知內、木古內、上磯、茂邊地ノ四ヶ村茅部郡鹿部、砂原、森、尾札部、臼尻、落部ノ六ヶ村山越郡八雲、山越內、長万部ノ三ヶ村ニ於テ國稅（以下同上）

根室外九郡役所

標津郡標津村ニ於テ國稅（以下同上）

紗那外三郡役所

藥取郡藥取村ニ於テ國稅（以下同上）

網走外三郡役所

網走郡美幌村ニ於テ國稅（以下同上）

釧路外十二郡役所

廣尾郡茂寄村十勝郡大津村阿寒郡舌辛村ニ於テ國稅（以下同上）

第二部

厚田郡厚田村龜田郡龜田村茅部郡森村勇拂郡苫小牧村留萌郡鬼鹿村宗谷郡稚內村利尻郡鬼脇村ニ於テ國稅（以下同上）

○明治二十四年七月二十一日北海道廳訓第六十三號（郡區役所（紗那網走宗谷郡役所ヲ除ク）宛）

納入告知書ヲ發シ金庫ヘ納付スヘキ租稅外歲入ノ儀ハ爾後其所ヘ金庫員ヲ派出シ領收セシムル儀別紙ノ通リ大藏大臣ヨリ聞屆ケラル

（別紙）

大藏省指令第二三五〇號

北海道廳

本年五月二十七日第五五九號稟請納入告知書檢印ノ件ハ前段ノ通聞屆ク

但別紙寫ノ通金庫ヘ命令候條其旨心得ヘシ

明治二十四年七月七日

大藏大臣伯爵　松方正義

（別　紙）

## 金庫出納役

左記ノ北海道廳各郡區役所ニ係ル歳入金取扱方ハ一般ノ直稅分署取扱ノ例ニ準シ當該金庫ヨリ同郡區役所ヘ派出シ又同郡區役所ヨリ派出スルヲ便利トスルモノハ派出スルニ及ハサルニ付同郡區役所ト金庫間ニ於テ協議ヲナシ兩樣ノ內何レカニ取極メ差支ナク歳入金ノ領收方ヲ取扱ハシムヘシ此旨相達ス

年　月　日

大藏大臣

金庫ヨリ派出スルトキハ派出場所及其期限

函館區役所　自一月至三月　自七月至九月
龜田郡役所　同　上
壽都郡役所　自一月至二月　自七月至八月
松前郡役所　同　上
檜山郡役所　同　上
札幌區役所　自一月至三月　自七月至九月
小樽郡役所　同　上
增毛郡役所　自一月至二月　自七月至八月
岩內郡役所　同　上



室蘭郡役所　同　上
浦河郡役所　同　上
根室郡役所　同　上
釧路郡役所　同　上

○明治二十六年八月十九日北海道廳訓令第三十一號內務部、財務部、札幌醫學校、集治監、監獄署、郡區役所、戶長役場宛
明治二十四年十月當廳訓令第七十三號ヲ廢ス（歳入過誤納金下戻請求手續ノ件ナリ）
○明治二十五年二月二十日北海道廳訓令第十號出納官吏宛
現金出納簿ノ義來ル二十五年度以降別紙大藏大臣達第三五四號ニ據リ處理ノ義ト心得ベシ
但整理上其職務並主管廳ノ區別ヲ要スル場合ハ別ニ補助簿ヲ設ケ處理スベシ

（別　紙）

明治二十五年二月大藏大臣達第三五四號

出納官吏現金出納簿ノ儀從來一人ニシテ數職ヲ兼タル者ハ各職務（收入、現金前渡、雜部、出納官吏ノ類）並各主管廳毎ニ各別ニ調製ヲ要シ候處來ル二十五年度ヨリ右區別方ヲ廢シ一人一冊ヲ備ヘ總テ之ニ記入整理スル義ト心得ヘシ

○明治二十五年三月二十五日北海道廳令第十三號

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ於ケル納金收入規則左ノ通リ定ム

區町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

第一條　郡區役所戸長役場ニ於テハ小學校教員ノ納金收納事務ヲ整理スル爲ニ第一號及ヒ第二號書式ニ依リ納金臺帳及ヒ納金受拂簿ヲ設クヘシ

第二條　小學校教員ノ納金ハ郡區長戸長ニ於テ其所管部内教員ニ係ル納金ヲ毎月給料支給額ノ内ヨリ引キ去リ第三號書式ノ領收證書ヲ發スヘシ

第三條　前條ニ據リ郡區長戸長ニ於テ受領シタル金員ハ毎三ヶ月分取纏メ翌月五日限リ第四號及第五號書式ノ納付書及ヒ仕譯書ヲ添ヘ本廳ヘ納付スヘシ

第四條　前條ニ據リ納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ領收證書ヲ發スヘシ

第五條　郡區長戸長ニ於テ領收シタル納金ハ本廳ヘ納付ノ手續ヲ了スル迄郡區長戸長ニ於テ保管スヘシ

但郡區長戸長ハ過誤怠慢ニ依リ其領收シタル納金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ（二十六年六月廳令第十四號ヲ以テ但書改正）

第六條　小學校教員ノ給料額ニ對シ毎年區町村ヨリ納ムヘキ金員ハ前半年度分ヲ其年十月五日限リ後半年度分ヲ翌年四月五日限リ本廳ニ納付スヘシ

但其手續ハ第三條及第四條ニ同シ

第七條　本令ハ明治二十五年度ヨリ施行ス

（書式畧ス）



○明治二十五年六月十四日北海道廳訓第百六十號（財務部宛）

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法並同年法律第九十一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ關スル出納ノ事務ハ其部ニ於テ取扱フヘシ

○明治二十五年六月十四日北海道廳訓令第三十四號（郡區役所、戸長役場宛）

諸貸付金ヲ收入シタルトキハ收入官吏ニ於テ左ノ書式ニ據リ仕譯書ヲ調製シ收入報告書ニ添付差出スヘシ（書式略ス）

○明治二十六年二月二十三日北海道廳訓令第五號（内務部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、尋常師範學校宛）

明治二十三年十一月一會計檢査院達第一號第五條ニ據リ歳入調定官ノ差出スヘキ森林收入木竹拂下代及官吏遺族扶助法金調定額明細書左ノ通調製方會計檢査院長ヘ照會濟ニ付此旨心得ヘシ

一明治二十一年北海道廳令第三十一號官林木特賣規則ニ據リ收入スル木竹拂下代ハ別紙第一號書式ニ據ル

一明治二十三年法律第四十四號ニ據リ收入スル官吏遺族扶助法納金明細書ハ適宜總金額及事項ノ大要ヲ記シ別紙第二號書式仕拂命令官ノ報告書ヲ各月ニ編製添付スヘシ

（書式畧ス）

○明治二十六年三月十四日北海道廳訓第六十二號（收入官吏宛）

租税收入及税外諸收入證明規定ニ依リ提出スヘキ收入計算書首欄前年度未收入高ノ區ニハ明治二十五年四月大藏省訓令第二十五號ニ依リ翌年度ヘ繰越シタル調定額ヲモ併算掲記シ備考ニ其金額事

由ヲ明示スヘシ

○明治二十六年三月十五日北海道廳訓第五十一號（收入官吏宛）

明治二十五年四月大藏省訓令第二十五號ニ據リ進達スル税外諸收入繰越計算書ニハ別紙書式ノ繰越仕譯書ヲ製シ添付差出スヘシ

（別紙畧ス）

○明治二十六年八月十九日北海道廳令第三十三號

歳入過誤納金ノ拂戻ヲ請フモノハ別紙甲號書式ノ請求書ヲ其收入ヲ取扱ヒタル收入官吏ニ差出スヘシ

收入官吏ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ別紙乙號書式ノ拂戻要求書ヲ添付所屬調定官ヘ差出シ調定官ハ式ノ如ク與書シ本廳ヘ送付スヘシ

（書式畧ス）

○明治二十六年八月十八日北海道廳訓第二百三十六號（財務部、監獄署、同（龜田根室）支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、尋常師範學校宛）

明治二十六年度以降租税外諸收入取扱收入官吏交替（轉免死亡トモ）シタルトキハ二十三年四月大藏省訓令第五十四號第三條ニ據リ收入報告書ハ後任收入官吏ニ於テ調製スルハ勿論ニ候得共尚ホ前任收入官吏（死亡等ノ場合ニハ持命ヲ受ケタル計算書調製官吏）ニ於テモ其引繼ノ當日迄取扱ニ係ル金額ニ對シ特ニ收入額調書（書式ハ收入報告書ニ準シ題號ニ何年何月分トアルヲ何年何月何日迄ト掲記スルモノトス）ヲ調製シ後任收入官吏ニ引繼カシメ而シテ後任官吏ハ其調書ト帳簿ト對





照シ相違ナキコトヲ證明シ當月分收入報告書ヘ添付シ當廳ニ差出サシムヘシ

但本年四月以降既ニ交替又ハ死亡等アルモノハ此除特ニ本文ノ收入額調書ヲ調製シ來ル九月十五日迄ニ差出サシムヘシ

○明治二十六年十月五日北海道廳訓第二百七十六號（財務部、監獄署、同支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、尋常師範學校、收入官吏宛）

明治二十三年三月二十日當廳訓令號外ヲ以テ制定シタル調定元帳收入未濟金整理簿缺損金整理簿及缺損金明細書納入告知書ノ金額納期日細別表納期日後未納收入事由明細書ヲ廢シ更ニ調定元帳並ニ納入告知書ノ金額納期日及未納缺損額明細書收入未濟額ニ對スル收入濟額明細書樣式別紙之通リ相定ム

但本文明細書ハ委任ヲ受ケタル調定官ニ於テ調定元帳ヲ整理スルニ止メ當廳ニ送附ニ及ハス又調定官所在地外ノ收入官吏ハ補助簿トシテ本簿ヲ設備スルモノトス（二十六年十二月訓第三百五十四號ヲ以テ二十三年三月二十日訓令號外ヲ廢スト雖モ調定元帳收入濟額明細書ハ仍ホ本號書式ニ據ラシム）

（別紙畧ス）

○明治二十六年十二月二十三日北海道廳訓第三百五十四號（內務部、財務部、監獄署、同支署、雇治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館高業學校、收入官吏宛）

本年十一月大藏省訓令第四十二號ヲ以テ明治二十二年同省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序改正相成來ル二十七年一月一日ヨリ諸收入收納取扱規程施行相成候ニ就テハ左之通心得ヘシ

一　諸收入收納ニ關スル調定及監督ノ事務ヲ監獄署典獄同支署長（龜田根室）集治監典獄同分監長札幌

農學校長尋常師範學校長ニ委任ス

但警察署分署ニ於ケル諸收入收納ニ關スル調定監督ノ事務ハ郡區長ニ函館商業學校ニ於ケル同事務ハ函館區長ニ北海道廳種畜場七重分場ニ於ケル同事務ハ龜田郡長ニ委任ス

二　諸收入調定元帳ハ本年十月五日當廳訓第二百七十六號書式ニ據リ之ヲ調製ズヘシ

三　分任收入官吏ハ補助簿トシテ前第二項ノ帳簿ヲ設備スルモノトス

但調定官所在地ニ於ケル分任收入官吏ハ調定官設備ノ帳簿ヲ兼用スルコトヲ得

四　調定官所在地外ニ在ル分任收入官吏ハ本年十月五日當廳訓第二百七十六號別紙書式納入告知書ノ金額納期日及未納欠損額明細書收入未濟額ニ對スル收入濟額明細書ヲ收入報告書ニ添付シ所轄調定官ヘ差出スヘシ

五　分任收入官吏ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ過誤納金ヲ整理スヘシ

六　諸收入收納取扱規則第十三條ニ據リ分任收入官吏ヘ送付スル收入報告書付屬參照書類及同第四條ニ於ケル調定領報告書式並送付期限ハ追テ達スヘシ

七　明治二十三年三月二十日當廳號外訓令ハ總テ廢止ス

## ○租稅滯納處分

○明治二十年二月十六日北海道廳己第十四號達郡區役所戶長役場宛

登記法實施ニ付テハ公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方ノ義司法大臣ヘ照會ノ上別紙ノ通始審裁判所及登記所ヘ訓令相成タル旨大藏大臣ヨリ訓令アリ



右相達ス

（別紙）

司法省民第四四號

始審裁判所

登記所

租稅不納者公賣處分ノ際公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方區長若クハ戶長ヨリ照會アリタル時ハ登記所ハ速ニ登記簿及公證簿等ニ依リ債主ノ有無若シ債主アル場合ニ於テハ其住所氏名ヲモ調査シ回答ヲナスベシ

右訓令ス

司法大臣伯爵　山田顯義

明治二十年一月十九日

○明治二十年十一月三十日北海道廳訓令第百三十四號郡區役所戶長役場宛

租稅不納ニ係ル物件ニ關シ賣買讓與等總テ所有權移轉ニ就キ登記ノ有無ヲ郡區長若クハ戶長ヨリ問合アルトキハ所管ノ登記簿ニ依リテ調査シ直ニ回答ヲ爲スヘシト司法大臣ヨリ始審裁判所及登記所ヘ訓令セラレタル旨大藏大臣ヨリ訓令アリ

○明治二十一年十二月二十七日北海道廳訓令號外郡區役所戶長役場宛

租稅不納ニ係ル物件公賣處分ニ際シ債主ノ有無取調方郡區長若クハ戶長ヨリ照會アリタルトキハ登記法第九條記入ノ有無ヲモ取調若シ之アルトキハ權利者ノ住所氏名及差押差留等ノ命令書ヲ下

シタル裁判所ノ名ヲ示シ回答ヲナスヘシト司法大臣ヨリ登記所ヘ訓令セラレタル旨大藏大臣ヨリ訓令アリ

○明治二十三年三月十二日北海道廳訓令號外郡區長宛

（區町村費滞納處分ノ件第三類區町村費ノ部ニ出）

○明治二十四年十月三日北海道廳訓令第六十九號郡區役所宛

明治二十四年八月當廳訓令第六十五號ヲ廢ス（國税滞納處分施行實況報告書差出方ノ件ナリ）

○明治二十五年三月二十三日北海道廳訓令第十四號郡區役所宛

國税滞納處分報告表明治二十四年度分ヨリ明治二十五年二月大藏省訓令第五號樣式ニ準シ調製シ翌年度四月三十日迄ニ進達スヘシ

但地方税滞納處分ノ義ハ本文ニ準シ同樣報告スヘシ

○明治二十五年十二月二十三日北海道廳訓第三百七號郡區役所宛

明治二十三年一月大藏省令第一號國税怠納處分法施行細則第十條缺損票申ハ自今別紙樣式ニ準シ調製差出スヘシ（樣式ハ略ス）

○明治二十六年三月九日北海道廳訓令第五十五號郡區役所宛

地方税徴收方往々緩慢ニ流レ滞納者アルモ相當ノ手續ヲ怠リ甚シキハ翌年度迄モ其儘繰越整理上益々繁雜ヲ來タスノミナラス爲メニ納人及財産ノ所在ヲ失ヒ終ニ損失ニ歸セシムル如キ向モ有之不都合ニ候條爾後右等ノ義無之樣篤ト收入官吏ヘ諭示スヘシ





## ○租税検査

○明治二十四年十月二十八日北海道廳告示第四十號

租税検査員派出所名稱位置管理區域左ノ通定ム但明治二十四年八月當廳告示第二十四號中租税検査員派出所ノ文字ヲ删除ス（告示第第二十四號ハ第二類土地地理課派出所ノ部ニ出ツ）

| 名稱 | 位置 | 管理區域 |
|---|---|---|
| 租税検査員小樽派出所 | 小樽郡小樽 | 後志國。小樽、高島、忍路、余市、古平、美國、岩内、七郡 |
| 同札幌派出村 | 札幌區 | 石狩國。札幌區、札幌、石狩、厚田、三郡 |
| 仝函館派出所 | 函館區 | 渡島國。函館、亀田、檜山、松前、一區三郡（廿六年三月告示第廿三號ヲ以テ檜山松前ノ二郡ヲ加フ） |

（二十六年三月告示第二十二號ヲ以テ江差根室ノ兩派出所ヲ廢止ス）

○明治二十四年五月十六日北海道廳訓第四十五號第三部宛

租税検査官吏服務規程別冊ノ通相定ム

（別冊）

### 租税検査官吏服務規程

#### 第一款　總則

第一項　租税検査官吏ハ上官ノ命令ニ從ヒ公平忠實其職務ニ服スヘシ

第二項　租税検査官吏ハ人民ノ財産ニ關スル職務ヲ行フヲ以テ特ニ其素行ヲ修メ勤儉ヲ守リ廉耻ヲ重ンシ苟モ他人ノ指摘ヲ受クルコトナキヲ要ス

第三項　租稅檢査官吏ハ執務ノ機敏果斷ナルヲ要ス

第四項　租稅官吏ハ各其他位ニ從ヒ相犯スコトナク互ニ禮讓ヲ守リ補翼奬勵シテ其職務ヲ全フスルヲ要ス

第五項　租稅檢査官吏ハ檢査印章ヲ携帶シ臨檢ノ際ニハ先ツ其臨檢ノ要旨ヲ告ケ檢査ニ着手スヘシ但該印章ハ受檢人ノ求メニ應シ之ヲ示スヘシ

第六項　租稅檢査官吏人民ニ接スルニハ相當禮節ヲ失フヘカラス其擧止最モ温厚端正ニシテ自カラ他ノ敬重ヲ受クルノ實アルヲ要ス

第七項　租稅檢査官吏ハ平素注意ヲ加ヘ檢稅ニ關スル物品ノ製造方法物價及營業家ノ情態ヲ熟知シ檢査ノ參考ニ供スルヲ要ス

第八項　租稅檢査官吏ハ人民ニ於テ無禮失言其他粗暴ノ擧動ヲ爲スカ又ハ職務ヲ妨害スル者アル場合ニ於テハ平穩適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第九項　檢稅事務ハ周到緻密ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ徒ラニ事ヲ繁細ニシテ人民ノ煩ヲ增シ或ハ時間ヲ空過セシムルカ如キコトアルヘカラス

第十項　租稅檢査ヲ行フニ當リテハ人民ノ財産ニ就テ調査ヲ爲シタル事項ニ關シテハ職務上必要アル場合ノ外決シテ他人ニ漏洩スヘカラス

第十一項　普通ノ檢査ニ於テ營業物件諸帳簿等ヲ檢査スルト犯則アリト認知シ又ハ思料シテ證憑ヲ搜査スルモノトハ取扱ヒ自カラ區別ナカルベカラス故ニ普通ノ檢査ニ於テハ必ス營業人又ハ





其家族雇人ノ内ヲ立會ハシメ戸扉其他ノ開閉等ハ證憑隱匿湮滅ノ恐レ有テ已ムヲ得サルトキハ外其立會人ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ要ス

逋稅者犯則者多キハ種々原因アルベシト雖モ亦平常ノ注意ヲ密ニシ遂ニ大ニ逋稅者犯則者ヲ減センコトヲ期スルヲ要ス

第十二項　犯則者ノ取扱ハ甲乙其處分ヲ異ニスヘカラサルハ勿論ナリト雖モ外面上ヨリ視ル時ハ同一ノ犯跡ナルモ其情狀及被害ノ實際ニ於テ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ犯則ヲ發見セシトキハ其實際ノ如何ヲ精査シ若シ其所爲故意ニ出タルニモアラス又逋稅トナルベキ恐ナキモノヽ如キハ明リニ之ヲ告發セス其實際ノ情況ヲ上官ニ具シ指揮ヲ請フヘシ

## 第二欵　監督員

第十三項　監督員ハ上官ノ旨ヲ受ケ之ヲ首席檢査員ニ傳達指示スルコトアルヘシ若シ止ムヲ得サル事故アルトキハ直ニ檢査員ニ傳達指示スルトキハ其事柄ヲ首席檢査員ニ通知スヘシ

前項傳達指示シタルトキハ傳達簿ニ其要旨年月日及場處等ヲ記載シ其傳達指示ヲ受ケルモノヲシテ之ニ承印セシメ置キ上官ノ檢閲ニ供スヘシ

第十四項　監督員ハ豫メ日限ヲ定メ其擔當地ノ視察ヲ了リ歸廳シタルトキハ上官ニ視察上ノ實況及自己ノ意見ヲ具陳スヘシ

第十五項　監督員ハ常ニ左ノ事項ヲ視察スヘシ

一　首席檢査員及檢査員ノ素行勤惰並服務ノ當否

一　首席檢査員ノ檢査員ニ對スル指示其宜キヲ得ルヤ否
一　首席檢査員及檢査員ハ能ク一致調和シテ處分ニ勉勵スルヤ否
一　首席檢査員及檢査員ノ營業人其他ニ對スル措置其宜キヲ得ルヤ否
一　諸稅檢査ノ時機ヲ緩慢ニシ又ハ徒ラニ煩雜ノ手數ヲ爲シ人民ニ不便ヲ感セシメ或ハ不取締ノコトナキヤ否
一　諸稅ノ檢査又ハ犯則ノ證憑取調ニ際シ苛察ニ涉ルノ所爲ナキヤ否
一　稅務上人民ノ感觸及諸營業ノ盛衰如何
一　稅額ノ增減犯則者ノ多寡及其原由
一　諸印紙賣捌方ノ景況
一　派出所簿冊ノ整理及事務取扱順序宜キヲ得ルヤ否
一　派出所ト郡役所其他ノ官衙トノ關係宜キヲ得ルヤ否
一　派出所備品消耗品ノ使用方其當ヲ得ルヤ否

第十六項　監督員前條視察中不都合ノ廉アリ又ハ必要アリト認ムルトキハ其事情ヲ査覈シ直ニ首席檢査員ニ對シ相當ノ指示ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ上官ニ具申スヘシ但シ事重大ニ涉ルモノハ上官ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ

第十七項　監督員巡回ノ際ハ監督日誌ヲ携帶シ當日視察ノ事故ハ細大トナク記載シ一ヶ月毎ニ其要領ヲ上官ニ具申スヘシ但シ事重大ニ涉ルカ又ハ急速ヲ要スル事件ハ其時々具申スヘシ





第十八項　監督員ハ首席檢査員及檢査員ノ巡回日誌ヲ檢閲シ其年月日ヲ記載之ニ檢印スヘシ

第十九項　監督員ハ檢稅事務ノ繁閑其他ノ事情ニ依リ檢査員配置ノ適否ニ注目シ意見アレハ之ヲ上官ニ具申スルコトヲ得

第二十項　監督員巡回ノ際必要ト認ムルトキハ自カラ營業家ニ臨檢スルコトヲ得前項臨場ノ際犯則者ヲ發見シタルトキハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其顚末ヲ首席檢査員又ハ檢査員ニ通報スヘシ

但取調中檢査員臨場シタルトキハ其處分方ヲ引繼クヘシ

## 第三欵　首席檢査員

第二十一項　首席檢査員ハ所管內諸稅檢査ニ關スル諸般ノ事務ヲ整理スルモノトス

第二十二項　首席檢査員ハ常ニ其區內檢査員ノ素行勤惰及其執務上一切ノ事項ニ注意シ若シ不都合ト認ムル廉アルトキハ直ニ本人ニ忠告シ本人肯セサルトキハ上官ニ具申スルコトアルベシ

第二十三項　首席檢査員ハ檢査事務ノ繁閑ト土地ノ嶮夷トニ應シ檢査員擔當ノ方面ヲ定メ之ヲ分擔錄ニ記載シ承印セシムヘシ

第二十四項　首席檢査員ハ常ニ巡回日誌ヲ携帶シ當日取扱ヒタル事件ハ遺漏ナク之ヲ記入シテ監督員ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十五項　首席檢査員ハ檢査員ノ巡回日誌ヲ檢閲シ之レニ檢印スヘシ

第二十六項　首席檢査員ハ上官ノ命令若クハ監督員ノ傳達指示ヲ受ケ之ヲ檢査員ニ傳達ス

第二十七項　首席檢査員ハ派出所內緊要ノ處務アル場合ノ外勉メテ區內ヲ巡回シテ檢査事務ヲ執ルヘシ但巡回ハ必要アルトキノ外派出所近傍ニ止ムヘシ

第二十八項　首席檢査員ハ事務取扱上成規例格ナキ者ニ付テハ上官ニ稟議シ指揮ヲ請フヘシ

第二十九項　首席檢査員ハ逋稅ノ準備ヲ爲ス者アルコトヲ覺知シタルトキハ直チニ上官ニ急報シ指揮ヲ受クヘシ但緊急ノ場合ニ於テハ警察官又ハ郡長ニ其取締方ヲ協議スルコトヲ得

第三十項　告發者ハ首席檢査員ニ於テ之ヲ檢閲シ裁判所ニ送致スルモノヽ若シ意見アルトキハ其旨ヲ主任檢査員ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ若シ疑似決シ難キトキハ之ヲ上官ニ稟申シテ指揮ヲ受クヘシ

第三十一項　犯則事件他區ニ干涉シ照會スルモ其事實ヲ盡クス能ハサル場合ニ於テハ其旨ヲ上官ニ具申シ許可ヲ得出張シ該區首席檢査員又ハ檢査員ニ協議シ實地立會取調ヲ爲スヘシ若シ證憑湮滅ノ恐アリテ照會又ハ具申許可ヲ得ルノ暇ナキトキハ直ニ出張取調ヘ其顚末ヲ具申スヘシ

前項場合ニ於テ差支アルトキハ檢査員ヲ出張セシムルコトヲ得

第四欵　檢査員

第三十二條　檢査員ハ首席檢査員ノ指示ヲ受ケ檢査事務ニ從事スヘシ

第三十三條　檢査員ハ毎月一日諸稅檢査簿ヲ携帶派出所ニ來集シ相互ニ執務ノ狀況ヲ通告シ且ツ報告事務ヲ取扱フヘシ事故アリ當日參集シ能ハサル場合ニ於テハ諸報告ニ要スル材料ヲ通報スヘシ

第三十四項　檢査員ハ執務上成規例格ナキモノ又ハ疑義ニ涉ルモノハ首席檢査員ノ指示ヲ受クヘシ

第三十五項　檢査員ハ常ニ巡回日誌ヲ携帶シ當日取扱ヒタル事件ハ遺漏ナク之ヲ記入シテ首席檢査員ノ檢印ヲ受ケ且ツ監督員巡回ノ都度檢閲ニ供スヘシ但其巡回日誌ヲ改ムルカ又ハ轉免等ノ時ハ舊日誌ヲ首席者ニ引繼クヘシ

第三十六項　檢査員ハ檢査上他檢査員ノ取扱ヒタル所ノモノニ違算誤寫等ヲ發見シタルトキハ直ニ訂正シ首席檢査員ヘ申報スヘシ若シ訂正シ難キ場合ニ於テハ首席檢査員ノ指示ヲ受クヘシ

第三十七項　檢査員檢査セシ事件ニ付テハ已ムヲ得サル事故アルニ非レハ其日ニ於テ檢査簿ノ記入精算等ヲ結了スヘシ

第三十八項　檢査員ハ常ニ營業ノ擧動ニ注意シ若シ逋稅ノ準備ヲ爲スモノアルコトヲ探知シタルトキハ首席檢査員ニ通報シテ時機ヲ失ハサル樣其取締ノ準備ヲ爲スヘシ

第三十九項　檢査員犯則ヲ檢擧シ之ヲ告發セントスルトキハ其告發書ヲ首席檢査員ニ送附シ檢閲ヲ受クヘシ

第四十項　檢査員ハ常ニ巡回中檢査事務ニ開シ戶長ニ協議シ又ハ部內ノ景況ヲ尋問シ必要ノ件ハ首席檢査員ニ通報スヘシ

○明治二十二年十一月十四日北海道廳告示第五十號

諸稅監査員臨監ノ節ハ左ノ印章ヲ携帶セシム

（用紙厚紙）

表面

番號

北海道廳之印

曲尺二寸壹分

曲尺二寸壹分

裏面

一諸稅監査ノ爲巡回ノ節ハ此ノ印章ヲ携帶スヘシ

一此ノ印章ヲ携帶セサルモノハ諸稅ノ監査ヲ爲スコトヲ得ス

一人民ニ對シ若シ直接ニ監査ヲナズコトアルトキ此印章ヲ一覽セシト請フ時ハ之ヲ開示スヘシ

○明治二十四年五月十六日北海道廳告示第十二號

租稅檢査員臨檢ノ節ハ左ノ印章ヲ携帶セシム

（用紙厚紙）

表面

番號

北海道廳之印

曲尺貳寸三分

曲尺貳寸三分

裏面

一租稅檢査ノ節ハ此ノ印章ヲ携帶スヘシ

一此印章ヲ携帶セサルモノハ租稅ノ檢査ヲスコトヲ得ス

一此ノ印章ヲ人民ニ於テ一覽セシト乞フモノアルトキハ之ヲ示スヘシ





○明治二十四年十二月二日北海道廳告示第四十四號

租稅檢査分任地方ノ租稅檢査員ハ自今左ノ印章ヲ携帶セシム

（用紙厚紙）

表面

番號

郡區長ノ印

曲尺二寸三分

曲尺二寸三分

裏面

一租稅檢査ノ節ハ此ノ印章ヲ携帶スヘシ

一此印章ヲ携帶セサル者ハ租稅ノ檢査ヲ爲スヿヲ得ス

一此ノ印章ヲ人民ニ於テ一覽セシト乞フモノアルトキハ之ヲ示スヘシ

○明治二十二年十二月十三日北海道廳訓令第五十四號（郡區役所宛）

稅務檢査規程左ノ通相定ム

但明治十九年四月當廳己第四拾壹號達同年四月根室支廳乙第貳拾四號達ハ廢ス

稅務檢査規程

第一條　郡區役所ノ稅務ハ隨時第三部租稅課員ヲ派遣シ之ヲ監査セシム

第二條　監査員ハ左ノ事項ヲ監査スルモノトス

一　租稅檢査ノ當否

一　租税検査區畫及検査員配置方
一　印紙類ニ關スル取扱方
一　諸税ニ關スル帳簿ノ整否
一　賦税誤脱ノ有無
一　諸税賦課徴收方ノ適否
一　諸税不納處分ノ適否及不納ノ狀況
一　諸税金取扱方
一　税務ニ關スル諸申報ノ整否

第三條　監査員ハ前條ノ事項ニ付郡區長並ニ検査員ニ對シ質議説明ヲ求メ又ハ意見ヲ述フルコトヲ得

第四條　監査員ハ實地検査ノ立會ヲ爲シ又ハ自ラ臨時營業家ニ就キ検査ノ實況ヲ視察スルコトヲ得

第五條　監査上時宜ニ依リ戸長役場幷ニ收税委員ニ就キ税務ノ實況ヲ視察スルコトヲ得

第六條　監査ニ係ル實況及郡區長其他ニ協議ヲ遂ケタル事項ハ毎月末第三部長ヘ開申スルモノトス

○明治二十一年十一月十三日北海道廳訓令第七十三號郡區役所宛
租税酒造税證券印税煙草税寶藥税船税車税検査例則別冊ノ通相定メ明治十九年四月當廳己第三拾四號己第三拾八號己第三拾九號己第四拾號同年五月己第五拾八號及同年五月根室文廳乙第二拾七號達ハ廢止ス

但別冊ハ別ニ頒ツ

（別冊）

租税酒造税證券印税煙草税寶藥税船税車税検査例則

第一欵　通則

第一項　租税検査ハ營業者ノ多寡ト地形ノ便否トヲ考察シ所管内ヲ數區ニ分畫シテ検査員ノ擔當地ヲ定ムルモノトス

第二項　検査員ハ郡區書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三項　検査員ハ法規成例ニ從ヒ正當ヲ目的トシ租税ノ検査ヲ爲スヲ以テ職分トス

第四項　検査員ハ毎區首席者ニ於テ其區内ノ事務ヲ主幹シ其責ニ任スヘシ

第五項　派出検査員ノ宿所及検査擔當地ハ検査員ヨリ豫メ營業者ヘ示達スヘシ

第六項　出張中租税検査ニ關スル願屆ハ検査員ニ於テ受付スヘシ尤不在ノ場合ハ便宜受付ノ方法ヲ設ケ置クヘシ

第七項　検査員ハ検査上便宜ト認ムルコトアリト雖トモ專斷ヲ以テ成規外ノ處置ヲ爲コトヲ得ス

第八項　検査上成規例格ニ疑義ノ件アルトキハ事ノ細大ヲ問ハス主幹検査員ニ於テ郡區長ノ指揮ヲ請フヘシ

第九項　租税ノ検査ヲ出願シタルトキハ時期ノ緩急ヲ計リ時日ヲ移サス出張検査スヘシ

第十項　檢査ニ關スル尋問應答ハ其本人ニ就キ之ヲ爲スヘシ若シ本人不在ナルカ或ハ事故アルトキハ代理ノ責任アル者ニ就キ之ヲ爲スヘシ

第十一項　檢査中擔當區外若クハ他管ノ徵證トナルヘキ事實アルトキハ其他區ニ係ルモノハ該區檢査員ニ通知シ他管ニ係ルモノハ郡區長ヘ報告スヘシ

第十二項　檢査員ニ轉免アルトキハ該員ニ於テ擔當セル事務ハ引繼目錄及演說書ヲ作リ交代員ヘ引繼ヲ爲スヘシ

## 第二欵　酒造稅檢査

### (壹)　酒造場調査

第十三項　檢査員ハ造酒着手ノ如何ヲ問ハス十月中ニ必ス擔當區內各酒造場ヲ一巡スヘシ此場合ニ於テハ先ツ營業者ニ自己ノ官職姓名及其事由ヲ告ケ第十四項ヨリ第十八項マテノ順序ニ隨フヘシ

第十四項　免許鑑札ヲ出サシメ鑑札面記載ノ廉ヲ點檢シ事實相違ノ廉アルトキハ訂正ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五項　酒造場ハ繪圖面及調書ニ對照シ區域ノ內外ハ勿論諸建物ノ構造其他二階穴藏ニ至ルマテ細密調査ヲ若シ相違アラハ夫々訂正セシムヘシ

但本項調査濟ノ上ハ檢査簿ニ記入スヘシ

第十六項　酒造用諸器械（桶類トモ以下之ニ準ス）調査簿及調書ニ對照シ遺漏ナク調査ヲ遂クヘシ尤調査濟ノ上ハ檢査簿ニ記入スヘシ

但搾リ器械及蒸溜器械ハ封緘ノ體面如何ニ注意スヘシ

第十七項　現在酒類ヲ調査シ而シテ酒造米買入及杜氏備ヒ入レ麹室修築等ノ模樣ヲ尋問シ造酒着手ノ期日ヲ豫知シ置クヘシ

第十八項　酢元用酒類製造營業者ノ諸器械ハ酒造用ト酢造用ト區別スルハ勿論其兼用スルモノハ酒造用ノ部分トシテ調査スヘシ

第十九項　造酒着手后臨檢ノ場合ニ於テハ酒造場ハ勿論酒造米仕拂高麹使用高現在高等苟モ取締上必用ト認ルムモノハ必ス點檢スヘシ

### (貳)　酒造用諸器械調査

第二十項　桶類ノ新調修繕ヲ屆出タルトキハ成規ノ丈量法及算則ニ依リ詳密調査ノ上容量調査簿ニ記入シ桶ノ正面ヘ左ノ件々ヲ記載シテ官ノ烙印ヲ捺スヘシ（二十三年十月訓令第六十九ヲ以テ改正）

| 番號 | | |
|---|---|---|
| 口徑 | 何尺何寸何分 | |
| 第一胴徑 | 何尺何寸何分 | |
| 第二胴徑 | 何尺何寸何分 | |
| 第三胴徑 | 何尺何寸何分 | |
| 底徑 | 何尺何寸何分 | |

深　サ　何尺何寸何分

第二胴徑以上石數何石何斗何升何合

第二胴徑以下石數何石何斗何升何合

合石數何拾何石何斗何升何合

年　號　月　日　　調　査　　烙印

第二十一項　（二十三年十月訓令第六十九號ヲ以テ刪除）

第二十二項　（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ刪除）

第二十三項　調査濟ノ桶甕類ヲ賣買讓與貸借又ハ返却シタルトキハ其賣買讓與ニ係ルモノハ番號ヲ改メ調査簿及檢査簿ヲ加除シ其借受ニ係ルモノハ假番號ヲ附シ調査簿ニ朱書スヘシ（二十三年十月訓令第六十九號ヲ以テ尤貸渡云々二十六字ヲ刪除ス）

但營業者ニアラサルモノハ賣渡スカ又ハ破解セシトキハ桶側面ノ烙印並ニ記載ノ件々ヲ削除シ且調査簿及檢査簿ヲ訂正スヘシ

第二十四項　前項桶甕類ノ外諸器械ヲ營業者ニ非サルモノヘ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ檢査簿ヲ訂正スヘシ（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ改正）

第二十五項　（二十三年十月訓令第六十號ヲ以テ刪除）

第二十六項　新製若クハ買受ケ又ハ讓受ケタル桶甕類ハ調査簿ノ順次ヲ逐ヒ番號ヲ附記シ諸器械





ハ檢査簿ヲ訂正スヘシ

但調査濟ノ桶甕類ニ欠號アルトキハ本項ノ桶甕類ヲ以テ補充スヘシ

第二十七項　廢業者ニシテ調査濟ノ酒造用容器械ヲ其儘存置セントスル者ハ烙印及桶側面記載ノ件々ヲ必シモ削除スルニ及ハス（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ改正）

（三）　器械封緘及解披

第二十八項　搾リ器械蒸溜器械ヲ封緘シ及解披スルトキハ其時々檢査簿封緘解封部ニ登記スヘシ（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ改正）

第二十九項　搾リ器械及蒸溜器械ヲ修繕若クハ洗滌センカ爲メ解披ヲ請フトキハ其事實及日數ヲ審査シ封緘ノ全部若クハ一部ヲ解クヘシ

第三十項　搾リ器械ハ醪ノ石高蒸溜器械ハ元粕ノ斤量及元酒類石數ニ從ヒ使用日數ヲ査定シテ后之ヲ解クヘシ

第三十一項　解披ノ期限滿チタルトキハ速ニ出張シテ封緘ヲナスヘシ其封緘ノ手續左ノ如シ

但封緘用紙ハ郡區役所ノ印章アルモノヲ用ヒ之ニ年月ヲ記入シ檢査員捺印スヘシ

一　酒槽樋口ニ相當スル栓ヲ以テ穴ノ內部ヨリ嵌入シ流出ノ患ナキ樣緊束スヘシ（二十三年十月訓令第六十九號ヲ以テ改正）

一　男柱ハ繩ヲ以テ第二圖ノ如ク堅束シ封緘スヘシ

一　蒸溜器械ハ甑ノ樋口ヘ繩ヲ引通シ第三圖ノ如ク緊束封緘スヘシ

一　兜釜ハ內部ヘ封緘ヲ貼付スヘシ

（四）　酒類元檢査

第三十二項　酒醅蒸米麴米等ヲ半切桶ニ混和シタル日ヲ以テ醅立ノ日ト定メ巡回ノ都度仕込帳ノ醅立順號ニ對照シ其個數及米水ノ割合等ヲ豫メ點檢シ置クヘシ

但水醅ハ米ヲ浸シ母飯ヲ入レタル日ヲ以テ醅立ノ日ト定ムヘシ

第三十三項　酒醅檢査ハ仕込帳醅立ノ順號ニ對照シ其個數及熟不熟トヲ審査シテ熟成ノ分ニ限リ檢査スヘシ

但檢査ヲ了リタルモノハ檢査簿ニ登記シ仕込帳ニハ檢印ヲ爲スヘシ

第三十四項　買入醅ハ仕切書又ハ受取證ニ據リ檢査スヘシ尤蒸米麴米汲水等ハ其製造方法ニ據リ仕込帳ノ醅立順號ニ組入レ買入ノ月日トモニ記載セシメ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五項　檢査濟ノ酒醅數個ヲ一桶ニ合併シテ之ヲ使用スルモノハ臨檢ノ時々現在石數ヲ點檢シテ不取締ナキ樣注意スヘシ

第三十六項　弱醅ハ豫メ調査ヲ遂ケ置クヘシ尤仕込ニ至リ掛米ヲ減シ又ハ醅數ヲ增加シ又ハ既ニ仕込タル醪ヘ之ヲ混和セントスル場合ニ於テハ讓造方法ノ變換屆ヲ爲サシムヘシ

第三十七項　腐敗醅ハ其使用見込ヲ立テサセ檢査ヲ爲シ檢査簿ニ其事由ヲ記載シ之ヲ他酒類ニ變製セントスルモノハ更ニ變製酒醅トシテ該檢査簿ニ登記スヘシ若シ之ヲ變製スルヲ得スシテ販賣又ハ廢業トナスモノハ不取締ナキ樣注意スヘシ（二十四年十一月訓令第百七十號ヲ以テ改正）





第三十八項　不用ノ酒醅ヲ同業者ヘ賣渡ストキハ双方ヨリ屆出サシメ調査ノ上賣渡人ハ仕込帳及檢査簿ニ其事由ヲ記載シ其買受人ハ第三十四項ニ準シテ檢査ヲ爲スヘシ（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ改正）

第三十九項　甲乙二ケ所ノ免許ヲ受ケシモノ甲ノ酒造場ニテ製造シタル酒醅ヲ乙ノ酒造場ヘ移サントスルモノハ前以テ申出サセ調査ノ上甲ハ第三十八項賣渡人乙ハ第三十四項買受人ノ手續ニ準シテ檢査ヲ爲スヘシ

但醪及製酒モ本項ニ準ス

第四十項　酒醅ハ個數ヲ檢査シ若シ其石數製造方法ニ對照シ不相當ト思料スル場合ニ於テハ現石ノ數ヲ丈量スヘシ

第四十一項　酒醅ハ清酒醅濁酒醅ト區別ヲ立テ仕込帳記載方其他ニ至ルマテ混同セサル樣注意檢査スヘシ

第四十二項　燒酎酒精ノ元ニ供スル原質物ハ釀造酒類酒粕其他何ノ種類ヲ問ハス之ヲ檢査シ檢査簿ニ登記スヘシ

第四十三項　元粕檢査ハ自製ト買入トヲ問ハス粕目方帳又ハ仕切書等ニ對照シテ其斤量ヲ調査スヘシ尤多量ニシテ一時調査シ能ハサルモノハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ調査スヘシ

第四十四項　白酒醅ニ供スル爲メ釀造スル清酒ハ醅醪清酒ト順次檢査ヲ遂ケ其石數ハ白酒檢査簿ニ登記スヘシ

但白酒味淋銘酒等ノ元ニ蒸溜スル燒酎ハ燒酎檢査順序ニ隨ヒ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五項　酢元用酒類ノ醋ハ清酒醋檢査ノ手續ニ據ルヘシ尤酒醋ノ儘酢ヲ製造スルモノヽ如キハ酒醋ヲ以テ造石高ヲ査定スヘシ

（五）　醪檢査

第四十六項　醪ハ巡回ノ都度仕込帳ノ順號ニ對照シ添中留ノ仕込順序ニ隨ヒ桶ノ配合方酒醋幷ニ蒸米麹米汲水等ノ割合及其熟不熟ヲ點檢シ置クヘシ

第四十七項　醪檢査ハ歩合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定シテ檢査簿ニ登記スヘシ（二十四年十一月訓令第百七十號ヲ以テ醪檢査ハノ下「留掛ノ日ヨリ數日ヲ經テ全ク熟成洗冷ニ至リシモノニ限ルヘシ而シテ之レカ」ノ三十四字刪除）

但檢査ヲ爲シタルモノハ其時々仕込帳ニ檢印ヲ爲スヘシ

第四十八項　醪石數不相當ト思料スル場合ニ於テ若シ仕込タル米水ノ數數ニ誤謬アルコトヲ申出テ事實相違ナキトキハ造リ方法ヲ訂正セシメ之ヲ檢査スヘシ

第四十九項　檢査未濟ノ醪ヲ都合ニ依リ數仕舞合併セントスルトキハ譬ヘハ二タ仕舞又ハ四仕舞ト其分界ヲ立テシメ製酒檢査ニ至リ石數歩合等ヲ判別シ易ラシムヘシ

第五十項　第一類酒ノ醪ハ熟成ト否ニ拘ハラス臨場ノ時々入實深ノ中心ヲ量リ檢査簿ヘ記載スヘシ（二十三年十月訓令第六十九號ヲ以テ改正）

但醪石數ヲ記載スルハ適宜タルヘシ

第五十一項　熟成ノ醪又ハ濁酒ヘ枝掛ケ即チ掛米ヲ爲サントスルモノハ造リ方法變換ト見做シ着手前屆出サシムヘシ



第五十二項　營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ同業者ヘ賣渡サントスル爲メ双方連署ヲ以テ屆出タルトキハ之ヲ檢査シ賣渡人ノ檢査簿仕込帳ニハ其事由ヲ記載シ買受人ノ檢査簿ハ醋醪ノ部ヘ更ニ之ヲ登記スヘシ（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ「仕込帳」ノ三字ヲ挿入）

但仕込帳ヘハ其順號ニ組入レ買入月日トモ記入スヘシ

第五十三項　酢元用酒類ノ醪ハ清酒醪檢査ノ手續ニ據ルヘシ尤モ醪ノ儘酢ニ製造スルモノハ其醪ヲ以テ造石高ヲ査定スヘシ

（六）　製成酒檢査

第五十四項　清酒ノ檢査ヲナスニハ槽掛中ニ於テ臨時巡回ヲ爲シ垂歩合ヲ點檢スルヲ要ス而シテ其歩合ハ手帳等ニ筆記シテ他日造石檢査ノ參照ニ供スヘシ

但本項ヲ點檢スルニハ例ヘハ醪若干石ヲ二タ槽即チ二回搾リ揚クルモノハ先其搾リ切リ一回ノ時日ヲ期シテ臨檢シ搾リ殘ノ現醪石數ヲ計量シ而シテ槽ニ掛ケタル醪石數ヲ得之ニ對スル清酒ノ垂歩合ヲ算出スルカ如シ

第五十五項　清酒檢査ニ方テハ醪ノ熟否ト粕斤量ノ多寡ヲ計考シテ醪垂レ肉垂レ歩合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定シ檢査簿ニ登記スヘシ

第五十六項　（二十三年十月訓令第十九號ヲ以テ刪除）

第五十七項　清酒ハ仕舞數ノ分界ヲ立テ檢査スルヲ要ス尤其分界ハ醪石數ノ多寡ト搾リ器械ノ都合トニ據ルヘシ故ニ其分界ハ醪檢査又ハ器械解披ノ時ニ於テ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

第五十八項　清酒ハ第壹號仕込搾リ揚ケノ場合ニ於テハ特ニ其垂歩合ノ當否ニ注意スルヲ要ス若シ垂歩合不相當ニシテ其目的ヲ達セサルノ間ハ一ト仕舞毎ニ檢査ヲ爲シ數仕舞ヲ合併シテ搾リ揚クルコトヲ許スヘカラス

但既ニ桶二本ヘ三仕舞ノ醪ヲ合併シタルモノヽ如キハ桶壹本毎ニ分界ヲ立ツヘシ

第五十九項　營業者ノ都合ニ依リ搾リ中ニ於テ清酒ノ檢査ヲ請フトキハ第五十四項但書ニ準シ其分界ヲ明瞭ニセサル上ハ檢査ヲ爲スヘカラス

第六十項　酒類ノ粕漉ヲ爲サント申出ルトキハ其酒類石數ハ勿論粕斤量ヲ檢査シ而シテ醪石數ヲ計量スヘシ尤此場合ニ於テハ營業者ヨリ該石數ヲ明記シタル受書ヲ徵シ置キ尙製成之上其石數ヲ檢査スヘシ

但製成ノ上增石シタルモノハ其增石及事由トモ檢査簿ニ登記スヘシ

第六十一項　檢査既濟ノ新酒ヘ古酒ヲ混和シテ火入即チ煮込ヲナサントスルトキハ前以テ申出サセ該石數ヲ計量シ酒藏出張ニ記載セシメ之レニ檢印スヘシ尤火入濟ノ上ハ再ヒ調査スルコトアルヘシ

第六十二項　檢査未濟ノ清酒ヲ白酒元ニ供セント申出ルモノアルトキハ其清酒檢査簿ニハ清酒石數ノ外書ニ其石數及事由ヲ記載シ更ニ白酒檢査簿ニ於テ元檢査ノ手續ヲナスヘシ

但燒酎ヲ白酒味淋銘酒ノ元ニ爲サントスルモノモ本項ニ準スヘシ

第六十三項　非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ事實審査ヲ遂ケ其變製シ得ヘキモノト廢毀ニ屬スヘキモノトヲ區別セシメ變製シ得ルモノハ更ニ變製酒ノ元トシテ檢査簿ニ登記シ變製シ得サルモノ及ヒ廢棄セントスルモノハ不取締之ナキ樣適宜處分スヘシ

第六十四項　濁酒及ヒ白酒ノ檢査ハ清酒醪檢査ノ手續ニ準據スヘシ

第六十五項　燒酎酒精ノ檢査ハ蒸溜帳ニ就キ元粕ノ斤量及元酒類ノ石數其蒸溜方法及器械ノ精粗等ヲ審査シ垂歩合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定スヘシ

但檢了シタルトキハ蒸溜帳ニ檢印ヲ捺シ置クヘシ

第六十六項　味淋銘酒等ノ檢査ハ都テ清酒檢査ノ手續ニ準據スヘシ

第六十七項　買入酒ハ仕切書送狀等ヲ檢閲シ賣主ノ住所氏名及ヒ買入レノ年月日石數價格等調査ヲ遂ケ檢査簿ニ登記スヘシ

一　但檢査ハ可成的販賣及消費以前ニ於テ爲スヘシ

第六十八項　味淋銘酒等其釀造方法ニヨリ醪ノ上澄ヲ汲取リ再ヒ燒酎ヲ加入スルモノアリ是等ハ最初仕込ノ燒酎石數ヲ計量シ次ニ醪熟成ノ期ニ至テ其石數ヲ査定シ尙立會ノ上上澄ヲ汲取ラセ其汲取タル石數及二番掛ニ爲スヘキ燒酎並ニ掛ケ卒リタル醪石數トモ順次之レカ檢査ヲ爲スヘシ

第六十九項　製成酒ノ檢査ヲ爲シタルトキハ仕込帳計檢査月日ノ下ニ認印スヘシ（二十三年訓令第六十九號ヲ以テ改正）

第七十項　酒精ヲ蒸溜セン爲メ燒酎ヲ再溜セントスルトキハ其着手以前燒酎高ヲ計量シ再溜シタル酒精ノ步合當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定スヘシ

第七十一項　再製酒ノ元ニ供セン爲メ檢査ヲ受タル酒類事故アリテ製造スルヲ得スシテ見込石高ヲ減却セントスルトキハ其元酒類ハ更ニ其石數ヲ檢査シ稅則第二條ノ類別ニヨリ檢査簿ニ登記スヘシ

但元酒類ノ儘翌期ヘ持越シ製造セントスルモノハ第七十二項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ

第七十二項　未製成ノ酒類ヲ翌期ニ持越スモノハ見込石數ヲ減却シ更ニ翌期ノ見込石數ニ附加シ兩期ノ檢査簿ニ其石數及事由ヲ記載スヘシ（二十三年十月訓令第六十九號ヲ以テ改正）

第七十三項　造石稅免除ノ酒類ヲ點檢スルトキハ其製造方法及之レニ調和スル品質等ヲ見分シ其製造石高ヲ調査スヘシ

第七十四項　酢元用酒類ノ製成酒檢査ハ其同酒類ノ檢査手續ニ準據スヘシ

第七十五項　酢元用酒類ヲ以テ製造シタル酢ノ石高ハ勿論酒粕及他ノ種類ヲ以テ製造シタルモノト雖トモ取締ノ爲メ臨時點檢スルコトアルヘシ

但本項ノ場合ニ於テハ釀造方法及仕込帳ノ順號ニヨリ其醪又ハ成製石高ヲ檢査スヘシ

第七十六項　古酒現在高ノ調査ハ十月中ニ於テ爲スヘシ其場合ニハ先ツ自製ト買入トヲ區別シ自製ハ藏出帳買入ハ仕切書送狀等ニ據リ石數ヲ調査シ藏出帳ニ差引殘及火入レ量リ減等ヲ記入セシメ之ニ檢印ヲ爲シ尙檢査簿ニ登記スルモノトス

但皆造檢査ニ際シ現在石高ヲ調査スル場合ト雖トモ本項ニ準シ藏出帳ニ記入セシムヘシ

（七）　自家用料酒類





第七十七項　自家用料酒類ハ便宜檢査シテ取締ヲ爲スヘシ其手續ハ酒造營業者ノ例ニ準シ適宜取扱フヘシ

（八）　諸帳簿調査

第七十八項　酒造ニ關スル諸帳簿ハ營業者ニ於テ其調製及記載方等怠ラサル樣臨檢毎ニ之ヲ示諭スヘシ

第七十九項　酒造營業人心得書ニ據リ該營業人ニ於テ調製スヘキ諸帳簿ハ酒造檢査ノ毎次必ス調査スルハ勿論尙酒造關係ノ帳簿ト雖トモ檢閲スルコトアルヘシ

但諸帳簿ヲ檢閲シタルトキハ小計通計等ノ要所ヘ檢印ヲ捺シ置クヘシ

第八十項　皆造檢査ノ際ハ酒造一般ニ關スル諸帳簿ヲ精密ニ調査シ之レニ檢印ヲ捺スヘシ

（九）　帳簿調製及雜件

第八十一項　桶甕類容量調査簿ハ第壹號樣式ノ如ク甲乙二帳ヲ製シ調査ノ時々之レヲ加除更正スヘシ

但甲帳ハ郡區役所ニ備ヘ置キ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第八十二項　酒類造石檢査簿ハ第二號樣式ノ如ク酒造場毎ニ甲乙二帳ヲ製シ置キ檢査ノ時々之ニ記入スヘシ

但甲帳ハ檢査員之ヲ携帶シ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第八十三項　（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ刪除）

第八十四項　酒類見込石高臺帳ハ第四號樣式ノ如ク調製シ其時々又ハ增減アルトキ之ニ記入スルモノトス

第八十五項　酒類檢査濟石高臺帳ハ第五號樣式ノ如ク調製シ檢査ニ係ル石數ヲ一ケ月每ニ記入スルモノトス

第八十六項　檢査手帖ヲ調製シ造酒檢査ニ關スル一切ノ事項ヲ細大遺漏ナク其時々筆記シ他日ノ參照ニ供スヘシ

但手帖ハ豫メ一定ノ書式ヲ設ケ置クヘシ

第八十七項　臨檢日誌ヲ調製シ乙號造石檢査簿ニ添付シ置キ臨檢ノ每次年月日及臨時ノ事由ヲ摘錄シ之ニ檢印ヲ爲スヘシ

第八十八項　造石稅免除酒類及自家用料酒類ニ關スル諸帳簿ハ適宜之ヲ調製スヘシ

第八十九項　左記ノ書類ハ十月十五日迄ニ取纏メ整理スヘシ

但增減又ハ變換等ノ屆書ハ調査濟ノ后順次綴込ミ置クヘシ

一　酒造用諸器械調

二　酒造場繪圖面

三　造酒種目見込石高

四　酒類釀造方法

第九十項　稅則第十六條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フモノアルトキハ速ニ臨檢シ其實況ヲ郡長ニ報告シ指揮ヲ待テ決定スヘシ（二十四年十一月訓第百七十號ヲ以テ改正）





## 第三款　證劵印稅檢査

第九十一項　明治十七年五月第十一號布告證劵印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ檢査ヲ行フヘシ

第九十二項　檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一ヲ臨時檢査トス

第九十三項　定期檢査ハ每年自五月至九月ノ間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十四項　檢査ハ其擔當部內ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區內ノ便宜ヲ量リ檢査場ヲ設クヘシ

第九十五項　檢査ハ豫メ日割ヲ定メ其日割及前條檢査場ヲ其區內ノ町村ニ告知スヘシ

第九十六項　臨時檢査ハ時宜ニヨリ第九十四項第九十五項ノ手續ヲ履行セサルコトアルヘシ

第九十七項　檢査ハ力メテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ

第九十八項　檢査員檢査ノ要領左ノ如シ

一　證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否

二　帳簿見積金高及使用期限紙數記載方有無當否

三　貼用印紙消印ノ有無當否

四　印紙再貼用又ハ印紙僞造變造ノ有無

五　帳簿調製上詐僞ノ有無

六　證書帳簿差出方店舗商況ニ相應スルヤ否ヤ

第九十九項　檢査員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ置キ受檢査人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類員數等ヲ記載スヘシ

第百項　證書帳簿ノ檢査ヲ受ケサルモノ又ハ之ヲ受ケタルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルトキハ直チニ本人宅ニ就テ檢査ヲ爲スヘシ

第百一項　檢査ヲ了セシ證書帳簿ニハ年月日檢査員官姓名閱了ト書記シ檢印ヲ爲スヘシ

第百二項　檢査結了ノ上ハ其都度第六號樣式ノ報告表ヲ製シ別ニ檢査上ノ實況ヲ詳記シ郡區長ヨリ第四部長ヘ報告スヘシ

第四款　煙草稅檢査

第百三項　煙草稅ハ明治二十一年四月勅令第二十號改正稅則同年四月大藏省令第三號及同年七月北海道廳令第四十五號ニ據リ實地ノ檢査ヲ爲スヘシ

第百四項　檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一ヲ臨時檢査トス

第百五項　定期檢査ハ每年自五月至九月ノ間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第百六項　檢査員ハ營業ノ資格ヲ記入シタル營業人姓名簿ヲ作リ之ヲ提携スヘシ

第百七項　檢査員臨檢ノ節ハ先ツ自己ノ官職姓名及其事由ヲ告ケ而シテ檢査ニ着手スヘシ





第百八項　檢査員臨檢ノ節ハ先ツ免許鑑札ヲ出タサシメ之ヲ營業人姓名簿ニ照シ其當否ヲ檢査スヘシ

第百九項　檢査上特ニ注意スヘキ要領左ノ如シ

一　營業者カ調製記載スヘキ諸帳簿ハ規則ニ遵ヒ善ク整理シ居ルヤ否ヤ

二　營業者ノ所持シ又ハ受授スル煙草ハ規則ニ遵ヒ都テ正當ニ之ヲ取扱居ルヤ否ヤ

三　營業ニ關スル家屋倉庫及雇人並製造器械ノ員數等諸般ノ景況ニ對照シテ該營業者カ買入又ハ賣捌ク所ノ煙草ノ量目價格等不相當ナキヤ否ヤ

四　煙草製造高ニ對シ其葉煙草ノ使用高不適當ナキヤ否ヤ又製造器械ノ種類員數職工ノ多寡賃錢ノ割合等ニ對照シテ其仕上高ニ不相當ナキヤ否ヤ

五　現在ノ煙草及印紙ハ之ヲ帳簿ニ對照シテ各不相當ナキヤ否ヤ

六　運搬スル煙草荷物ハ其添付スヘキ送狀又ハ證明書ノ有無及送狀證明書ハ規則ニ遵ヒ整理シアルヤ否ヤ

七　營業場外ニ於テ煙草ヲ製造シ又ハ豫テ屆出ノ家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトナキヤ否ヤ

八　葉煙草ヲ自用者ニ賣渡シ又ハ贈與スル者ナキヤ否ヤ

九　卷煙草ト刻煙草ト其製造費並賣上高ヲ對照シ彼此帳簿ニ記載スル所各不相當ナキヤ否ヤ

第百十項　前項ニ揭クル要領ノ外營業者ノ帳簿其他ニ就キ左ノ諸項ヲ精査スヘシ

一製造人ニ就テハ

一　葉煙草買入高（賣流レ抵當流レト爲リタルモノハ之ヲ區別ス）預リ高、使用高、（刻煙草ニ使用シタルモノト卷煙草ニ使用シタルモノトヲ區別ス）及現在高

二　煙草製造高、賣渡高（各刻、卷、ヲ區別ス）

三　印紙買入高、貼用高、及現在高

一仲買人ニ就テハ

一　葉煙草買入高（賣流レ抵當流レトナリタルモノハ之ヲ區別ス）預リ高、賣捌高、及現在高

二　製造煙草（刻、卷、ヲ區別ス）買入高（賣流レ抵當流レト爲リタルモノハ之ヲ區別ス）預リ高、賣捌高、及現在高

三　製造煙草改裝高、及印紙買入高、貼用高、現在高

一小賣人ニ就テハ

一　製造煙草（刻、卷ヲ區別ス）買入高、預リ高、賣捌高、及現在高

二　製造煙草改裝高、及印紙買入高、貼用高、現在高

第百十一項　葉取葉拵又ハ賃卷ノ爲メ煙草ヲ營業場外ノ職工ニ付スルモノハ其職工ノ家宅ニ就キ之ヲ檢査スヘシ

第百十二項　損害ニ罹リタル未製造煙草ヲ屆出タルトキハ直チニ檢査スヘシ

第百十三項　廢業者ヨリ所持ノ煙草ヲ屆出タルトキハ便宜出張シテ其種類員數ヲ調査シ尙ホ廢業後ノ狀況ヲモ視察スヘシ

第百十四項　途上ニ於テ煙草荷物ノ犯則品又ハ疑フヘキト思料スルモノヲ見當リタルトキハ其携帶人ニ就キ適宜之ヲ檢査スヘシ但其荷物ノ內部ノ檢査ヲ必要トスルトキハ其荷主若クハ荷受主又ハ荷送主其他適當ノ立當人アルトキニ限リ之ヲ爲スヘシ

第百十五項　檢査員ハ隨時印紙賣捌人ニ就キ煙草印紙賣渡先及賣捌高ヲ調査シ檢査ノ參考ト爲スヘシ

第百十六項　煙草製造人及仲買人ニ就テハ煙草ノ賣渡先キヲモ調査シ檢査ノ參考ト爲スヘシ

第百十七項　檢査ヲ了シタル帳簿ニハ年月日檢査員官姓名閱了ト書記シ檢印ヲ爲スヘシ

第百十八項　檢査結了ノ上ハ其都度自第七號至第九號樣式ノ報告書ヲ製シ別ニ檢査上ノ實況ヲ詳記シ郡區長ヨリ第四部長ヘ報告スヘシ

## 第五欵　賣藥稅檢査

第百十九項　賣藥稅ハ明治十年一月第七號布告同年三月內務省乙第三十二號達同十四年四月同省乙第二十五號達同十五年十月第五十一號布告ニ據リ實地ノ檢査ヲ爲スヘシ

第百二十項　檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一ヲ臨時檢査トス

第百二十一項　定期檢査ハ每年自五月至九月ノ間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第百二十二項　檢査員ハ營業ノ資格並ニ免許藥劑ノ名稱及其方數等ヲ記入シタル營業人姓名簿ヲ作リ之ヲ提携スヘシ

第百二十三項　檢査員臨檢ノ節ハ先ツ自己ノ官職姓名及其事由ヲ告ケ而シテ檢査ニ着手スヘシ

第百二十四項　檢査員臨檢ノ節ハ先ツ免許鑑札ヲ出サシメ之ヲ營業人姓名簿ニ照シ其當否ヲ檢査スヘシ

第百二十五項　檢査員行商者ニ就キ檢査ヲ爲ストキハ行商鑑札ノ有無幷ニ自ラ行商ヲ爲ス者ナルカ又ハ賣子ナルカノ區分ヲ檢査スヘシ

第百二十六項　檢査員檢査ノ要領左ノ如シ

一　交換並ニ賣戻ニ係ル賣藥受高
二　賣藥製造高
三　賣藥賣捌高
四　賣藥現在高
五　印紙買入高
六　印紙貼用高
七　印紙現在高

以上營業者ノ帳簿及現在品ニ照シ其當否ヲ檢査スヘシ

一　交換ニ係ル賣藥受高
二　賣藥買入高
三　賣藥賣捌高
四　賣藥賣戻高
五　賣藥現在高

以上請賣者ノ帳簿及現在品ニ照シ其當否ヲ檢査スヘシ

一　印紙貼用ノ有無及當否
二　貼用印紙消印ノ有無
三　印紙再貼用ノ有無
四　定價記載ノ有無

以上營業者請賣者行商者ノ現在品ニ就キ檢査スヘシ

第百二十七項　檢査ヲ了シタル帳簿ニハ年月日檢査員官姓名閲了スト書記シ檢印ヲナスヘシ

第百二十八項　檢査員ハ隨時印紙賣捌人ニ付キ賣藥印紙賣渡先及賣捌高ヲ調査シ檢査ノ參考ト爲スヘシ

第百二十九項　檢査結了ノ上ハ其都度自第十號至十一號樣式ノ報告書ヲ製シ別ニ檢査ノ實況ヲ詳記シ郡區長ヨリ第四部長ヘ報告スヘシ

第六款　船車稅檢査

第百三十項　船稅ハ明治十六年四月第十三號布告同年六月大藏省第三十六號達同十七年六月同省第三十八號達同年四月第十號布告同第十號布達車稅ハ明治八年二月第二十七號布告同十四年九月大藏省乙第三十二號達及同二十一年二月北海道廳令第七號ニ據リ實地ノ檢査ヲ爲スヘシ

第百三十一項　檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一臨時檢査トス

第百三十二項　定期檢査ハ毎年自七月至十一月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第百三十三項　檢査ハ最寄郡區役所ニ通議シ可成的同時ニ之ヲ行フヘシ

第百三十四項　檢査員ハ該物件所在ニ就キ檢査ヲ爲スヘシ

第百三十五項　檢査ハ船車最モ輻輳ノ場所ヨリ着手スヘシ

第百三十六項　甲管内檢査ニ際スレハ乙管内ニ避ケ脫稅ヲ謀ルカ如キ弊害ヲ生セサル樣取締方ニ注意スヘシ

第百三十七項　檢査員檢査ノ要領ハ左ノ如シ

一　課稅スヘキ船車ニ鑑札又ハ烙印等ノ有無

二　官廳所用ノ船車及免稅船ニ烙印ノ有無

三　船ハ免狀及鑑札面ニ照シ實際ノ構造網具ノ裝置噸石數他使用方ノ適否

四　車ハ馬車ノ匹數人力車腰掛巾ノ尺度其他使用方ノ適否

第百三十八項　檢査濟ノ船車ハ其濟否ヲ判明セシムル爲メ（船ハ舳外部ノ側面車ハ棍棒）ヘ（改）ノ打込印ヲ捺スヘシ

第百三十九項　船並車ハ其所在ノ定マラサルモノニヨリ檢査施行中該船車輻輳ノ場所ハ時々視察ヲナシ檢査周到ナルヲ要スヘシ

第百四十項　檢査ノ結了ノ上ハ其都度自第十二號至第十三號樣式ノ報告書ヲ製シ別ニ檢査上ノ實況ヲ詳記シ郡區長ヨリ第四部長ニ報告スヘシ

（樣式畧ス但二十三年十月廳令第六十九號ヲ以テ造石檢査簿樣式中酒モト檢査ノ次ヘ酒桶甕類容量調査簿樣式ヲ挿入シ二十四年十一月訓第百七十一號ヲ以テ酒桶甕類容量調査簿及清酒造石檢査簿樣式ヲ改正ス）

○明治二十一年十月三十一日北海道廳訓令無號郡區長宛

諸稅則違犯者取扱方左之通心得ヘシ

諸稅則違犯者取扱心得

第一項　諸稅檢査員其職務ヲ行フニ因リ稅則違犯アルコトヲ認知シ又ハ違犯アルト思料シタルトキハ左ノ各項ニ據リ證憑ノ取調及告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第二項　諸稅檢査ノ場合ニ於テ違犯アリト認知シ又ハ思料シタルトキハ先ツ着手シタル所ノ檢査ヲ了リ然ル後犯則者取調ノ手續ヲ爲スヘシ

但時機緊急ヲ要スル場合ニ於テハ此限ニアラス

第三項　犯則ニ係ル證憑物件ヲ檢擧シタル上ハ其事實ヲ訊問シ第一號書式ニ倣ヒ犯則發見ノ景況ト本人ノ陳述トヲ記載シタル犯則申立書ヲ作リ之ヲ本人ニ示シ署名捺印セシムヘシ

第四項　本人並代理人トモ不在ナルトキハ其家族雇人等ヨリ其事由ヲ明記セル書面ヲ徵シ本人又ハ代理人ノ歸宅ヲ待テ前項ニ準據シ犯則申立書ヲ作ルヘシ

第五項　犯則ニ係ル諸物件ハ犯則者ノ面前ニ於テ調査シ之ヲ該地戶長鄰佑又ハ本人ニ管守セシメ其預リ書ヲ徵スヘシ

但酒類並烟草賣藥消糜ノ憂アルモノハ之レニ封緘ヲ爲スヘシ

第六項　酒造稅則醋麴營業稅則賣藥印紙稅烟草稅則ニ付犯則アリト認知若クハ思料シ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲナストキハ明治十六年十二月第四十三號公布及明治十六年十二月大藏省第七十七號達ニ從フヘシ

第七項　前項犯則物件ヲ發見シタル場合ニ於テ本人不在ナルトキハ其物件ヲ差押ヘ置キ木人ノ歸宅ヲ待テ第三項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八項　前數項ノ取調ヲ終リタル上ハ速ニ第二號書式ニ倣ヒ告發書ヲ作リ之ニ犯則申立書及犯則物件又ハ預リ書ヲ添付シ其地檢事ニ送致スヘシ

但告發書ヲ郵送スルトキハ必ス書留郵便ヲ以テスヘシ

第九項　告發書ハ檢事ニ送致前郡區長ノ檢閲ヲ經ヘシ

但郡區役所遠隔ノ地ニ在リテ郡區長ノ檢閲ヲ經ルノ暇ナキ場合ニ於テハ告發後直ニ郡區長ニ申報スヘシ

第十項　告發書類ハ確實簡明ニ犯則申立書ハ適實平易ヲ主トシ徒ラニ文飾ニ流レ其要領ヲ失ハサル樣注意スヘシ

但起訴ノ資料トナルヘキ證憑ハ勿論事實參考トナルヘキ事物ハ必ス之ヲ添付スヘシ

第十一項　告發事件ニ付裁判所ノ訊問ニ應答シタルトキハ其要領ヲ郡區長ニ申報スヘシ

（書式畧ス）



○明治二十六年一月二十七日北海道廳訓第二十號郡役所宛

明治二十一年十一月北海道廳訓令第七十三號租稅檢査例則第九十項ニ依リ酒類造石稅免除ノ指揮ヲ爲シタルトキハ檢査員報告書ノ寫ヲ添ヘ財務部長ヘ申報スヘシ

○明治二十五年十月二十九日北海道廳訓第二百五十五號各郡役所宛

租稅檢査分任地方ノ檢稅實況報告書別紙樣式ニ倣ヒ調製シ每一ヶ月分翌月十日限リ差出スヘシ

但シ樣式ハ財務部ヨリ送付ス

（樣式畧ス但二十六年三月訓第六十六號ヲ以テ檢稅實況報告書樣式中官設免除石數ノ欄及備考第六ヲ删除シ二十六年十月訓第二百八十四號ヲ以テ檢稅實況報告書樣式中檢査物件度數欄ノ內自家用料酒ノ下ヘ酒精甲種乙種ノ科目ヲ追加ス）

○明治二十六年七月二十日北海道廳訓第二百十三號財務部宛

酒精檢査手續左ノ通相定ム

酒精檢査手續

第一項　租稅檢査員ハ每年一月中ニ各營業場ヲ巡檢シ左ノ事項ヲ調査スヘシ但郡區長ヨリ營業免許ノ通知ヲ受ケタルトキハ其時々之ヲ爲スヘシ

一　營業場地所建物ハ繪圖面ニ諸器械又ハ容器類ハ目錄ニ對照シ之ヲ調査簿ニ記入スヘシ

二　每年一月一日現在又ハ免許當時ノ現在酒精ヲ調査シ自製ト他製トヲ區別シ之ヲ調査簿ニ記入スヘシ

稅法第五條第二項ニ該當スルモノハ本項ニ準スヘシ

第二項　營業場地所建物及諸器械容器類等ノ異動屆又ハ營業者住所氏名變更ノ通知ヲ受ケタルトキハ隨時臨檢ノ際前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三項　稅法施行細則第七條ニヨリ諸帳簿ノ檢定ヲ願出タルトキハ規定ノ書式ニ違フコトナキヤ否ヲ調査シ帳簿ノ綴目ニ署印ヲ押捺シ且表紙ノ裏面ニ年月日官氏名檢定ト書シ認印ヲ爲シ之ヲ下付スヘシ

第四項　租稅檢査員ハ其年各自ノ酒精販賣石量及消費石量（醫藥用又ハ工業用ノ爲メ販賣セシモノヲ除ク）ヲ取調別紙樣式ニ倣ヒ翌年一月七日限リ之ヲ郡區長ニ報告スヘシ但廢業又ハ他郡區役所部內ニ轉居ノトキハ其時時報告スヘシ

第五項　實地檢査上稅額檢定方ノ參照トナルヘキ事項ハ其時々之ヲ郡區長ニ報告スヘシ

第六項　買入酒精ヲ屆出タルトキハ調査ノ上稅法施行細則第十二條ノ手續ヲ爲スト同時ニ調査簿中相當欄內ニ式ノ如ク記入スヘシ

第七項　租稅檢査員ハ稅法施行細則第十四條ニヨリ酒精ノ廢業ニ屬シタルモノヲ檢査シタルトキハ相當手續ヲ了シタル後實況ヲ詳悉シ之ヲ財務長ニ報告スヘシ

第八項　租稅檢査員ハ營業ニ關スル帳簿物品等ノ檢査ニ際シ稅法第三條ノ保證金ヲ追補シ又ハ稅金前納ノ必要ヲ認ムルトキハ其旨營業人ニ告知シ尙之ヲ郡區長ニ通報スヘシ

第九項　租稅檢査員ハ豫テ營業人ヲ經由シテ買入タル酒精ヲ自用者ニ販賣スルモノヽ人名ヲ取調置營業稅額檢査ノ參照ニ供スヘシ

第十項　自家製造ノ酒精石量ハ製造原料品買入遣拂帳並ニ製造帳等ニ就キ實際使用セシ原料品並ニ製造方法等ヲ審檢シ垂步合ノ當否及度數ノ强弱ヲ判斷シテ調査スヘシ

第十一項　買入酒精ハ仕切書送リ狀等ニヨリ其石量ヲ調査スヘシト雖モ酒精ヲ混和シタル銘酒ノ類ヲ買入タル場合ニ於テ實際ノ石量判明セサルモノト認ムルトキハ便宜賣主所在ノ官署ニ照會取調ヲ爲スヘシ

第十二項　本年五月勅令第五十八號第六條ニヨリ醫藥用酒精營業者ノ帳簿ニ免稅ノ檢印ヲ與フルトキハ成ルヘク實地ニ就キ帳簿上ノ結果ヲ現在高ニ對照シ之ヲ爲スヘシ

第十三項　工業用酒精ニ混和スル木精（メチールアルコール）又ハ石油ハ其品質ヲ吟味シ不取締ナキヲ期スヘシ

第十四項　租稅檢査員ハ隨時各營業場ヲ巡檢シ成規ニ從ヒ販賣石量等ノ調査ヲ遂ケ營業人心得第九項第十項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五項　本年五月勅令第五十八號第七條ニ該當スルモノヲ檢査シタルトキハ帳簿及其他ノ書類ニ檢印ヲ爲シ置クヘシ

第十六項　酒精營業稅臺帳及酒精販賣石量調査簿ニ別紙書式ニ倣ヒ調製スヘシ

○明治二十六年八月十七日北海道廳訓第二百三十二號（各郡區役所（松前ヲ除ク）宛）

酒精檢査ハ別冊酒精檢査手續ニ準シ之ヲ行フヘシ（檢査手續前ニ見ユ）

○明治二十二年五月二十九日北海道廳訓令第二十八號（郡區役所宛）
證券印稅ハ其他ノ情況ニ依リ定期檢査ヲ爲サス臨時檢査ニ止ムルモ妨ナシ
○明治二十四年十月三日北海道廳訓第百二十七號（郡區役所宛紗那郡役所ヲ除ク）
酒造營業人ニ異動アルトキハ其時々住所氏名ヲ記シ租稅檢査派出所ヘ通知スヘシ
○明治二十四年七月五日北海道廳訓令號外（第三部宛）
土地檢査手續別紙ノ通相定ム

（別　紙）

## 土地檢査手續

### 第一欵　通　則

第一項　土地檢査ハ明治九年布告第百六十一號明治十年布告第十八號明治十九年閣令第十六號第十條明治十七年太政官布達第三號明治二十二年法律第十八號及明治二十四年當廳令第二十五號同年當廳訓令第四十六號同年當廳令第二十三號同年當廳令第二十四號ニ據リ之ヲ爲スヘシ

第二項　土地檢査員ハ豫テ地租創定當時ノ情況及ヒ管內一般地租上ノ沿革ヲ知悉シ實地檢査上常ニ之ヲ利用スルコトヲ務ムヘシ

第三項　土地檢査員査定ノ地價及ヒ年期等ニ服從セサル者アルトキハ再三說諭シ仍ホ服セサル者ハ其實況ヲ具申スヘシ

第四項　土地檢査上及ヒ賦除租ニ關シ疑義ヲ生シ又ハ疑問ヲ受ケタルトキハ成規定例アルモノヽ外ハ稟議ノ上相當ノ措置ヲ爲スヘシ

### 第二疑　實地檢査

第五項　實地檢査ヲ分テ定期臨時トス其區別左ノ如シ

一　定期檢査ハ左ニ記載スル種類ヲ每年一回期節ヲ定メ檢査スルモノトス
開墾除租年期明、法律第十八號免租年期明、荒地免租年期明、開墾鍬下年期明、新開免租年期明、荒地免租及開墾鍬下繼年期、

二　臨時檢査ハ左ニ記載スル種類ヲ臨時檢査スルモノトス
開墾鍬下年期、新開免租年期、荒地免租年期付與、地目變換、地類變換、官有地民有地成、免租地有租地成、有租地免地成、等

第六項　土地檢査員ハ當分屬又ハ雇二名ヲ以テ一組トス
但僻遠ノ村落ニテ實査ス可キ筆數僅少ナルトキハ當分一名ニテ之ヲ爲スモ妨ケナシ

第七項　土地檢査員ハ定期檢査ヲ要スル事件ハ郡區役所土地臺帳ニ就キ取調明治二十四年六月當廳令第二十五號ノ取調書取經方郡區役所及戶長役場ヘ照會スヘシ
但官有地民有地成、免租地有租地成、有租地免租地成、等ニシテ第三部租程課ヨリ通知ヲ要スルモノハ其通知ヲ受ケタルトキハ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八項　前項取調書ハ便宜ノ爲メ直チニ郡區役所ヨリ派出所ニ送附ヲ受クヘシ

第九項　取調書ハ郡區役所經由ノ際其郡區役所備置ノ臺帳ニ照合シ元反別地價地租及ヒ年期等ノ

上部ヘ檢印ヲ捺シ回附スルモノト雖トモ事故アツテ檢査員出張先ニ於テ受領シタルモノハ實地檢了ノ上郡區役所經由ノ手續ヲ爲スハ同時ニ之ヲ郡區役所ノ土地臺帳ニ照合スヘシ

第十項　土地檢査員ハ地種組換賦除ニ關スル取調書類ノ送付ヲ受ケ租稅ヨリ其事件ノ通知ナキ以前ニ於テ實査セシトキハ郡區役所又ハ戸長役場ニ於テ其許可ノ指令寫ヲ徵シ檢査濟書類ヘ添付スヘシ

第十一項　檢査ノ日割ハ少クモ五日以前郡區役所又ハ戸長役場ニ通知シ檢査ヲ受クヘキ準備ヲナサシムヘシ

第十二項　土地檢査員ハ左ノ書類及ヒ器械ヲ携帶スヘシ

一　實査スヘキ願屆上申書ノ類

二　大量繩梵天角度器分尺ノ類

三　檢査ニ要スル用紙手帖及ヒ規則書ノ類

第十三項　大量繩ハ少クモ一日一回必ス之ヲ調査シテ差違ナカラシムヘシ

第十四項　土地丈量ニ際シテハ角度ハ角度器ヲ用ヒ丈度繩ノ端數ハ分尺ヲ用ヒ其他精密ニ測量スヘシ

第十五項　土地丈量ハ曲折ヲ正シ梵天數ヲ省略スヘカラス畦畔ハ外畦ヲ除キ丈量シ其坪數ヲ二除シ檢査反別トスヘシ

第十六項　土地丈量檢査ハ地租條例第五條同施行細則第三條第四條第五條第六條第七條ニ準シ調査シ著シキ差違アルニアラサレハ訂正ヲ要セス若シ訂正ヲ要スヘキモノ多數ナルトキハ再調ヲナサシムルコトヲ得

第十七項　土地丈量檢査ハ毎筆之ヲ行フヘシト雖トモ地主ノ調査精確ナリト認ルトキハ一地目ニ偏倚セス各地目ニ就キ拾筆ニ對シ五筆内外ノ割合ヲ以テ丈量シ地目毎ニ丈量ノ可否ヲ決スルコトヲ得

第十八項　土地檢査ニ際シテハ其町村戸長及地主又ハ地主總代人ニ立會セシメ地主又ハ總代人ヲシテ先ツ實地ヲ指示セシメ之ヲ檢査書類ニ照シ其丈量セシモノハ檢査手帖ニ野取圖ヲ記シ丈量間數確定ノ上坪數ヲ積算シ即時ニ其反別ヲ決スヘシ

第十九項　土地檢査ニ臨ミタルトキハ其地形ヲ地圖又ハ野取圖ニ對照シ若シ地形地面ト差違アリト認ムルトキハ其近傍土地ノ地押ヲ爲スヘシ

第二十項　土地丈量ノトキ元反別ニ對シ著シキ增減歩アルトキハ其接續地調査ノ上檢了スヘシ

第二十一項　荒地期明ニ際シ現地丈量方ハ生地ト荒地トヲ併セ一繩ニ丈量シタル總反別ヨリ生地ヲ扣除シ其殘歩ヲ以テ起返反別トナス

第二十二項　一筆ノ内幾分荒地トナリタルモノハ其殘地即チ生地反別ヲ丈量シ一筆内ヨリ之ヲ除キ殘反別ヲ以テ荒地ノ反別トナスヘシ

第二十三項　開墾鍬下年期出願ノ土地ニシテ水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ風潮等ヲ防クニ必用ノ地及ヒ他ニ障害アリト認ムルトキハ其實況ヲ具申シ指揮ヲ俟ツテ處分スヘシ

第二十四項　火葬場墳墓地成免租検査ニ際シテハ十七年布達第二十五號墓地及ヒ埋葬取締規則及ヒ二十年當廳令第六十八號墓地埋葬取締細則ニ據リ許可ノ有無ヲ取調タル上検査スヘシ

第二十五項　荒地開墾地年期明及地目變換ニ際シ畦畔廢設ニ係ルモノハ之ヲ本地ニ質入シ丈量增減歩ノ差引ヲ立テ取調ヲナスヘシ

第二十六項　荒地免租年期査案ニ際シ申告書ノ年期其當ヲ失シタルモノト認ムルトキハ再調ヲ示諭スルコトヲ得

第二十七項　土地検査ニ臨ミ隣地ノ境界判明セサルモノハ先ツ其境界ヲ正シ本地ノ検査ニ着手スヘシ若シ隣地主ト境界ヲ爭モノアルトキハ一旦検査ヲ中止シ境界判明ノ上検査ヲ爲スヘシ

## 第三款　地價査案

第二十八項　地價査按ニ係ル要領左ノ如シ

一　地價ヲ査案スルトキハ地味ノ肥瘠耕耘ノ難易水利運輸ノ便否又ハ土地ノ情況ニヨリ收益ノ多寡等ヲ推究シ同地目同地位ノ比準地ヲ撰定スヘシ

二　前項ニ由リ比準トナセシ土地ノ地番號字地位等級穂反當リ地價額等ハ其郡區役所又ハ戸長役場ニ備ヘアル帳簿及ヒ地圖等ニ照シ符合スルヤ否ヤニ注意スヘシ

三　一町村内ニ於テ其比準トスヘキ土地ナキトキハ該地ノ收穫物又ハ所得金ヲ調査シ地價ヲ算出スヘシ其他ハ比準地ノ反當リ地價ヲ以テ之ヲ算出スヘシ

四　收穫物又ハ地價金ノ算出法ハ反別ノ歩位三除ノ數ニ適セサルトキハ之ヲ坪數トナシ反當リ收穫又ハ地價金ヲ乘シ三除シテ之ヲ得ルモノトス

但反當リ收穫ハ合位ニ止メ地價ハ厘位ニ止メ四捨五入法ヲ用ヒス

五　地價査案ハ成ルヘク近傍類地ヲ比準トシ其荒地起返ニ係ルモノハ成ヘク從前ノ等級ニヨリ地價算出スヘシ

第二十九項　地租創定ノ際田畑及海産干場一筆内ニ取調タル宅地ノ額ハ分裂スルニ及ハスト雖トモ溝渠又ハ垣墻ヲ以テ分界セルモノハ地目變換又ハ開墾ノ手續ヲナサシムヘシ

第三十項　耕宅地一筆中ニ孕在セル草生地ノ類ニシテ收穫物ニ斟酌ヲ加ヘタルモノヲ開墾スルトキハ其地價ヲ修正スヘシト雖トモ成ヘク鍬下年期ヲ付與セサルモノトス

第三十一項　耕宅地一筆中ニ瑣々タル溜池井溝等ヲ新設スルモノハ之ヲ不問ニ措キ地價ノ修正ヲ爲サル、モノトス

第三十二項　便宜ノ爲メ一時田ニ畑作畑ニ田作スルモノ、如キハ當分之ヲ修正セサルモノトス

第三十三項　開墾地ニシテ果樹ノ類ヲ栽培シタル畑地ハ專ラ現況ニヨリ地價査案スヘカラス其土地ノ肥瘠成木ノ遲速ヲ推考シ后來ヲ計リ地價ヲ査案スヘシ

## 第四款　荒地開墾地年期

第三十四項　荒地免租年期開墾鍬下年期ハ地租條例第十六條第三項第二十條ニ準シ相當ノ年期ヲ付與スヘシト雖トモ其年期ノ大要ヲ區別スルコト左ノ如シ

一　開墾地ニシテ山岳ヲ鑿平シ又ハ河海ヲ埋堆セシモノ等ノ如キ至難ノ場所ニ對シテ附スル鍬

下年期ハ三十年以内トス

二　開墾地ニシテ池沼原野ヲ田畑ニ開拓センカ爲メ勞費ヲ要スル場所ニ對シテ附スル鍬下年期ハ概ネ二十年以内トス

三　開墾地ニシテ平坦ノ地所ニ工事ヲ加フルモノハ各其目的ニ依リ勞費多少アリト雖トモ概ネ此ノ如キ場所ニ對シテ付スル鍬下年期ハ十年以内トス

四　荒地ニシテ河川成、海成、湖水成ノ如キ復舊ニ至難ナル土地ニ對シテ付スル免租年期ハ十五年以内トス

五　荒地ニシテ山崩、池成、押堀等ノ如キ土地ニ對シテ付スル免租年期ハ概ネ十年以内トス

六　荒地ニシテ石砂入、作土流失等ノ如キ土地ニ對シテ付スル免租年期ハ概ネ五年以内トス

七　再荒地ハ前約殘年期ノ如何ニ拘ハラス前項ニ照シテ更ニ相當年期ヲ査案スヘシ

第三十五項　海嘯ノ爲メ潮水浸水シ作土ヲ損害シタル土地ハ實況ニヨリ前項ニ準據荒地相當免租年期ヲ與付スルコトアルヘシト雖トモ其實況ヲ具申シ指揮ヲ得テ處分スヘシ

第三十六項　荒地免租年期、開墾鍬下年期、滿限ニ至リ仍ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ又ハ事業成功ニ至ラサルモノニシテ繼年期ヲ請フモノハ其實況ヲ審査シ元年期ニ超過セサル繼年期ヲ付與スヘシ

第三十七項　川、海、湖水成ノ土地ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ雖キモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ付與シ其繼年期明ニ至リ原地目ニ復セス又他地目ニモ變セサルモノハ地種組換ノ手



續ヲ爲サシメ其實況ヲ具申スヘシ

第三十八項　官有水面埋立民有地成新開免租年期ヲ付與スヘキモノハ其實況ヲ具申シ指揮ヲ俟ツテ處分スヘシ

## 第五款　賦除租區分

第三十九項　土地檢査ニ掛ル賦除租ノ區分ハ左ニ掲クル要項ニ從ヒ取扱フヘシ

一　荒地開墾地ハ年期滿限ノ翌年ヨリ現地相當ノ地租ヲ賦スヘキモノトス

二　荒地ハ其荒地トナリタル年ヨリ免租年期ヲ付與スヘキモノトス

三　官有地拂下無代下與地ハ拂下又ハ無代下與ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ賦スヘキモノトス

四　民有地ノ官有地トナリタルトキハ其官有地トナリタル前月マテ地租ヲ課スヘキモノトス

五　地目變換ハ地價修正許可ノ年ヨリ修正地租ヲ課スヘキモノトス

但畦畔ハ別ニ區分ヲ要セス單ニ本地ノ上ニ於テ地租全額ヲ收除シ本地反別ノ側ニ其反別ヲ記載スヘシ

六　有租地ノ免租地トナリ免租地ノ有租地トナリタルモノハ地租條例第四條及ヒ第十三條ニ準シ其地租收除ノ區別ヲナスヘキモノトス

## 第六款　雜

第四十項　月割ヲ以テ收入スヘキ地租額ヲ算出スルニハ一ケ年ノ租額ニ當年收入スヘキ月數ヲ乘シ十二ケ月ヲ以テ除シ四捨五入法ヲ以テ其租額トス故ニ一ケ年ノ租額ヨリ月割額ヲ扣除シタル

殘數ハ翌年ヨリ增スヘキ租額トス

第四十一項　月割ヲ以テ除租スヘキ地租額ヲ算出スルニハ一ヶ年ノ租額ニ當年收入スヘキ月數ヲ乘シ十二ヶ月ヲ以テ除シ（四捨五入ノ法ヲ用ユルハ前項ニ同シ）タルモノヲ翌年ヨリ減スヘキ租額トス故ニ一ヶ年ノ租額ヨリ月割算出額ヲ扣除シタル殘數ハ當年ヨリ減スヘキ租額トス

第四十二項　土地檢査員實地檢査ヲ了シタルモノハ異動地、每種類別統計シ別紙樣式ノ明細表ヲ調製シ檢了書類ト共ニ第三部租税課ヘ送付スヘシ

第四十三項　明細表ノ員數ハ數字（一二三等ヲ云フ）ヲ以テ記入シ反別ハ町反金員ハ圓錢ノ間ニ各々點ヲ付スヘシ

（樣式略ス）

○明治二十四年七月十四日北海道廳訓第六十二號（紗那外三郡役所宛）

民有各種土地檢査ハ別冊土地檢査手續ニ準シ取扱フヘシ

（別冊ハ二十四年七月五日訓令號外第三部宛ニ同シ）

○明治二十五年七月九日北海道廳訓令第三十八號（郡區役所宛）

水產物營業人組合水產物產出高價額並税金賦課徵收方法等ニ就キ檢査ノ必要アリト認ムルトキハ臨機檢査ヲ爲スヘシ

但檢査結了后五日以內ニ其實況ヲ報告スヘシ

○明治二十五年四月十五日北海道廳訓令第二十七號（郡區役所宛）



税則違犯者ヲ告發シタルトキハ左記ノ樣式ニヨリ每一ヶ月分翌月十日限リ財務部長ヘ報告スヘシ

但明治二十一年五月當廳訓令第四十九號ハ廢止ス（第四十九號ハ税則違犯者報告方ノ件ナリ）

（書式略ス）

## ○印紙及鑑札

○明治十七年十一月十一日札幌縣乙第二百六十二號達（郡區役所、戶長役場宛）

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業税不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得但買上タル印紙類ハ其役所元受ニ組入レ買上代金ハ別途請求スヘシ

右相達候事

○明治十九年二月二十二日元根室縣乙第三號達（元郡役所宛）

明治十七年第九號布達ヲ以テ印紙類賣捌規程改定相成候處當管下之義ハ未タ巡查看守給助例ヲ實施セサルニ付八年第三號公達ニ據リ扶助料ヲ受ケタル巡查看守若クハ其遺族ニ限リ右規程第一條（賞嫡孤兒ニ非サル遺族ハ第三條）ニ依リ許可スルヲ得ル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○明治十九年五月八日北海道廳根室支廳乙第二十九號達（郡役所宛）

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業税不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除

キ手形用紙及ヒ印紙面價格十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得
但買上タル印紙類ハ郡役所ノ元受ニ組入レ買上代金ハ別途支廳長ヘ請求スヘシ
右相達ス

○明治十九年十月四日北海道廳函館支廳丙第十四號達（郡區役所宛）
民事訴訟身代限リ又ハ稅金不納ニ依リ財產ノ全部ヲ公賣スルノ際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及煙草賣藥營業者ノ廢業又ハ營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及其印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得
但買上タル印紙類ハ郡區役所元受ニ組入買上代金ハ本年九月當廳丙第十二號達ニ照準下付方請求スヘシ
右相達ス

○明治十九年九月十一日北海道廳己第八十七號達（郡區役所（支廳管內ヲ除ク）宛）
印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ義ハ本年大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則ノ改正實施前後ヲ以テ區分シ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求方左ノ通心得ヘシ
右相達ス

一本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入取扱順序第五十條ニ據リテ歲入下戻計算書ヲ以テ其代金ノ下戻方ヲ請フコト從前ノ通タルヘシ





一本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ大藏省訓令第二十二號第十四項ニ據リ之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ倣ヒ買戻仕譯書ヲ副ヘ其代金下付方ヲ稟申スヘシ
（書式畧ス）

○明治十九年九月二十日北海道廳函館支廳丙第十二號達（郡區役所宛）
印紙賣捌人ヨリ返納ニ係ル諸印紙代金下付方ノ義ハ本年六月大藏省令第二十一號印紙賣下賣捌規則實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ下付金出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金請求方ハ左ノ通心得ヘシ
右相達ス

一　本年六月三十日以前納返ニ係ルモノハ其代金請求方ハ從前ノ通リ心得ヘシ
一　本年七月一日以後ノ返納ハ當廳丙第十號達第十四項ニヨリ之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ準シ該仕譯書ヲ副ヘ代金下附方稟申スヘシ
（書式北海道廳己第八十七號達ニ同シ略ス）

○明治十九年九月二十二日北海道廳根室支廳乙第七十七號達（郡區役所宛）
印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ儀ハ大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則ノ改正實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求方左ノ通心得ヘシ
右相達ス

一　本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入取扱順序第五十條ニ據リテ歲入下戻計算書ヲ

以テ其代金ノ下戻方ヲ請フコト從前ノ通リタルヘシ

一　本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ當廳乙第六十二號第十六項ニ據リ之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ照準買戻仕譯書ヲ副ヘ其代金下付方ヲ稟申スヘシ

（書式北海道廳己第八十七號達ニ同シ略ス）

○明治二十一年十一月二十八日北海道廳令第七十一號

賣藥營業鑑札請求手續左ノ通定ム

但明治十五年五月函館縣甲第十七號布達廢止ス

賣藥營業鑑札請求手續

第一條　賣藥ヲ營業セントスルモノハ方名配伍藥品量目用量主治功能等ヲ列記シ本廳ヘ願出請賣行商ヲナサントスルモノハ郡區役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但請賣者ハ營業者トノ約定書ヲ添フ可シ

第二條　賣藥營業及ヒ請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限ルモノニ付別戸支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ受クヘシ

第三條　賣藥營業者請賣及行商者ヲ定メタルトキハ其都度族籍氏名ヲ郡區役所ニ屆出ヘシ

第四條　賣藥營業者及請賣者族籍住所氏名ヲ轉換シタルトキハ免許鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

但シ住所ノミノ轉換ハ鑑札ニ裏書シテ下付スルコトアルヘシ

第五條　賣藥營業及請賣者ノ看板ハ左ノ通タルヘシ





縦三尺
横三尺

免許賣藥營業

縦三尺
横三尺

免許賣藥請賣營業

○明治二十二年二月二十六日北海道廳告示第十六號

國稅ニ關スル諸鑑札（酒造、醬麹、烟草、船舶、牛馬賣買）紛失遺失流失盜難等ニ係リタルトキ其都度告示セシ處自今之ヲ爲サス但他人ノ鑑札ヲ拾得シ若クハ所持スル者ヲ發見シタルトキハ所在郡區役所戸長役場警察署同分署ノ内ヘ屆出ヘシ

○明治二十四年二月十九日北海道廳令第六號

賣藥營業人賣藥印紙買入手續左ノ通相定ム

但明治十九年七月北海道廳乙第十四號布達同函館支廳甲第六號布達同根室支廳甲第二十一號布達ハ廢止ス

賣藥印紙買入手續

第一項　賣藥營業人ハ賣藥印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其帳簿ヲ携帶スヘシ

第二項　印紙賣捌人ハ賣渡ノ都度其帳簿ニ賣捌ノ年月日印紙ノ種類枚數及住所氏名ヲ記載シ之レニ押印返付スヘシ

○明治十九年十一月二十日北海道廳根室支廳乙第九拾壹號達（郡役所宛）

諸鑑札類ノ儀ハ是迄當廳ヨリ回付シ來候處來ル二十年度ヨリ左ノ鑑札類ハ其所ニ於テ製造シ其所

ノ印影ヲ捺スヘシ

但製造費ハ其時々租税課ニ請求スヘシ

右相達ス

一諸印紙賣捌看板

一有税船鑑札

一煙草仕出印紙賣入賣鑑札

一牛馬賣買免許鑑札

一賣藥行印紙買商入鑑札

○明治二十年八月十七日北海道廳訓令第九十九號（郡區役所宛）

印紙類賣下賣捌規則取扱手續左ノ通改定ス

但明治十九年六月本廳己第六十七號同年七月函館支廳丙第十號同年七月根室支廳乙第六十二號達ハ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則取扱手續

第一項

第二項

第三項

第四項

（二十四年大藏省訓令第三十三號同年十二月北海道廳訓令第八十六號ニ依リ消滅第二、第三、第六、第九、第十、第十一、第十二及第十七項皆仝シ）

印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號雛形ニ倣ヒ調製下付スヘシ





但二種以上賣捌クモノハ各種類ヲ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ

第五項　他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スルモノアル時ハ規則第七條二項ノ年限中ニ該ルモノニ之レナキヤ否及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルコトナキヤ否ヲ詳査スヘシ

第六項

第七項　規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ延納ヲ許可スルトキハ其抵當トナスヘキ公債證書ハ左ノ價格ニ據リ領置スヘシ

但代金延納ヲ許可シタルトキハ第五號雛形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納受書ヲ徵スヘシ

（中山道鐵道七分利付金條六分五厘起業換金海軍整理札引分目）額面百圓ニ付金九拾五圓

額面百圓ニ付金九拾圓

新公債額面百圓ニ付金七拾貳圓

第八項　規則第十條但書ニ據リ延納ノ代金收入方翌年度ニ亘ルモノハ現收入年度ニ編入スヘシ

（二十四年四月大藏省訓令第三十三號同年十二月北海道廳訓令第八十六號ニ依リ收入年度ノ下「ノ税表」ノ三字消滅）

第九項

第十項

第十一項

第十二項

第十三項　規則第十七條ニ據リ返納セシ印紙（代金延納ニ係ルモノヲ除ク）ハ其種類枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ稟議スヘシ（二十四年四月大藏省訓令第三十三號同年十二月北海道廳訓令第八十六號ニ依リ其種類ノ下括弧内長角云々二十字消滅）

但本文印紙返納ノ年度ト之レカ代金納入ノ年度ヲ異ニスルモノアルトキハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ

第十四項　郡區長ハ毎月賣捌人ヨリ賣捌タル印紙ノ種類（煙草證券賣藥印紙ノ如シ）金額及殘高ノ計算書ヲ差出サシムヘシ

第十五項　損傷又ハ汚染印紙ノ交換ヲ差許スヘシ（二十四年四月大藏省訓令第三十三號同年十二月北海道廳訓令第八十六號ニ依リ差許ノ下シタルトキ云々七十三字消滅）

第十六項　規則第十一條ニ據リ割引ヲナス時ハ厘位未滿ノ端數ヲ生セサル樣賣下ヲナスヘシ

第十七項

第十八項　賣捌人ニ於テ規則ニ違背シタル者アルトキハ手續書ヲ徵シ尙其情狀ヲ具申スヘシ

（雜形略ス）

○明治二十五年四月七日北海道廳告示第二十六號

印紙類賣捌所配置左ノ通改ム

但宗谷郡役所部内ノ内枝幸郡及紗那郡役所部内各郡ハ追テ告示ス（二十五年六月告示第四十一號ヲ以テ但書ノヶ所配置ス）

（南一條西一丁目一ヶ所
南一條西三丁目一ヶ所





南二條西一丁目一ヶ所
南二條西四丁目一ヶ所
南三條西二丁目一ヶ所
南四條西四丁目一ヶ所（二十五年十一月告示第五十九號ヲ以テ追加）
南五條西四丁目一ヶ所
南三條東一丁目一ヶ所
北三條各町一ヶ所
北五條各町一ヶ所
札幌區

東濱町一ヶ所　大町一ヶ所
惠比須町一ヶ所　元町一ヶ所
地藏町一ヶ所　東川町一ヶ所
辨天町一ヶ所　西濱町一ヶ所
若松町一ヶ所
函館區

龜田村一ヶ所　下湯川村一ヶ所
石崎村一ヶ所　戸井村一ヶ所
尻岸内村一ヶ所　七飯村一ヶ所
大野村一ヶ所　椴法花村一ヶ所
龜田郡

上磯郡
- 茂邊地村一ケ所
- 知内村一ケ所
- 木古内村一ケ所
- 上磯村一ケ所

尾札部村一ケ所
- 臼尻村一ケ所

茅部郡
- 鹿部村一ケ所
- 砂原村一ケ所
- 森村一ケ所
- 落部村一ケ所

山越郡
- 長万部村一ケ所
- 八雲村一ケ所

松城町一ケ所

唐津内町二ケ所

松前郡
- 横町一ケ所（二十五年五月告示第三十三號ヲ以テ藏町ヲ横町ト改ム）
- 泊川町一ケ所
- 江良町村一ケ所
- 吉岡村一ケ所
- 福嶋村一ケ所

佐平治町一ケ所

姥神町一ケ所

北新町一ケ所

中歌町一ケ所

檜山郡
- 上ノ國村一ケ所
- 石崎村一ケ所
- 俄虫村一ケ所
- 泊村一ケ所

中茂尻町一ケ所

詰木石町一ケ所

乙部村一ケ所

熊石村一ケ所

爾志郡
- 相沼内村一ケ所
- 突符村一ケ所





久遠郡
- 蚊柱村一ケ所
- 上古丹村一ケ所
- 太田村一ケ所
- 貝取澗村一ケ所（廿六年十一月告示第七十七號ヲ以テ貝取澗村ヲ追加ス）

奥尻郡
- 釣掛村一ケ所
- 青苗村一ケ所

瀬棚郡
- 瀬棚村一ケ所
- 中歌村一ケ所

太櫓郡
- 太櫓村一ケ所

壽都郡
- 大磯町三ケ所

嶋牧郡
- 永豐村一ケ所
- 本目村一ケ所（二十六年八月告示第六十號ヲ以テ本目村ヲ加フ）

歌棄郡
- 潮路村一ケ所

磯谷郡
- 能津登村一ケ所

岩内郡
- 御鉾内町二ケ所

古宇郡
- 泊村一ケ所
- 神恵内村一ケ所
- 奥志内村一ケ所（廿六年十月告示第六十五號ヲ以テ奥志内村ヲ加フ）

曙町一ケ所

小樽郡
- 港町一ケ所
- 入船町一ケ所
- 堺町一ケ所
- 朝里村一ケ所
- 錢函村一ケ所

高嶋郡
- 手宮町二ケ所
- 色内村二ケ所（二十五年五月告示第三十三號ヲ以テ一ケ所ヲ二ケ所ニ改ム）
- 高嶋村一ケ所（二十六年十一月告示第七十一號ヲ以テ本村ヲ加フ）

忍路郡
- 忍路村一ケ所
- 桃内村一ケ所

鹽谷村一ケ所（二十六年二月告示第四號ヲ以テ本村ヲ加フ）
余市郡川村一ケ所　濱中町一ケ所　澤町一ケ所（二十六年六月告示第五號ヲ以テ澤村ヲ加フ）
古平郡濱町一ケ所
美國郡船澗村一ケ所　日司村一ケ所
積丹郡來岸村一ケ所　別苅村一ケ所
增毛郡辨天町一ケ所　鬼鹿村一ケ所
留萌郡留萌村一ケ所　燒尻村二ケ所
苫前郡白志泊村一ケ所　力畫村一ケ所（二十五年六月告示第四十一號ヲ以テ力畫村ヲ加フ）
天賣村一ケ所
利尻郡鬼脇村三ケ所　仙法志村一ケ所
本泊村一ケ所　沓形村一ケ所
禮文郡香深村一ケ所
宗谷郡稚内村二ケ所
枝幸郡枝幸村一ケ所（二十五年六月告示第四十一號ヲ以テ追加）
網走郡北見町三ケ所
斜里郡斜里村一ケ所　湧別村一ケ所
紋別郡紋別村一ケ所





幌内村一ケ所
常呂郡常呂村一ケ所
室蘭郡輪西村一ケ所　札幌通一ケ所
元室蘭村一ケ所
幌別郡登別村一ケ所　鷲別村一ケ所
幌別村一ケ所
虻田郡虻田村一ケ所
有珠郡西紋鼈村一ケ所
白老郡白老村一ケ所
勇拂郡苫小牧村一ケ所
三石郡姨布村一ケ所
浦河郡浦河村一ケ所
樣似郡樣似村一ケ所
幌泉郡幌泉村一ケ所
靜内郡下々方村一ケ所
沙流郡門別村一ケ所
釧路郡眞砂町三ケ所　昆布森村一ケ所

廣尾郡茂寄村一ケ所
十勝郡大津村一ケ所
白糠郡白糠村一ケ所
川上郡熊牛村二ケ所
厚岸郡（太田村一ケ所　霧多布村一ケ所）
根室郡（本町四ケ所　綠町一ケ所　和田村一ケ所）
花咲郡昆市盛村一ケ所
野付郡別海村二ケ所
標津郡標津村一ケ所
國後郡泊村一ケ所
石狩郡（親船町一ケ所　當別村一ケ所）
厚田郡厚田村一ケ所
濱益郡茂生村一ケ所

灣月町一ケ所
柳町一ケ所
梅ケ枝町一ケ所
彌生町三ケ所

東沸村一ケ所
船場町一ケ所
古潭村一ケ所
群別村一ケ所





上川郡永山村一ケ所　旭川村一ケ所（二十六年六月告示第五十號ヲ以テ旭川村ノ追加）
札幌郡（豐平村一ケ所　琴似村一ケ所　江別村一ケ所　下手稻村一ケ所（二十五年十一月告示第五十九號ヲ以テ下手稻村ヲ加フ））
千歲郡千歲村一ケ所
空知郡（岩見澤村二ケ所　市來知村一ケ所　瀧川村二ケ所　幌內村一ケ所　幾春別村一ケ所　奈江村二ケ所（二十六年二月告示第四號ヲ以テ奈江村一ケ所ヲ二ケ所ニ改ム））
樺戸郡月形村一ケ所
夕張郡（登川村一ケ所（二十六年六月告示第五十號ヲ以テ追加）　由仁村一ケ所（二十五年十一月告示第五十九號ヲ以テ追加））
紗那郡紗那村一ケ所　留別村一ケ所（二十五年六月告示第四十一號ヲ以テ加フ）
振別郡振別村一ケ所（仝上）

○明治二十五年六月三日北海道廳訓第百四十七號（內務部、郡區役所、警察署宛（各通））
本年二月大藏省令第三號願書其他ノ書類ニ貼付シテ官署ニ納付セシ登記印紙ハ事件結了ト同時主任官吏ニ於テ印紙ノ中央ヘ適宜ノ印章ヲ以テ鮮明ニ消印ヲ爲シ再用ノ掛念ナキ樣取締ヲナスヘシ
○明治二十六年七月二十六日北海道廳訓第二百十五號（內務部、郡區役所、警察署、警察分署宛）
明治二十六年度以降登記印紙貼用額別紙書式ニ據リ取調翌年度四月十日限リ進達スヘシ

（別紙畧ス）

## ○地方税

○明治十三年五月十七日開拓使乙第四號布達
正租五分一民費ノ儀ハ自今地方税トシテ徴收シ郡區ノ費用ニ充候條此旨布達候事
○明治十三年六月五日開拓使函館支廳第四十三號布達
正租五分一地方税ノ儀ハ第四十二號布達各種地租納期ニ依リ徴收候條此旨市達候事
○明治二十三年三月二十九日北海道廳令第九號
明治十三年六月開拓使函館支廳第四十三號布達地租割税ハ其年六月十二月末日ノ現租額ニ據リ之ヲ賦課シ第一期ハ其年七月三十一限リ第二期ハ翌年一月三十一日限リ徴收スヘシ
○明治十四年三月十七日開拓使函館支廳第十八號布達
地方税賦課規則冊之通リ相定メ本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但明治十一年八月第七十五號布達同十二年三月第二十三號布達第四條同年五月第三十八號布達ハ同日ヨリ消滅候儀ト心得ヘシ

### 地方税賦課規則

第一條　地方税ニ關スル諸營業ヲナサント欲スル者ハ組合取締並戸長役場ヲ經郡區長ノ許可ヲ受クヘシ
但別段ノ規則ヲ以テ定ムルモノハ此限ニアラス



第二條　郡區長ノ許可ヲ得タルモノハ第九條ニ掲クル税目相當ノ税金ヲ納メ開業ノ節ハ其業名等級苗字名ヲ記載シタル看板ヲ店頭ニ掲クヘシ
但別段ノ規則ヲ以テ特ニ鑑札ヲ下渡置クモノ及ヒ屠牛諸興行場等ハ此限ニアラス（十五年函館縣甲第二十號布達追加）
第三條　第九條ニ掲クル年税ハ一ケ年其年七月ヨリ翌年六月マテヲ前後二期ニ區別シ其第一期七月ヨリ十二月マテ分ヲ其年七月三十一日限リ第二期翌年一月ヨリ六月マテ分ヲ翌年一月三十一日限リ納ムヘシ
但納期後開業スルモノハ其期ノ税金ヲ即納スヘシ廢業スルモノハ其期ノ税金ヲ免除セスト雖トモ納期ノ月ニ廢業スルモノニ限リ其期ノ税ヲ免除ス
第四條　月税ハ其月分其月三十日限リ納ムヘシ
但新規營業ノ者開業十五日以前ハ全額十六日以後ハ半額ヲ納ムヘシ其廢業モ之レニ準ス
第五條　演劇諸興行遊覽所屠牛税ハ前月分翌月十日限リ納ムヘシ其一ケ月内ニ休業ノモノハ翌日ヨリ五日間ニ納ムヘシ
第六條　新規營業ニ係ルモノヽ等級アル諸營業税金ハ總テ未等ノ税額ヲ課シ其次期ヨリ相當ノ等級ニ組入課税ス
第七條　總テ税金ハ組合アル各業ハ取締人又ハ月番等ニ於テ取纒メ之ヲ納メ其組合ナキモノハ營業人ヨリ直ヲ納ムヘシ
第八條　年税ニ係ル新規營業許可ヲ得タルモノ該指令本人ヘ到達ノ翌日ヨリ三十日ヲ經過シ税金

ヲ納メサルモノ及ヒ納期ヲ誤ルモノハ總テ明治十年十一月第七十九號同十一年十月第三十四號公市ニ依リ處分スヘシ

第九條

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廻船宿 | 五等 | 同金千四金三十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 四等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 三等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 二等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 一等 | 一ケ年收入金五千圓以上 | 一ケ年收入金五千圓以上 |
| 製氷 | 三等 | 同金四十五圓 | 同金四十五圓 |
| | 二等 | 同金四十五圓 | 同金四十五圓 |
| | 一等 | 一ケ年賃貸金二千拾圓以上 | 一ケ年賃貸金二千拾圓以上 |
| 諸會社 | 五等 | 同金一圓五拾錢 | 同金一圓五拾錢 |
| | 四等 | 同金二圓五十錢 | 同金二圓五十錢 |
| | 三等 | 同金五圓 | 同金五圓 |
| | 二等 | 同金拾圓 | 同金拾圓 |
| | 一等 | 資本金三万圓以上年税金二万金拾五圓 | 資本金三万圓以上年税金二万金拾五圓 |

但國税アルモノヲ除ク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 湯屋 | 三等 | 同金五十錢 | 同金五十錢 |
| | 二等 | 同金一圓 | 同金一圓 |
| | 一等 | 年税金二圓 | 年税金二圓 |
| 雇人請宿 | 三等 | 同金五十錢 | 同金五十錢 |
| 古古道具金貸 | 二等 | 同金一圓 | 同金一圓 |
| | 一等 | 年税金三圓 | 年税金三圓 |
| 質屋 | 四等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 三等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 二等 | 同金千四金二十四圓 | 同金千四金二十四圓 |
| | 一等 | 一ケ年質取高金十五万圓以上 | 一ケ年質取高金十五万圓以上 |
| 旅人宿 | 三等 | 同金五拾錢 | 同金五拾錢 |
| | 二等 | 同金一圓 | 同金一圓 |
| | 一等 | 一ケ年宿泊人五千人以上 | 一ケ年宿泊人五千人以上 |
| 船荷扱 | 三等 | 同金五百金四以上二圓下圓 | 同金五百金四以上二圓下圓 |
| | 二等 | 同金五百金四以上二圓 | 同金五百金四以上二圓 |
| | 一等 | 一ケ年收入金千四以上五圓 | 一ケ年收入金千四以上五圓 |

炭　竈　一ケ所ニ付　年税金五十錢

人寄定寄（談話雑話音曲等ノ定席ヲ云フ）

一等　年税金四圓
二等　同　月税金五圓
料理屋
三等　同　金四圓
四等　同　金三圓
五等　同　金二圓
（十八年同縣甲第三十二號布達ヲ以テ改正）
同　金一圓

但西洋料理屋ハ本税ノ半額

飲食店
一等　月税金二圓
二等　同　金一圓
三等　同　金五十錢
四等　同　金三十錢
五等　同　金十錢
（鰻屋　鮨屋　醤油屋　麦粉屋　汁粉屋ノ類）
同上

理髪床
一等　年税金壹圓
二等　同　金五十錢

但函館區ヲ除ク各郡ハ本税ノ半額

藝妓
一等　月税金二圓
二等　同　金一圓





但函館區ヲ除ク各郡ハ本税ノ半額

屠牛　一頭ニ付　金二十五錢

演劇
諸興行（相撲輕業手品ノ類眼鏡人形其他）
遊覧所（花園諸見世物）
上リ高金百分ノ三

○明治十四年三月九日開拓使函館支廳第五號達（郡區役所戸長役場宛）

本年本月當廳第十八號布達地方税賦課規則中諸營業心得左ノ通相定候條右營業者ヘ示達スヘシ此旨相達候事

諸營業心得

一地方税ニ關スル諸營業ハ願書ニ指令シ鑑札ヲ下付セサルモノトス

但シ別段ノ規則アルモノハ鑑札ヲ付與スト雖トモ鑑札料ヲ徴收セサルヘシ

一各營業許可ヲ得開業ノ節ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

二尺

何等
何營業
何之誰
兼業何等何々

七寸

一各營業許可ヲ得タルモノハ警察署又ハ分署所在地ハ指令書携帶該署ヘ屆出ツヘシ

一各營業ハ其種類ニ依リ成可組合ヲ立正副取締人又ハ月番ヲ設ケ規約ヲ結ヒ營業上ノ諸事ヲ辨理セシム

一組合ハ一郡區役所又ハ一戸長役場管理ノ町村ヲ一組トスヘシ

一組合規約等ヲ設ケタルトキハ取締又ハ月番ヨリ戸長役場ヲ經郡區役所ヘ屆出ヘシ（二十六年十二月則第三百六十一號ヲ以テ本項ノ通更正）

一組合取締又ハ月番等アル各業ヲ營マント欲スルモノモ其取締又ハ月番ノ奥書ヲ受ケ願出ヘシト雖トモ無謂奥書ヲ拒ムコトアラハ直チニ差出ヲ得ヘシ

一納税日限ハ成規ノ納期内ニ於テ郡區役所ヨリ適宜相定メ達スヘシ

一營業者移轉ノ節一郡區役所々管内ハ屆出ルノミニ止ルモノトスト雖トモ甲郡ヨリ乙郡所管内ヘ移轉スルトキハ其旨甲郡役所ヘ屆出添翰ヲ受ケ乙郡役所ニ差出スヘシ

乙郡役所ニ於テハ其添翰ヲ受ケ次期ヨリ税金ヲ徴收ス若シ府縣又ハ本支廳所管内ヘ移住スルモノハ廢業屆ヲ出スヘシ

一年税ニ係ル各業ヨリ月税ニ係ル各業ニ轉シ又ハ月税ノ業ヨリ年税ニ轉スルモノハ一旦休業ノ上更ニ願出ツヘシ

一各業等級ハ取締人又ハ月番等ヲシテ調査セシムヘシ組合ノ設ナキ分ハ同業中ヨリ公評人三名以上ヲ公撰セシメ其公評人ノ公評シタル調書ニ據リ税額ヲ定ムヘシ

但シ藝妓等級ハ本人及ヒ組合世話人ト協議セシムヘシ

一賣上金高ヲ以テ税額ヲ定ムルモノハ甲年一月ヨリ十二月マテノ總高金ニ據リ乙年七月ヨリ丙年六月マテノ税額ヲ定ムルモノトス

一賣上高金並質取高金其他税額ヲ定ムル爲ニ調査セシムル調書ハ取締人又ハ月番等ニ於テ毎半ケ年分取纏メ戸長役場ヘ差出シ戸長ニ於テ之レヲ精覈調査シ相當ト見認ル分ハ郡區役所ヘ差出スヘシ

一演劇諸興行遊覽所上リ高金（木戸錢桟敷錢土間錢等）調ハ其日ノ分翌日差出スヘシ

一屠牛ハ毎月屠殺ノ數ヲ翌月三日限戸長役場ヲ經テ郡區役所ヘ差出スヘシ

一營業人ヨリ屆出タル賣揚金及取締月番公評人等ノ調査シタル等級等郡區長ニ於テ不相當ト見認ルトキハ之レヲ再調セシムヘシ其場合ニ據リ直チニ各戸ノ帳簿ヲ調査スルモ妨ケナシトス

一結社シテ年税アル營業ヲ爲スモノハ會社税營業税ノ内一ノ多キモノニ依テ徴收ス

一廻船宿並船舶荷物取扱ニ關シ收入シタル口錢並手數料總金高ニ據リ課税スヘシ

一温泉並藥湯ノ類ハ湯屋税ヲ課スヘシ

一水夫宿木賃宿或ハ下宿ト唱ヒ客舍ヲ設ケ數人ヲ寄宿セシメ賄料ヲ受クルモノハ旅人宿ト同シク課税スヘシ

一花園盆栽ヲ併列シ看客ヨリ見料ヲ申受ルモノハ總テ遊覽所ノ税ヲ課スヘシ

一祭典佛事ノ際社寺境内ニ於テ一時諸興行見セ物ヲ縱覽セシムルハ課税ノ限ニアラス

○明治十四年三月二十四日開拓使函館支廳第二十號布達

戸數割民費ヲ戸數割税ト改メ徴收規則左ノ通相定候條此旨布達候事

戸數割税徴收規則

第一條　凡ソ管内ニ居住シテ一戸ヲナスモノハ本籍寄留ヲ問ハス總テ戸數割税ヲ賦課スヘシ

但一戸主ニ非ラスト雖トモ別居シテ一竈ヲナスモノハ本文ニ準シテ賦課スヘシ尤他府縣ヨリ移住シ農桑ノ業ヲ營ムモノハ三年以内除税スヘシ

第二條　戸數割税ハ毎年一月一日七月一日各町村ノ現數ニ據リ一年ヲ二期ニ分チ其第一期（其年七月ヨリ十二月マテ）分ハ七月三十一日限リ第二期（翌年一月ヨリ六月マテ）分ハ翌年一月三十一日限リ徴收スヘシ

但納税後他ヘ轉居スト雖トモ其期ノ税金ヲ下戻サス他ヨリ移住スルモノハ其期ノ税金ヲ免除ス

第三條　官廳公立學校病院社寺諸會社ハ之ヲ除クヘシト雖トモ其家屋ニ寄留シ一竈ヲナスモノハ賦課スヘシ

第四條　戸數割税ハ管内一般各戸平均ニ割當スヘシ

但毎戸貧富ノ等級ヲ分テ一郡區或ハ一町村限リ其合計金高ヲ適宜割合スル等人民ノ協議ニ任スヘシ

○明治十四年四月十六日開拓使函館支廳第十三號達（郡區役所戸長役場宛）

本年三月第二十號布達戸數割税徴收規則ノ儀十四年度（本年七月ヨリ施行候儀ト可相心得此旨相達候事





○明治十六年十一月二十日根室縣甲第五十四號布達

今般甲第五十一號ヲ以テ貸座敷取締規則等布達候ニ付テハ去ル十一年十一月舊開拓使根室支廳第二十六號布達廢止相成候得共藝妓税ノ義ハ從前所定ノ額左ノ通徴收候條此旨布達候事

但シ納期ハ翌月五日限リ半途營業又ハ休廢業スル者ハ十五日前後ヲ區分徴税シ住所ヲ轉換シタルモノハ其地ニ於テ徴税スヘシ（十八年縣甲第二十九號ヲ以テ但書追加）

| | | |
|---|---|---|
| 一藝妓上等 | 一ヶ月 | 金貳圓五十錢 |
| 一仝中等 | 一ヶ月 | 金壹圓五拾錢 |
| 一仝下等 | 一ヶ月 | 金壹圓 |

○明治十七年四月二十五日札幌縣甲第十九號布達

地方税徴收規則左ノ通相定メ來ル十八年七月一日ヨリ施行ス

右布達候事

地方税徴收規則

第一章　地租割

第一條　地租割ハ其年度（即チ十六年度ナレハ十六年分）ノ地租額ニ據リ之ヲ賦課シ地主ヨリ（其地所買入ニ係ルモノハ買取主ヨリ）徴收スルモノトス

第二條　地租割徴收後ハ假令其土地天災ニ罹リ地租免除ノ場合ト雖トモ之ヲ返付セサルヘシ

第三條　地租割ハ地租額ノ五分一ヲ課シ其税額ヲ兩期ニ區分シ之ヲ徴收（例ヘハ四捨五入シテ三區トナルカ如キハ第一期ニ弐區第二期ニ

壹厘ヲ徴収スヘシ スルモノトス

## 第二章　戸數割

第四條　戸數割第一期ハ其年七月一日第二期ハ翌年一月一日ノ現在戸數（竈數ヲ云フ）ニ據リ之ヲ課賦シ現住者ヨリ徴收スヘシ

第五條　戸數割徴收後ハ假令罹災ノ爲メ家屋ヲ蕩盡スル場合ト雖トモ之ヲ送付セサルヘシ

第六條　戸數割ハ官舍借受居住ノ者及官有地ニ家屋ヲ有スルモノト雖トモ同ク之ヲ賦課徴收スヘシ

第七條　官廳及公私立學校説教所病院社寺諸會社ハ之ヲ除クト雖トモ若シ其家屋ニ寄寓シ一竈ヲ爲スモノハ同ク賦課徴收スヘシ

第八條　戸數割ハ本籍寄留ヲ問ハス同居シテ竈ヲ異ニセサルモノハ之ヲ賦課セサルモノトス

第九條　戸數割ハ納税ノ期月ニ至リ甲町村ヨリ乙町村ニ轉居スルモノハ仍ホ甲町村ニ於テ之ヲ徴收シ又納税後他ヘ轉居スルモノハ税金ヲ下戻サス他ヨリ移住スルモノハ其期ノ税金ヲ徴收セサルモノトス

但他府縣ヘ轉居スルモノモ亦本條ニ依ルヘシ

第十條　他府縣ヨリ移住シ農桑ノ業ヲ營ムモノニ限リ滿三年除税ス其起算方ハ送籍狀到達ノ月ヨリ滿三十六ケ月トス

但滿年ニ至ルト雖トモ毎半期（翌年七月該年一月）一日現在調ニ加入セサル分ハ徴收セス



## 第三章　營業税雜種税

第十一條　營業税雜種税ハ總テ國税ナキ者ニ賦課スヘシ其數業ヲ兼ヌルモノハ税額ノ多キモノニ依テ徴收スヘシ尤製氷、旅人宿、雇人請宿、湯屋、理髮床、屠牛、水車並蒸氣器械搗、藝妓、炭竈、演劇、人寄席、諸興行、遊覽所ノ各税ハ一種目毎ニ其税額ヲ徴收スヘシ

但數所ニ出店スルモノモ亦本條ニ同シ

第十二條　各種税金ハ其許可ヲ受ケタルモノヨリ納期ニ照シテ之ヲ徴收スヘシ

第十三條　卸賣商、仲買商、小賣商、雜商、製氷、回船宿、運漕並船荷扱、旅人宿、質屋（古着）、古道具（古鐵）賣買、料理屋、湯屋、飲食店、理髮床ノ各税ハ前年一月ヨリ十二月迄ノ商金高口錢手數料噸數收入高宿客員數質取高ニ據リ其年度ノ税額ヲ査定スヘシト雖トモ第十一條ニ掲クル種目外ノ營業ニシテ數業ヲ兼ルモノハ其商金高等ヲ合算シ之ヲ徴收スヘシ

但シ新規開業ハ見積高ヲ以テ税額ヲ定ムヘシ

第十四條　仲買商其他口錢手數料等ノ收益金ハ通常二割ノ利益ト見做シ其割合（例ヘハ二十四ノ上リ高ナレハ百四トナスカ如シ）ヲ以テ商金高同位トシ徴收スヘシ

第十五條　各營業者資本高及商高其他税額ヲ定ムルモノニ異同ヲ生スルモ其年度内ハ据置最初査定スル税額徴收シ翌年度ヨリ之ヲ更正スヘシ

但新規營業者當初見積金高等ニ依テ税額ヲ定メタルモノ他日其見積高等ニ增減ヲ生スルモ亦本條ニ同シ

第十六條　小賣營業者ニシテ行商ヲナスモノハ店賣高ニ合算シテ徵收スヘシ

第十七條　賣藥受賣者及行商者ハ總テ小賣税ヲ徵收スヘシ

但行商專業者ハ他ノ行商專業者ト同シ

第十八條　新規開業ハ左ノ區別ニ依リ徵收スヘシ

一年税ハ上半年度内ニ於テ開業スルモノハ全額下半年度内ニ於テ開業スル者ハ半額ヲ徵收スヘシ

一月税ハ十五日以前ニ開業スル者ハ全額十六日以後ニ開業スル者ハ半額ヲ徵收スヘシ

第十九條　廢業ハ左ノ區別ニ依リ除税スヘシ

一年税ハ上半年度内ニ廢業スルモノハ半額ヲ除税シ下半年度内ニ至リ廢業スルモノハ除税ノ限リニアラス

一月税ハ十五日以前ニ廢業スルモノハ半額ヲ除税シ十六日以後ニ至リ廢業スルモノハ除税ノ限リニアラス

第二十條　納税ノ期日ニ至リ甲役所部内ヨリ乙役所部内ヘ移轉營業スルトキハ當期ノ税金ハ甲役所ニ於テ徵收シ乙役所ニ於テハ次期ヨリ徵收スヘシ

第二十一條　地方税ニ關スル營業鑑札料ハ徵收セサルモノトス

第二十二條　上リ高ヲ以テ徵收スルモノハ願人ヨリ其日ノ上リ金高毎翌日戸長役場ニ屆出ツヘシ

戸長役場ニ於テハ上リ高ノ實否調査ノ其税金ヲ徵收スヘシ

第二十三條　祭典佛事ノ際一時興行ヲナシ縱覽セシムルモノハ課税ノ限ニアラス

第二十四條　他府縣ヨリ本縣管内ヘ寄留シ營業税雜種税ヲ賦課スヘキ營業ヲ爲スモノハ總テ前各條ニ準據スヘシ

○明治十七年四月二十五日札幌縣甲第二十一號布達

地方税營業規則左ノ通相定メ來ル十八年七月一日ヨリ施行ス

但營業願廢業屆書式ハ郡區役所ヨリ示達スヘシ

右布達候事

## 地方税營業規則

### 第一章　營業

第一條　會社及水車並蒸氣器械搗製氷ハ戸長ノ奥書ヲ受ケ郡區役所ヲ經由シ縣縣ヘ願出ヘシ

但古着古道具古錢賣買及質屋營業等ノ如キ別段ノ規則アルモノハ其規則ニ從フモノトス

第二條　第一條ニ掲クル種目外ノ諸營業ハ戸長ノ奥書ヲ受ケ所管郡區役所ヘ出願（營業組合アルモノハ取締ノ連署ヲ受ケヘシ）許可ヲ受ケタル上開業スヘシ

第三條　前條營業願書式等別段ノ規則アルモノハ其規則ニ從フヘシ

第四條　第一條第二條ノ諸營業（行商ハ除ク）ハ願書ニ指令シ鑑札ヲ下附セサルモノトス鑑札ヲ附與スヘキ別段ノ規則アルモノ並行商ニハ指令ヲナサス鑑札ヲ附與スヘシ

但行商者ハ必ス鑑札ヲ携帶スルモノトス

第五條　左ニ記載スル種目ハ何營業ト書シタル看板（行商專業者ヲ除ク）ヲ店頭ニ掲クヘシ

但看板ノ雛形等別段ノ別則アルモノハ其規則ニ從フモノトス

會社　卸賣商　仲買商　小賣商

雜商　回船（古着古道具）賣買　運漕及船荷扱　旅人宿

質屋　料理屋　飲食店　湯屋　雇人受宿

料理屋　理髮床

看板雛形

竪二尺

| 雜 | 何等 |
|---|---|
| 古 | 何商營業 |
| 物 | 何　某 |

第六條　營業者改名代換及一郡區役所部内轉居ノ節ハ出願許可ヲ受ケ又ハ鑑札ノ引換ヲ請フヘシ

尤モ甲役所部内ヨリ乙役所部内ヘ移轉營業セントスルトキハ甲役所ヘ申出（鑑札アルモノハ近納スヘシ）添翰ヲ受ケ乙役所ヘ願出又ハ鑑札ヲ受クヘシ

但鑑札アル營業者水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ失却シタル節ハ直ニ郡區役所ヘ申出更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第七條　各營業者廢業セントスルトキハ屆出鑑札アルモノハ還納シ看板ヲ掲ケタルモノハ之レヲ除去スヘシ

但他府縣ヘ移轉スルモノモ亦本條ニ同シ

## 第二章　取締設置

第八條　營業稅雜種稅中左ノ種目ノ營業者ハ一町村又ハ數町村ヲ一組ト定メ（戶長役場部内ヲ限ル）之レニ取締一人或ハ二人ヲ置クヘシ

但各營業者中協議合併シテ一組トナスモ妨ケナシ

卸賣商　仲買商　小賣商　雜商

回船（古着古道具）賣買　運漕並船荷扱　旅人宿　質屋

料理屋　飲食店

理髮床　湯屋

第九條　取締ハ營業者中ノ協議ニ依テ定ムヘシ其撰定シタル人名ハ戶長ヲ經由シ郡區役所ヘ屆出ヘシ

但取締病氣又ハ不得止事故アリテ退職セントスルトキハ更ニ跡役撰定ノ上本條ノ手續ヲナスヘシ

## 第三章　商金高調査

第十條　取締ハ組合營業者ノ金高及收入高口錢手數料質取高宿客員數等ノ調査ヲナシ且ツ平常出

願洩レノモノ之レナキ樣注意スヘシ

第十一條　各營業者ハ毎月ノ初メニ於テ前月分ノ商金高其他員數等計算シ之レカ帳簿ノ月計及ヒ毎半期分ヲ總計シ取締ノ調査ヲ受クヘシ

第十二條　取締ハ毎年兩度各營業者ノ商金高其他員數等ノ調書ヲ製シ一月ヨリ六月マテノ分ハ其年七月三十一日限リ七月ヨリ十二月マテノ分ハ翌年一月三十一日限リ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十三條　戸長役場ニ於テハ取締ヨリ差出ス所ノ商金高其他員數等ノ調書ニ就キ之レヲ調査シ毎一ケ年分ヲ計算シ別紙雛形ニ倣ヒ正副二通ヲ調整シ毎年二月二十八日限リ郡區役所ヘ差出スヘシ

但新規開業者（前年ノ開業者ヲ除ク）ニシテ例ヘハ其年七月ヨリ開業六ケ月間營業スルトキハ其商金高ヲ六ケ月ニテ除シ之レニ十二ケ月ヲ乘シテ一ケ年ノ商金高トシ計算スヘシ

第十四條　新規營業者ハ其種類ニ依リ仕入金高若クハ收入見積金高等ヲ詳記シ組合取締ヘ申出ツヘシ取締ニ於テハ精密ニ之レヲ調査シ出願ノ手續ヲナサシムヘシ

第十五條　商金高其他ノ諸帳簿ハ毎年三月ヨリ四月マテノ間ニ於テ郡區吏ヲ派遣シ精覈檢査セシムルモノトス

但檢査濟ノ分ハ後證トシテ證印ヲ捺スヘシ

（用紙美濃罫紙）

何年（自一月至十二月）地方税中各營業（商高其他）總計表　何郡（町村）何區

| 種目 | 等級 | 員數 | 人名 |
|---|---|---|---|
| 卸 | 何等 | 商金若干 | 何某 |
| 仲買 | 同 | 同 | 同 |
| 小賣 | 同 | 同 | 同 |
| 何々 | 同 | 同 | 同 |

戸長役場部内ノ分ハ一紙中ニ記載スヘシト雖トモ一町（村）限リ記別スヘシ

右ハ當役場部内各營業者商金高其他組合取締ヨリ差出候帳簿調査總計候處表面之通相違無之候也

年　月　日

郡區長　宛

何郡（區）何町（村）

戸長　何　ノ　誰　印





○明治十七年四月二十五日札幌縣甲第二十二號布達

地方税賦課法左ノ通相定メ來ル十八年七月一日ヨリ施行ス

右布達候事

## 地方税賦課法

### 地租割

一地租金拾圓ニ付　金貳圓

戸數割

一戸數一戸ニ付

一等　財産高五百圓以上　年稅金壹圓以內

二等　同　百　圓以上　同　七拾錢以內

三等　同　百　圓未滿　同　四拾錢以上

一戸數割ノ等級ヲ定ムルハ戸長ヲシテ調査ヲ爲サシメ其當否ハ郡區役所ニ於テ之ヲ審査確定スルモノトス

一戸數割ハ本籍寄留ト戸主非戸主トヲ問ハス總テ現在者ニ賦課ス

但同居スルト雖トモ竈ヲ異ニスルモノハ本條ニ仝シ

一他府縣ヨリ移住シ農桑ノ業ヲ營ムモノハ滿三年除稅スヘキモノトス

營業稅

商業

一會社　二人以上協同結社シテ資金ヲ集メ營業ヲナスモノ

一等　資本金高三万圓以上　年稅金拾圓以內

二等　同　　弐万圓以上　同　金七圓以內

三等　同　　壹万圓未滿　同　金五圓以內三圓迄

一人ノ所有ニ係ルモノニシテ會社ノ資格ヲ有シ商業ヲ爲スモノハ一個ノ會社トシテ本稅ヲ課ス



一分社支店出張所ト雖トモ別ニ資金ヲ備フルト否ラサルトヲ問ハス一個ノ會社トシテ本稅ヲ課ス

一卸賣商　卸賣商トハ產地職工仲買等ヨリ物品ヲ買入商人ヘ賣捌クモノヲ云フ

一等　商金高壹万圓以上　年稅金七圓以內

二等　同　五千圓以上　同　金五圓以內

三等　同　五千圓未滿　同　金三圓以內壹圓迄

一仲買商　產地職工又ハ商賈物品ヲ買入賣却シ及各商ノ間ニ立賣買ノ紹介ヲ爲シ口錢手數料ヲ受クルモノヲ云フ

一等　商金高三千圓以上　年稅金五圓以內

二等　同　千　圓以上　同　金三圓以內

三等　同　千　圓未滿　同　金壹圓以內五拾錢迄

一口錢手數料ノ收益アルモノハ通常弐割ノ利益ト見做シ課稅スヘシ

一小賣商　小賣商トハ卸仲買又ハ產地職工等ヨリ物品ヲ買請ケ若クハ職工ニシテ其物品ヲ需用人ニ賣却スルモノヲ云フ

一等　商金高三千圓以上　年稅金五圓以內

二等　同　千　圓以上　同　金三圓以內

三等　同　千　圓未滿　同　金壹圓以內五拾錢迄

一行商　營業者ハ三等ノ稅額ヲ課ス

一雜商　雜商トハ卸仲買小賣ノ名稱シ難キモノ及損料貸貸本屋等ノ類ヲ云フ

一等　商金高千　圓以上　年稅金三圓以內

二等　同　五百圓以上　同　金壹圓五拾錢以内
三等　同　五百圓未満　同　金五拾錢以内貳拾錢迄

一損料貸等ノ收益ハ通常貳割ノ利益アルモノト見做シ課税スヘシ

一廻船宿
一等　收入金高三千圓以上　年税金五圓以内
二等　同　千　圓以上　同　金三圓以内
三等　同　千　圓未満　同　金壹圓以内五拾錢迄

一運漕並船荷扱
一等　收入金高千　圓以上　年税金四圓以内
二等　同　五百圓以上　同　金貳圓以内
三等　同　五百圓未満　同　金壹圓以内五拾錢迄

一旅人宿　水夫宿、木賃宿、下宿共
一等　宿客三千人以上　年税金四圓以内
二等　同　千　人以上　同　金貳圓以内
三等　同　千　人未満　同　金五拾錢以内貳拾錢迄

一水夫木賃宿下宿專業者ハ三等ノ税額ヲ課ス

一質　屋
一等　質取金高三千圓以上　年税金五圓以内
二等　同　千　圓以上　同　金三圓以内
三等　同　千　圓未満　同　金壹圓以内五拾錢迄

一古道具賣買（古着古鐵）
一等　商金高千　圓以上　年税金三圓以内
二等　同　五百圓以上　同　金壹圓五拾錢以内
三等　同　五百圓未満　同　金五拾錢以内貳拾錢迄

一行商專業ノ者ハ三等ノ税額ヲ課ス

工　業

一會社　二人以上協同結社シテ資金ヲ集メ工業ヲナスモノ
一等　資本金高三万圓以上　年税金拾圓以内
二等　同　壹万圓以上　同　金七圓以内
三等　同　壹万圓未満　同　金五圓以内三圓迄

一壹人ノ有所ニ係ルモノニシテ會社ノ資格ヲ有シ工業ヲ爲スモノハ一個ノ會社トシテ本税ヲ課ス

一分社、支店、出張所ト雖モ別ニ資金ヲ備フルモノハ一個ノ會社トシテ本税ヲ課ス

雜種税

一製氷

一等　賣捌高千　噸以上　年税金拾五圓以内
二等　同　五百噸以上　同　金拾　圓以内
三等　同　五百噸未満　同　金五　圓以内三圓迄

一料理屋
一等　商金高五千圓以上　年税金七圓以内
二等　同　千　圓以上　同　金五圓以内
三等　同　千　圓未満　同　金三圓以内壹圓迄

一湯屋　藥湯及温泉ト唱フル沸シ湯トモ
一等　收入高金千　圓以上　年税金貳圓以内
二等　同　五百圓以上　同　金壹圓以内
三等　同　五百圓未満　同　金五拾錢以内貳拾錢迄

一雇人受宿　年税金貳圓

一飲食店　鰻屋、鮮屋、蕎麥屋、鳥獸肉、汁粉、煮賣、居酒屋ノ類
一等　商金高五百圓以上　年税金三圓以内
二等　同　百　圓以上　同　金壹圓五拾錢以内
三等　同　百　圓未満　同　金五拾錢以内貳拾錢迄

一理髮床





一等　收入高五百圓以上　年税金壹圓
二等　同　五百圓未満　同　金五拾錢

一屠牛　一頭ニ付　金貳拾錢

一水車並蒸汽器械搗一臼ニ付　年税金貳拾錢

一藝妓　月税金壹圓

一炭竈　一竈ニ付　年税金五拾錢

一演劇　芝居、人形芝居、能狂言等ノ類

一人寄定席　軍談、昔語、音曲、淨瑠璃、寫繪、手品、祭文讀ノ類

一諸興行　相撲、曲馬、輕業、力曲持、撃劍會、手踊、生人形等ノ類

一遊覽所　覗眼鏡、花園、盆栽、造花、諸見世物等ノ類

右四項上リ高百分ノ三

○明治十七年四月二十五日札幌縣甲第二十號布達

地方税徴收期限左ノ通相定來ル十八年七月一日ヨリ施行ス

地方税徴收期限

第一條　地租五分ノ一及戸數ハ一ヶ年該年七月ヨリ翌年六月マテヲ二分シ其第一期該年七月ヨリ同年十二月マテヲ該年七月中第二期翌年一月ヨリ同年六月マテヲ翌年一月中ニ納ムヘシ

第二條　營業税雜種税ハ左ノ區別ニ因ルヘシ

第一項　年税資本金高及商高口錢手數料等ノ分通テ以テ納税スルモノハ一ケ年該年七月ヨリ翌年六月マテヲ二分シ其一期該年七月ヨリ同年十二月マテヲ該年七月中第二期翌年一月ヨリ同年六月マテヲ翌年一月中ニ納ムヘシ

但新規開業スルモノハ許可ヲ得タル節其期ノ税金ヲ納ムヘシ

第二項　月税ハ其月末日ヲ限リ納ムヘシ

第三項　上リ高ヲ以テ納税スルモノハ毎翌日ヲ限リ納ムヘシ

第四項　屠牛ハ屠殺ノ日即納スヘシ

○明治十九年一月十五日根室縣甲第二號布達

地租割戸數割税徴收規則別冊ノ通改正來ル四月一日ヨリ施行ス

但シ本則ニ牴觸スル從前ノ布達達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

（別　冊）

## 地租割戸數割税徴收規則

### 第壹章　地租割税

第四條　地租割税ハ地租五分ノ一ヲ以テ一年ノ定率トス

第二條　地租割税ハ其年六月十二月末日ノ現租額ニ據リ之ヲ賦課シ第一期ハ其年七月三十一日限リ第二期ハ翌年一月三十一日限リ徴收スヘシ（二十三年聰令第十號ヲ以テ改正）

第三條　前條賦課期日ニ租額未定ノ土地ハ確定ノ時ニ於テ之ヲ追徴ス

第四條　天災地變ニ依リ荒亡シタル土地ハ徴税ヲ止メ免租確定ノ後之ヲ免除ス若シ減租ニ到ルトキ其割合ヲ以テ税額ヲ遞減スヘシ

但減免租ニ到ラサル場合ニ於テハ其達ヲ得タル日ヨリ五日以内ニ納税スヘシ

### 第二章　戸數割税

第五條　戸數割税ハ一戸ニ付六十錢ヲ以テ一年ノ定率トス

第六條　凡ソ管内ニ居住シ一戸ヲナスモノハ本籍寄留ノ別ナク之ヲ賦課ス

但舊土人ノ資産ナキモノ又ハ賑恤規則ニ據リ官ノ救助ヲ受クルモノハ賦課ヲ免ス

他府縣ヨリ移住シ農桑ノ業ヲ營ムモノハ三ケ年間賦課ヲ免除ス

第七條　戸數割税ハ四月十日初日ノ現在戸數ニ賦課シ第一期分ハ五月三十一日限リ第二期分ハ十一月三十日限徴收ス（二十三年廣令第十號ヲ以テ改ム）

第八條　徴收後他ニ轉居スト雖トモ其期ノ税金ハ之ヲ下戻サス他管廳ヨリ移住スルモノハ其期ノ賦課ヲ免除ス

第九條　官廳又ハ官公立學校病院及ヒ諸會社ト雖トモ其家屋ニ寄寓シ一戸ヲナスモノハ賦課スヘシ

第十條　戸口ノ貧富ニ依リ一郡或ハ一町村限リ適宜等級ヲ設ケ又ハ賦課ヲ免除スル等人民ノ協議ニ任スト雖トモ其賦課ヲ減スルヲ得ス

第十一條　徴收ノ期ニ際シ水火風震ノ災ニ罹リタルモノハ其期ノ賦課ヲ免除スルコトアルヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ戸長其實況ヲ郡長ヘ具狀シ郡長ハ縣令ノ指揮ヲ得テ處分スヘシ

○明治二十五年三月三日北海道廳訓令第十一號（郡區役所戸長役場宛）

地方税則ニ依リ賦課徴收スヘキ諸營業税ニシテ納人逃亡若クハ失踪シ納期限ヲ過キ滯納處分ヲ了シタル者次ノ納期ニ至リ徴收ノ手續ヲナスノ際尚ホ其所在ヲ知ル能ハサルトキハ廢業ノ取扱ニ準シ臺帳ヨリ之ヲ除去スヘシ

○明治二十六年十一月八日北海道廳令第三十七號

明治二十七年前半期戸數割税賦課金額左之通相定ム

一金三千百四十一圓　函館區

一金二千三百五十三圓　龜田、上磯、茅部、山越ノ四郡

一金八百四十一圓　松前郡

一金二千三百六十四圓　檜山、爾志、久遠、奥尻、太櫓、瀬棚ノ六郡

一金千九十圓　壽都、島牧、歌棄、磯谷ノ四郡

合計金九千七百八十九圓

○明治十一年四月二日開拓使根室支廳第十五號布達

諸鑑札（五十石以上商船解漁船其他ノ小舟鹿獵等ノ鑑札）書換並ニ再標打願出候者ハ手數料トシテ自今壹枚ニ付金二拾錢ツヽ上納可致此旨相達候事

但舊土人ハ此限ニアラス





○明治十七年四月二十五日札幌縣乙第百十五號達（郡區役所宛）

地方税收入豫算及精算其他取扱順序左ノ通相定メ來ル十八年度ヨリ施行ス

右相達候事（二十一年二月訓令第十六號ニ依リ豫算精算ニ係ルモノハ消滅ス）

地方税收入豫算及精算其他取扱順序

第一條　地方税收入豫算ハ前々年度以前三ケ年度實收ノ平均額ヲ標準トシ甲號雛形ニ依リ之ヲ調理シ毎前年度四月三十日限リ差出スヘシ（十八年五月乙第八十四號ヲ以テ改正）

第二條　地方税收入精算表ハ乙丙號雛形ニ倣ヒ調理シ毎年四月三十日限リ差出スヘシ（十八年五月乙第八十四號ヲ以テ七月三十一日ヲ四月三十日ニ改ム）

第三條　地方税賦課法中税額ニ以内又ハ以上トアル分ハ其年度ノ課額ヲ毎前々年度二月中達スルモノトス（十八年七月乙第百三十三號ヲ以テ毎前年度八月ヲ毎前々年度二月ニ改ム）

第四條　營業規則第三章第十五條商金高等檢査了レハ該總計表ノ上部ニ郡區役所ノ割印ヲ押捺シ一通ハ戸長役場ニ下付シ一通ハ納額台帳ノ基礎トナスヘシ

第五條　商金高其他統計表ハ丁號雛形ニ倣ヒ調製シ毎年遲クモ五月三十一日限リ地租割及戸數割納額ハ毎半期戊號雛形ニ準シ取調第一期ハ該年七月三十一日第二期ハ翌年一月三十一日限リ屆出ヘシ

但毎半期現在戸數調書式及差出期日等ハ郡區役所ヨリ戸長役場ニ示達スヘシ

第六條　毎半期引續及新規營業區分ハ左ノ如シ

一　第一期引續トハ前年商金調査ヲ受ケタルモノニシテ（該年一月ヨリ六月マテノ廢業者ヲ除ク）同年七月一日現在ノ營

業者ヲ指シ又該年七月ヨリ十二月マテノ開業者ヲ新規營業者トス

一　第二期引續トハ第一期引續及新規營業者中前年七月ヨリ十二月マテノ廢業者ヲ除ク翌年一月一日現在ノ營業者ヲ指シ又翌年一月ヨリ六月マテノ開業者ヲ新規營業者トス

第七條　各營業組合取締ノ人名戸長役場ヨリ郡區役所ヘ屆出ルトキハ就職トモ五日以内ニ其人名ヲ縣廳ヘ屆出ヘシ（十八年六月乙第百十九號ヲ以テ世話役ヲ取締ニ改ム）

第八條　諸營業願書ニハ餘白ニ指令ヲ爲スヘシ其式左ノ如シ

但願書ハ正副二通ヲ差出サセ指令ニ其役所割印ヲ押捺シ一通ハ下付シ一通ハ其役所ニ留置納稅調ノ基本トナスヘシ

番號

願之趣聞屆候事

年　月　日

行商鑑札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ郡區役所ニ於テ調製シ之ヲ下付スヘシ（十八年六月乙第八十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

木製

表

番號

行商鑑札

國郡（區）町（村）番地　何ノ某

（竪二寸三分　横一寸七分）

（專業者ハ行商專業ト記スヘシ）

面

裏

面

年月日

札幌縣

何郡區役所印

（燒印）

第九條　凡ソ警察上取締ニ關スルモノニシテ縣廳ヘ出願（地方稅ヲ課スルモノヲ云フ）許可ヲ受ケ營業スルモノハ興廢業トモ其時々警察署ヨリ郡區役所ヘ通牒スヘシ（十七年五月乙第百四十七號ヲ以テ改正）

但鑑札アルモノニシテ鑑札ヲ書換下與スルトキモ亦本條ニ仝シ

第十條　戸數割及營業稅雜種稅中貧困者又ハ僅少ノ商業者ニシテ課稅ニ堪ヘ難キモノアルトキハ免稅スルコトアルヘシ尤モ此場合ニ於テハ其事情ヲ具シテ指揮ヲ乞フヘシ

（書式略ス）

## ○豫算及決算

### ○歲入歲出豫算

○明治二十六年九月二十五日北海道廳訓第二百六十三號（財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

明治二十五年一月二十日當廳訓第十一號租稅外歲入豫算ニ對スル收入濟歲入額計算書ハ明治二十六年度以降進達ニ及ハス

○明治二十三年六月十四日北海道廳訓令號外（農學校、郡區役所（紗那網走ヲ除ク）監獄署宛）

明治二十三年度以降實際ノ須要ニ依リ經費豫算ノ目的ニ反セサル費途ノタメ各目節ノ金額流用ヲ要スルトキハ別紙書式ニ據リ其都度伺出ヘシ（二十三年六氏十三日第三部長ヨリ主第六八七號ヲ以テ本文同樣紗那網走郡長ヘ通牒アリ）

（書式略ス）

○明治二十四年五月五日北海道廳訓令第四十一號（各部、札幌農學校、郡區役所、警察署、集治監、監獄署、北海道尋常師範學校、函館商業學校宛）

毎年四月一日及ヒ十月一日現員現給表左ノ書式ニ依リ毎款項別ニ取調其月三日限リ進達スヘシ

但本年四月分ハ本令到達後三日限リ發送スヘシ

（書式略ス）

○明治二十五年三月十九日北海道廳第六十六號（監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

二十五年度以降經費豫算ノ目的ニ反セサル費途ノ爲メ各節流用ハ經伺ニ及ハス候條流用濟明治二十三年六月十四日訓令號外流用計算書々式ニ準據シ其部度申報スヘシ

○明治二十六年三月二十八日北海道廳訓第八十四號（財務部、監獄署、同亀田根室支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、尋常師範學校宛）

大藏省主管歳入ニ關スル豫定月額金庫區分表ハ自今進達ニ及ハサル旨大藏大臣ヨリ達セラル此旨心得ヘシ

○明治二十六年十二月十六日北海道廳訓第三百四十六號（札幌農學校、北海道集治監、同分監宛）

其（校監）經費豫算各目ノ流用ハ自今經伺ニ不及候條目的ニ反セサル樣深ク注意ヲ加ヘ且流用ノ上ハ其都度申報スヘシ

## ○歳入歳出決算

○明治二十三年六月十四日北海道廳訓令號外（札幌農學校、各郡區役所（紗那網走ヲ除ク）各監獄署宛）

明治二十三年度以降經費仕拂命令濟內譯報告書及同報告訂正書別紙書式ニ據リ調製每翌月五日限リ其地發送當廳ヘ差出スヘシ（二十五年五月訓年百三十五號ヲ以テ翌月十日ヲ翌月五日ト改ム）

但本年四五兩月分ハ一括ニ調製此際差出スヘシ

（別紙畧ス）





○明治二十四年八月二十二日北海道廳訓第八十六號（紗那網走郡役所宛）

其所經費仕拂命令濟內譯報告書同報告訂正書別紙書式ニ據リ每翌月五日限リ其地發送當廳ヘ差出スヘシ（二十五年五月訓第百三十五號ヲ以テ翌月十日ヲ翌月五日ト改ム）（別紙畧ス）

○明治二十四年十二月十八日北海道廳訓第百九十一號（監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

二十三年度已降各省所管經費決算報告書及豫算現額計算書別冊樣式ニ據リ調製シ翌年度九月十日限當廳ニ發送スヘシ（別冊樣式ハ略ス）

但二十三年度分ハ本月二十八日限發送スヘシ

○明治二十五年二月十八日北海道廳訓第三十四號（內務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

會計法第二十一條及第二十二條ノ經費翌年度ヘ繰越使用ヲ要スルモノハ會計規則第五十七條第五十八條ノ手續ニ據リ每年四月五日限リ進達スヘシ（二十六年十二月調第三百四十七號ヲ以テ三月二十日ヲ四月五日ニ改ム）

但年度內ニ仕拂命令ヲ發行スヘキ分ハ仕拂命令濟ニ合算シ別ニ仕譯書添付スヘシ

## ○歳入出科目

○明治二十三年三月十二日北海道廳訓令第七號（郡區役所宛）

明治二十二年十月ニ法律第三十二號國稅滯納處分法第八條第二項以下ニ係ル諸費ハ本年四月一日以降經費當該各科目ヨリ支出スヘシ

但本年三月三十一日以前ニ係ルモノハ當廳ヨリ交付ス

○明治二十三年三月二十九日北海道廳訓令號外（農學校、郡區役所、各監獄署宛）

明治二十三年度以降歳出科目ノ内節及解疏等ニ興廢ヲ要スルトキハ其都度大藏省ヘ協議スヘキ旨別紙寫之通大藏大臣ヨリ訓令相成候ニ付其興廢ヲ要スルトキハ事由ヲ詳悉シ當廳ヘ申出候義ト心得ヘシ

北海道廳

（別　紙）

第八四三號

明治二十三年度以降歳出科目ノ内節及解疏等ニ興廢ヲ要スルトキハ其都度大藏省ニ協議スヘキ旨別紙寫之通大藏大臣ヨリ申越候條爲心得此旨訓令ス

明治二十三年三月十三日　　大藏大臣伯爵　松方正義

（別紙寫）

乾第五四一號

明治二十三年度以降歳出科目ノ内節ノ興廢ハ各省限隨意ニ決定セラレ候樣會計規則ノ御見解有之哉モ難量固ヨリ節ト稱スルモノハ目ノ成立ヲ知ルノ要ニ供スル解疏同一ノモノニシテ科目ト稱スル程ノモノニハ無之依テ同規則中別ニ明文ハ無之候得共其名稱ヲ一ニシテ其性質ヲ異ニスルモノヲ包含セシムルカ如キハ科目ヲ定ムルノ要旨ニ相反シ候條節及解疏等ニ興廢ヲ要セラルヽトキハ其都度御協議相成度此段申進候也

明治二十三年三月十日　　大藏大臣伯爵　松方正義

大藏大臣伯爵松方正義殿

○明治二十六年一月十一日北海道廳訓第三號（財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、戶長役場、尋常師範學校宛）

歳入金科目ニ誤謬アルモノハ明治二十五年大藏省訓令第三十一號第二條第三條ニ準據シ訂正方取扱フヘキ旨大藏大臣ヨリ達セラル

右訓令ス

## ○出納

○明治二十三年六月十四日北海道廳訓令號外（農學校、郡區役所（紗那網走ヲ除ク）監獄署宛）

明治二十三年度已降經費仕拂命令濟內譯報告書及同報告訂正書別紙書式ニ據リ調製每翌月五日限リ其地發遣當廳ヘ差出スヘシ（二十五年五月訓第百三十五號ヲ以テ翌月十日ヲ翌月五日ト改ム）

但本年四五兩月分ハ一括ニ調製此際差出スヘシ

（書式略ス）

○明治二十四年八月二十二日北海道廳訓第八十六號（網走郡役所、紗那郡役所宛（各通））

其所經費仕拂命令濟內譯報告同報告訂正書別紙書式ニ據リ每翌月五日限リ其他發遣當廳ヘ差出スヘシ（二十五年五月訓第百三十五號ヲ以テ翌月十日ヲ翌月五日ト改ム）

（別紙略ス）

○明治二十四年六月十九日北海道廳訓令第四十七號（郡區役所（札幌區ヲ除ク）戶長役場宛）

明治二十四年四月當廳訓令第三十三號ハ本年六月三十日限リ廢止ス

（恩給金扶助料交付ニ付生存證書等檢閲ノ件ナリ）

○明治二十四年七月三日北海道廳訓令第五十三號（郡區役所（札幌區ヲ除ク）戸長役場宛）

賞勲年金及文武官恩給ノ受領者居住地ノ郡區長戸長ハ左ノ期月ニ從ヒ毎期年金證若クハ恩給證書及生存證書檢閲濟ノ上直チニ當廳第三部ヘ報告スヘシ

但受領者住所姓名金額及臨時移動ハ第三部ヨリ通知ス

一賞勲年金及舊令文官恩給毎年六月十二月二期渡

一陸海軍恩給及新令文官恩給毎年一月四月七月十月引渡シ

○明治二十三年九月三十日北海道廳訓令號外（各部宛）

現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ヨリ提出スル仕拂計算書ヘ別紙書式ノ仕拂計算內譯書ヲ添付セシムヘシ

但仕拂計算書提出濟ノ分ハ此際取纏メ差出サシムヘシ

（書式略ス）

○明治二十五年六月七日北海道廳訓第百五十四號（監獄署、同龜田根室兩支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所宛）

其（署、監、校、所）經常（臨時）歲出豫算額及仕拂額等二十四年度以降別紙書式ニ依リ取調翌年度七月十五日以內ニ內務省ヘ差出シ同時ニ其寫ヲ當廳ヘ送付スヘシ

（別紙略ス）

○明治二十六年三月三十一日北海道廳訓令第十六號（內務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校宛）



明治二十三年三月當廳訓令第十九號請求書及證書式別冊ノ通改正シ來ル四月一日ヨリ施行ス

但書式ハ別ニ配付ス

（別冊）

請求書及證書式

凡例

第一　證憑書類ノ字体ハ正格鮮明ナルヘシ若シ文字ヲ更正削挿入スルトキハ其行上部ノ欄外ニ幾字更正幾字削除幾字挿入ト記載捺印スヘシ

金員ノ數字ヲ記スルニハ一、二、三、十、廿、卅ノ字体ヲ用ユヘカラス

證憑書類ノ調製ハ各目ニ區分シ數葉ニ渉ルモノハ契印スヘシ

第二　證憑書類ノ金員ハ總テ算出ノ基礎ヲ明記スヘシ

第三　領收證書ハ正當受取人ノ署名捺印ニ限ル若シ代理人ナルトキハ委任狀ヲ要ス

第四　本書式　外支出證明上必要ノ證憑書類ハ成規ニ依リ添付ヲ要ス

第一號

領收證

一金若干圓　　現金受領高

金　　高

內金　　國庫納金引去高

金　　製艦費納金引去高

但何年何月分俸給（又ハ任免陞叙等ノ事故年月日等）

右正ニ領收候也

年　月　日　　會計主務官々氏名宛　　官（級）氏　名㊞

備考

一　官吏俸給ハ集合仕拂命令ニ依リ仕拂フヲ便トスルニヨリ多クハ規定ノ證書ヲ用ユルト雖トモ各自ニ對シ仕拂命令ヲ發シタルトキハ本書式ニ依ル但雇員ハ内金ノ國庫納金引去高ノ一項ヲ省除スヘシ

第二號　　請求書

一金若干圓　　何々（目）

但上京（何々地出張）中又ハ何所ニ於テ仕拂ヲ要スル經費（何々費、何々工事費）現金前渡ヲ受クル分

内譯

金　　何々（節）

但事由（算出ノ基礎及使用期月等ヲ示スヘシ其事故ノ復雜ナルモノハ別紙トナスモ妨ナシ）





金　　何々（節）

但事由（同上）

右請求候也

年　月　日　　臨時出納官吏　官　氏　名㊞

北海道廳長官氏名宛

（以下宛名之ニ倣フ）

前書之金若干圓正ニ領收候也

年　月　日　　右　官　氏　名

備考

一　現金前渡ヲ受クル出納官吏ノ請求書ハ本書式ニ依リ節ヲ内譯トナシ其内譯ヲ要セサルモノハ請求金額ノ下ニ節ヲ記載スヘシ

一　仕拂廳ニ於テ請求金ヲ受領スルトキハ其際本書式ノ如ク請求書ノ末尾ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名捺印スルモノトス以下請求金ノ領收ヲ證スルモノハ此例ニ倣フ

一　現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ノ仕拂ニ係ル領收證書若クハ官吏出張先ニ於テ私費繰換拂

ヲナシタル領收證書ノ宛名ハ其仕拂ヲナシタル當該官吏ノ官氏名ヲ記載セシムヘシ

第三號

返納書

何月何日受取

高金若干圓　精算殘金

一金若干圓　精算高

外金若干圓

但事由（現金前渡ヲ受ケタル請求ニ同シ）現金前渡ヲ受ケタル仕拂殘金

內譯

金　何々（目）

內

金　何々（節）

金　何々

金　何々

內

金　何々

金　何々

右返納候也

年月日

臨時出納官吏

官氏名㊞

第四號

請求書

一金若干圓　何々（目）

但何地出張中郵便電信料（若クハ何々人夫傭賃、何々御用物某所ヨリ某所迄ノ運送賃）別紙仕拂證明書又ハ領收證書何葉ノ通私費繰換拂ノ分

內

金　何々（節）

金　何々

右請求候也

年月日　何部課

官氏名㊞

備考

一　官吏出張先ニ於テ私費繰換拂ヲナシタル請求書ハ本書式ニ依リ其內譯ヲ要セサルモノハ請求金額ノ下ニ節ヲ併記スヘシ

第五號

郵便税仕拂證明書

一金若干圓

但何地出張中公務ノタメ要シタル郵便税何々ノ事由ニ依リ正當受取人ノ領收證書雜得分

内譯

| 達先 | 種類 | 郵便税不足税 | 書留料 | 度數 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 何ヶ所 | 第一種 | 金貳錢 | | 何度 | 金 |
| 何ヶ所 | 第二種 | 金壹錢 | | 何度 | 金 |
| 何ヶ所 | | | 金四錢 | 何度 | 金 |
| 何ヶ所 | 第一種 | 金貳錢 | | | |
| | | | 金六錢 | 何度 | 金 |

右仕拂相違無之候也

年　月　日

官氏名㊞

右仕拂ヲ認定ス

（仕拂主任所屬ノ上官）

官氏名㊞

備考

一　仕拂證明書ノ認定ハ總テ此例ニ倣フヘシ

一　本書中不足税ハ信書ノ封皮又ハ書留郵便ハ書狀小包郵便物ハ物品ノ受領書ヲ添付スヘシ



第六號

電信料仕拂證明書

一金若干圓

但何地出張中公務ノ爲メ要シタル電信料何々ノ事由ニ依リ正當受取人ノ領收證書雜得分

内譯

| 達先 | 種類 | 一度ノ信數 | 電信料 | 配達料 | 度數 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 何ヶ所 | 至急者クハ照校、受信 | 何音信 | 金貳拾五錢 | | 何度 | 金 |
| | 同文 | 何音信通 | 金五錢 | | 何度 | 金 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

右仕拂相違無之候也

年　月　日

官氏名㊞

第七號

運搬費仕拂證明書

一金若干圓

但何々御用ニ付何所出張ノ節御用物運搬費何々ノ事由ニ依リ實際正當受取人ノ領收證書雜得分

内譯

金　但何々何個何所ヨリ何所マテ流車賃此合斤量何斤何程ノ割（端數ヲ切上ケタル計算アルトキハ其事由ヲ記載スヘシ）

金　但何々

右仕拂相違無之候也

年月日　官氏名㊞

第八號

請求書

一金若干圓

但御用物何個此合目方何貫目某所ヨリ某所迄荷馬何頭分ノ賃錢壹頭ニ付金何程（個數重量及里程等ニテ其賃錢ヲ定メタル場合ハ其賃錢）又ハ何々ニ付何月何日ヨリ何月何日迄何々人夫トシテ御雇上ケ賃一日金何程（人夫賃ニ係ルモノハ一日何人ヅヽ合何人若クハ人員ノ一定セサルモノハ其雇上ケ日限及延人員）

右請求候也

年月日　何郡村番地　氏名㊞

第九號

請求書

一金若干圓

但明治何年何月中賑恤米代其外何名へ給與可相成分

内譯

| 族籍氏名 | 生年月 | 事故 | 給額 | 給期 | 石數 | 一石當リ | 支給金額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何郡何村何番地平民氏名 | 何々年何月 | 癈病 | 一日何合 | 何日 | 何斗何升何合 | 何程 | 金 |
| 妻　誰 | | | | | | | 金 |
| 長男　誰 | | | | | | | 金 |
| 小計 | | | | | | | 金 |
| 郡村町名番地何氏名 | | | | | | | 金 |
| 何々　誰 | | | | | | | 金 |
| 小計 | | | | | | | 金 |
| 郡村町名番地何氏名 | | | | | | | 金 |
| 小計 | | | | | | | |

第十號

請求書

一金若干圓

但何年何月何日ヨリ何月何日迄皆勤何日分給料（若クハ何年何月何日ヨリ何月何日迄ノ内何日間欠勤何日分、何年何月何日雇拜命翌何日ヨリ何日迄何日分、何年何月何日解雇何月何日ヨリ何月何日迄何日分、給料）

右請求候也

年　月　日　　何部課所日給金何程

備考　　雇　氏　名

一　製艦費納金アルモノハ第一號書式ニ準シ現金受領高引去高ヲ内譯トナスヘシ

一　日給者各自ノ請求書ハ總テ本書式ニ依リ氏名ノ肩書ニ職名ヲ記載スヘシ

## 第十一號　請求書

一金若干圓

但何年何月何日ヨリ何月何日迄事業手又ハ何々給料

内譯

| 金何程 | 員數 | 勤日數 | 事故及欠勤日數 | 日給額 | 氏名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 金何程 | 何日 | | | 金何程 | |
| 金何程 | 何日 | 病氣又ハ何々欠勤何日 | | 金何程 | |



右支出相成度候也

年　月　日　　何部課

備考　　取扱主任官　氏　名　㊞

一　事業手以下定備ニ係ルモノハ各自ヨリ請求セシムヘシト雖トモ出勤簿ニ依リ勤日數ヲ調査シ得ル場合ハ主務課ニ取扱ノ官吏ヲ定メ置キ本書式ニ依ルヲ便トス

一　費途ノ異ナルモノハ本書式ニ依リ格別ニ調製スヘシ

| 金何程 | 何日 | 何月何日拜命何日ヨリ勤務 | 金何程 |
|---|---|---|---|
| 金何程 | 何日 | 何日何日解備 | 金何程 |

## 第十二號　旅費概算請求書

一金若干圓

但事事（出張命令ト出發月日トヲ記載スヘシ）

内譯

金　　車馬賃

金　何處ヨリ何處迄何里分一里金何錢　　瀛車賃

何處ヨリ何處迄何哩分一哩金何錢　　渠船賃
金　何處ヨリ何處迄何浬分一浬金何錢　　旅行滞在日當
金　何日分一日金何錢　　巡視日當
金　何日分一日金何錢

右請求候也

年　月　日　　何部課勤務
　　官　名　氏㊞

備考
一　打切精算後概算請求ノ場合ハ但書ニ出張ノ初日精算上打切タル月日及概算請求ノ目的期限ヲ併記スヘシ假令ハ何々トシテ出張何年何月何日出發ヨリ何月何日迄ハ打切精算何月何日ヨリ何月何日迄ノ旅費トスルカ如シ

第十三號　旅費請求書

精算金若干圓



一金若干圓　　請求高
概算金若干圓　　何月何日受取
但事由（出張命令ヲ記載スヘシ）

右請求候也

年　月　日　　何部課勤務
　　官　氏　名㊞

備考
一　概算ヲ受取ラスシテ精算ノ場合ハ精算金概算金ノ二行ヲ省除スヘシ
一　本書ニハ書式第十五號ノ明細表ヲ添付スヘシ

第十四號　旅費返納書

概算金若干圓　　何月何日受取
一金若干圓　　返納高
精算金若干圓
但事由

右返納候也

年　月　日　　何部課勤務
　　官　氏　名㊞

備考

一　出張見合等ノ爲メ全額返納ノ場合ハ精算金ノ一行ヲ省除シ但書ニ返納ノ理由ヲ附記スヘシ

一　本書ニハ書式第十五號ノ明細表ヲ添付スヘシ

第十五號　　何月何日受取

旅費精算書

概算金若干圓　　精算高

一金若干圓

但事由

右精算候也

年　月　日　　何部課勤務

官　氏　名　㊞

備考

一　次回ニ於テ精算スヘキ殘金アル場合ハ精算高ノ左側ニ「次回精算金」ノ一行ヲ設ケ其殘金ヲ記載スヘシ

（別紙）

旅費内譯明細表

| 年月日 | 地名 | 車馬里數 | 漁車里數 | 船里數 | 旅行日數 | 巡視日數 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何年何月何日 | 自何處至何處 | 何里何町何間何尺 | | 何里 | 何日 | | |
| 何月何日 | 自何處至何處巡視 | 何里何町何間何尺 | | | | 何日 | |
| 何月何日 | 何處滯在 | | | | 何日 | | |
| 何月何日 | 自何處至何處 | | 何哩何鎖 | | | | |
| 通計 | | 何里何町何間何尺 | 何哩何鎖 | 何里 | 何日 | 何日 | |
| 通計 | | 一里金何錢 | 一哩金何錢 | 一浬金何錢 | 一日金何錢 | 一日金何錢 | |
| 通計 | | 金何程 | 金何程 | 金何程 | 金何程 | 金何程 | |

合計金若干圓

備考

一　打切精算ノ場合ハ通計ノ最下欄ニ其旨ヲ記入シ車馬里數等一位未滿ヲ省畧セス總テ記入スヘシ

一　二回目ノ精算ヨリハ本表ノ初ニ左ノ一行ヲ設ケ月日地名ハ前回精算ニ於ケル本表最終ノ月日及宿泊地名ヲ記入シ車馬里數以下ハ前回ノ通計ヲ記入スヘシ

| 何月何日 | 何處 | 何里何町何間何尺 | 何哩何鎖 | 何浬 | 何日 | 何日 | 繼ニ打切精算 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

一　本表ノ備考ノ欄ハ旅費支給上參考トナルヘキ必要ノ事故ヲ摘載スヘキモノトス

一　迂路旅行又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ依リ公務外日數ヲ要シ若クハ旅費ノ實費拂ヲナシタルトキハ當該上官ノ認許書ヲ添付スヘシ

第十六號　請求書

一金若干圓

但何年何月中當直賄料（又ハ何々ニ付徹夜勤務賄料）

內譯

| 金員 | 當直徹夜度數 | 一度ノ賄額 | 官氏名 |
|---|---|---|---|
| 金何程 | 何度 | 何錢 | |

右請求候也（取扱官吏ニ於テ請求書ヲ調製シタルトキハ）右支出相成度候也）

年　月　日

何部課
官氏名㊞

第十七號　請求書

一金若干圓

但何書類謄寫料美濃十三行罫紙漢文楷書何枚壹枚ニ付金何程

內譯（數種ノ場合）

| 名稱 | 枚數 | 謄寫料小計 |
|---|---|---|
| 何書類何行罫紙書體 | 何枚 | 金何程金 |
| 何々 | 何枚 | 金何程金 |

右請求候也

年　月　日

何町村番地
氏名㊞

第十八號　請求書

一金若干圓

但何印刷料、廣告料又ハ何年何月中何新聞紙賣上代何程何々ノ割

內譯（數種ノ場合）

| 名稱 | 數量 | 價格 | 小計 | 事由 |
|---|---|---|---|---|
| 何印刷 | 何壹冊 | 何程 | 金 | 綴賣トモ |
| 何 | 何枚 | 何程 | 金 | |
| 何ノ件何新聞廣告料 | 何行何回 | 何々何程 | 金 | 何月何日ヨリ何月何日迄掲載 |
| 何新聞紙 | 何程 | 何々何程 | 金 | 何々トシテ賣上ケノ分 |

右請求候也

年月日

何區町村番地

氏名㊞

備考

一　本書式中ノ廣告料ハ格別ニ調製セシムルヲ要ス

第十九號　請求書

一金若干圓

但何外何點賣上ケ代又ハ別紙仕譯書（内譯ニ準シ調製）ノ通

内譯

| 品目 | 數量 | 單價 | 小計 |
|---|---|---|---|
| 何々 | 何程 | 金 | 金 |
| 何々 | 何程 | 金 | 金 |
| 何修繕 | 何程 | 何々ニ付金 | 金 |
| | | | |
| | | | |

右請求候也

年月日

何區町村番地

氏名㊞





備考

一　一ト廉ノ請求ハ但書ニ其品目個數單價等ヲ明記シ別ニ内譯ヲ要セス

一　用途ヲ示スノ必要アルニ依リ内譯小計ノ下ニハ式ノ如ク空欄ヲ設ケシムルモノトス

第二十號　請求書

一金若干圓

但何月何日何御用物運搬賃

内譯

| 名稱 | 送達場所 | 數量 | 賃錢割合 | 小計 |
|---|---|---|---|---|
| 何々包何々入 | 何所ヨリ何所マテ | 何個此目方 | 何々ニ付何程 | 金 |
| 何何々入 | 何所ヨリ何所マテ | 何個此斤量 | 何哩以上何斤ニ付金何程 | 金 |
| 何々 | 何所ヨリ何所マテ | 何個此運送馬車何程 | 一輛金何程 | 金 |
| 何々 | 何所ヨリ何所マテ | 何々船 | 何艘金何程 | 金 |
| 何々 | 何所ヨリ何所マテ | 里程何里 | 壹里金何程 | 金 |
| 何所何々（手數料ノ類） | | 何個 | 壹個金何程 | 金 |
| | | | | |
| | | | | |

右請求候也

何區町村番地

年　月　日

第二十一號

請求書

一若干圓

但何月何日何々御用物何個荷造

内譯

| 品目 | 數量 | 價格 | |
|---|---|---|---|
| 外函 | 何個 | 金何程 | 小計 |
| 莚 | 何枚 | 金何程 | |
| 縄 | 何程 | 金何程 | |
| 荷札 | 何枚 | 金何程 | |
| 荷造人夫 | 何人 | 金何程 | 金 |

右請求候也

何區町村番地

氏名㊞

年　月　日

第二十二號

請求書

一若干圓



但何所新築、修繕費積書又ハ契約書ノ通リ何年何月何日落成

右請求候也

何區町村番地

氏名

年　月　日

第二十三號

請求書

受負高金若干圓

一金若干圓

今回請求高

外

金若干圓　何月何日受取

金若干圓　何月何日受取

金若干圓　追テ可請求分

但何所新築或ハ修繕費（落成ノトキハ其年月日ヲ記載スヘシ）

右請求候也

何區町村番地

氏名

年　月　日

○諸給與

## ○俸給

○明治二十年六月八日北海道廳訓令第六十二號札幌農學校、鐵道事務所、郡區役所、警察署、監獄署、師範學校、商船學校、農業學校、病院宛
俸給支給上計算方自今左ノ通心得ヘシ

一日割ノ算法ハ前乗後除トス

一四捨五入ノ法云々（二十五年十一月勅令第九十六號同年十二月大藏省令第十一號ニ依リ本項消滅）

○明治二十二年四月六日北海道廳訓令第十號郡區役所宛
非職郡區書記ノ俸給ハ明治二十二年度以降其所屬經費豫算内ヨリ支拂下渡ス可シ但明治二十二年三月三十一日迄ニ非職ヲ命シタルモノヽ俸給ハ從前ノ通

○明治二十三年五月十五日北海道廳訓令號外郡區役所戸長役場宛
戸長俸給支給方ハ判任官ノ例ニ準據ス

○明治二十五年四月一日北海道廳訓令第八十一號内務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所警察署、戸長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛
官吏懲戒例ニ於ル罰俸ノ義ハ自今減俸ト仝シク俸給中ヨリ之ヲ控除シ雜收入ニ編入セサル義ト心得ヘシ

但巡査懲罰令ニ於ル罰俸モ本文同樣取扱フヘシ

○明治二十四年八月十五月北海道廳訓第八十號札幌農學校、警察署、郡區役所、集治監、監獄署、北海道尋常師範學校、函館商業學校
本年三月二十八日訓令號外雇員月給ヲ日給ニ改ムルノ件廢止ス

○明治二十四年八月二十日北海道廳訓第八十二號内務部、警察部、監獄署、集治監宛
官制改正ニ依リ新ニ給スヘキ雇員俸給ハ新令施行ノ當日ヨリ計算支給ス

○明治二十六年三月二十五日北海道廳訓令第十三號内務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、戸長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛
雇員俸給規則左ノ通改定シ本年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十四年九月當廳訓令第六十七號ハ同日ヨリ廢止ス

### 北海道廳雇員俸給支給規則

第一條　雇員俸給支給定日ハ月俸ハ毎月二十五日休暇繰上日給ハ毎月末日休暇繰上トス

第二條　雇入及ヒ俸給增減ノトキハ發令ノ翌日ヨリ計算支給ス

第三條　解雇及ヒ轉雇ノトキハ發令ノ當日マテ計算其際支給ス

他所在勤者及ヒ出張者解雇ノ當時事務ニ從事中ナルトキハ辭令及受領ノ當日マテ病氣私事故障缺勤中ナルトキハ發令ノ當日マテ計算其際支給ス解雇者特ニ命ヲ承ケ事務引繼殘務調理ニ從事シタルトキハ從前ノ俸給ヲ結了ノ當日マテ計算其際支給ス

但數月ニ渉ルトキハ第一條ニ據ル

第四條　死亡ノトキハ當月分俸給全額ヲ其際支給ス

但俸給半減中ナルトキハ半減ヲ支給ス

第五條　病氣缺勤三十日又ハ私事故障缺勤十五日ヲ踰ユルモノハ月俸半額ヲ支給シ病氣缺勤六十日又ハ私事故障缺勤三十日ヲ踰ユルモノハ俸給支給ヲ停止ス

但病氣缺勤ト私事故障缺勤ト交互連續スルトキハ前後ヲ通算セス

公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ルモノ又ハ忌服ヲ受クルモノ及ヒ特旨賜暇休養スルモノハ前項ノ缺勤日數ニ算入セス

第六條　日割計算ハ其月ノ現日數ニ依リ俸給ヲ支給スルニ當リ厘位未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條　日給ハ勤務日數ヲ計算支給ス

但公暇日（缺勤中ノ公暇日ヲ除ク）及ヒ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ルモノハ勤務日數ニ計算ス

附則

第八條　雇員ト同等ノ資格アルモノヽ給料支給ニモ本則ヲ適用ス

## ○旅費

○明治二十年六月二十四日北海道廳訓令第七十九號（各部、札幌農學校、鐵道事務所、警察署、監獄署、戸長役場、尋常師範學校、商船學校、商業學校、病院宛）

閣令第十四號內國旅費規則第二條漢船賃支給方左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

一海路旅行ハ漢船ノ都合ニ依リ寄港スト雖トモ直路ノ漢船賃ヲ支給ス

但漢船ノ乘替ヲナサヽレハ難至場所ハ此限リニアラス

○明治二十一年二月二十二日北海道廳令第九號

明治二十年十二月大藏省令第十七號徵兵旅費當廳管內支給額ハ左表ノ如シ

（左表ハ七頁兵事ノ部ニ出）

○明治二十四年四月三十日北海道廳令第十六號

明治二十一年十月廳令第五十八號廢止ス（備員旅費額表ナリ）

○明治二十四年十月三十日北海道廳訓令第七十五號（內務部、財務部、札幌農學校宛）

當廳雇外國人內國旅費ハ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニヨリ三等旅費ヲ支給ス

## ○雜給

○明治十八年四月十五日函館縣乙第十二號達（郡區役所、戸長役場宛）

戸長ヘ一時賜金給與ノ儀ニ付別紙甲第十一號（四月九日官報五百二十八號）ノ通內務卿ヨリ達有之候條此旨相達候事

（別紙）

甲第十一號

一戸長滿五年以上奉職十一年未滿ニシテ退官セシトキハ現俸給三箇月分ヲ給シ其滿十一年以上ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四箇月分ヲ給ス但自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭退旨官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

一戸長在職中死亡ノ者ヘ現俸給三箇月分ヲ給ス

右相達候事

明治十八年四月九日

府縣（沖繩縣ヲ除ク）　內務卿伯爵　松方正義

○明治十八年七月二十七日北海道廳訓令號外（北海道鐵道事務所、樺戸、空知、釧路監獄署宛）

官廳ノ工事ヲ受負者ニ命シ經營セシムルニ際シ人夫中死傷等有之節ハ明治八年第五十四號公達官役工事死傷手當規則ニ據準シ處分候向モ有之候處自今適用相成ラス

○明治二十四年四月二十二日北海道廳訓令第三十四號（各部、札幌農學校、郡區役所、警察署、集治監、監獄署、戸長役場、北海道尋常師範學校、函館商業學校宛）

宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者食料一食支給額ハ判任官(准官共)金三錢五厘傭以下二錢五厘ト定メ本年四月一日ヨリ施行ス

○明治二十六年三月二十四日北海道廳訓第七十七號函館區役所宛

函館區長交際手當明治二十六年度以降金參百圓ト定ム

○明治二十六年三月二十四日北海道廳訓令第十二號內務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所警察署、戶長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛

給仕小使常傭職工等給料支給規則左ノ通改定シ本年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十年九月當廳訓令第百十二號ハ同日ヨリ廢止ス

北海道廳給仕小使常傭職工等給料支給規則

第一條　給仕小使常傭職工等ノ給料ハ日給トシ毎月末日休暇繰上支給ス

但解免死亡ハ其際支給ス

第二條　增給減給ノ發令ノ翌日ヨリ支給ス

第三條　日給ハ勤務日數ヲ計算支給ス

但公暇日缺勤中ノ暇公暇日ヲ除ク及ヒ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ルモノハ勤務日數ヲ計算ス

## ○官有財産

○明治二十一年五月十四日北海道廳訓令號外郡區役所戶長役場宛

明治十九年法律第一號登記法第十六條第十七條第十八條第十九條ニ依リ登記請求ノ場合ニ於テハ法第四十條ヲ適用スルノ限ニアラサル義ト心得ヘシ

○明治二十六年三月九日北海道廳訓令第八號監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校宛

官有財産ノ異動ハ別紙樣式ニ依リ二十五年度分ヨリ毎年度經過後五日間內ニ增告スヘシ

但異動ナキトキハ其旨報告スヘシ

(別紙略ス)

○明治九年九月三十日開拓使札幌本廳乙第百二十三號達各局分署宛

本年第五十三號官舍貸渡規則公布相成候處當使管內ノ義ハ物價高貴需用不便ニシテ諸事府縣ニ難比ヲ以テ長官ヨリ別紙甲第十三號ノ通正院伺濟相成候ニ付元金ノ五分爲宿代本年一月ヨリ上納可致此旨相達候事

(別紙)

明治九年七月三日開拓使甲第十三號伺(十五年三月十六日函館札幌根室三縣ヨリ開拓使伺濟同一宿代ヲ元金ノ五分ニ爲ス件內務省ヘ伺出間屆ノ指令アリ)

本年第五十三號ヲ以官舍貸渡規則御達相成候處當使管內ノ義ハ物價高貴需用不便ニシテ諸事府縣ニ比シ難ク且暴風積雪等ノ爲メ官舍ノ破損モ屢有之府縣同軌ニ施行候テハ勞苦情不尠候ニ付當分ノ內右規則第二條宿代ノ義ハ元金ノ五分ヲ制限トシテ適宜遞減シ取立金ハ大藏省納受ノ手續ヲ經總テ當使ニ備置第六條修繕ノ義ハ悉皆取立金ヲ以テ之ニ充テ其他ハ規則ノ通施行致シ元金建坪等ハ當使限取調置借地料モ賦課不致追々開拓進步ノ景況ニ從ヒ一般ノ成規ニ準據候樣致度尤東京ニ有之官舍ハ總テ規則ノ通施行致候條御允裁有之度此段相伺候也

明治九年七月三十一日太政官指令

伺之趣聞屆候條元金建坪等取調書ハ東京ノ分ト共ニ大藏省ヘ可差出事

○明治十六年二月三日根室縣丙第二號達（各課署院郡役所宛）

明治十一年三月第二號舊開拓使根室支廳達官舍貸與規則別冊ノ通改正施行候條此旨相達候事

（別　冊）

官舍貸與規則

第條一　官舍ハ本縣在職ノ官吏（准判任以上）ヘ貸與スルモノトス

但非職官吏ハ此限ニアラス

第二條　新ニ官舍ヲ拜借セントスルモノ又ハ從前拜借ノモノ更ニ他ノ官舍ヲ拜借セントスルモノハ別紙一號書式ノ通願書正副二通差出スヘシ

第三條　官舍貸與ハ必ス拜借願出ノ順次ニヨルヘシ

但拜借相當ノモノ都合ニヨリ他ノ拜借人ヘ願順ヲ讓ルコトヲ得

第四條　官舍貸與中ハ外廻リ損破修繕及井戸浚等ハ總テ官費トス

但臨時大破ノ外內廻リ破損及井戸屋形釣瓶網窓硝子等修繕ハ借主自費タルヘシ

第五條　官舍拜借人許可ヲ得テ互ニ交換スルトキハ篤ト檢査ヲ遂ケ破損又ハ附屬品等ノ不足スルトキハ辨償セシムヘシ

但自費建增模樣替等ノ廢存ハ交換人ノ示談ニ任スヘシ

第六條　拜借　官舍ヲ返納セントスルモノハ別紙二號書式ノ通屆出土木課ノ調査ヲ受クヘシ



但調査ノ上若シ內廻リ破損ノ箇所アルカ又ハ附屬品等不足スルトキハ共ニ修繕辨償セシムヘシ

第七條　拜借人自費ヲ以テ建增模樣替等ヲナサントスルトキハ別紙三號書式ノ通圖面相添願書正副二通差出シ必ス許可ヲ受ケ着手スヘシ

第八條　前條ノ建增模樣替ヲナセシモノ官舍返上ノ節ハ元ノ如ク修覆スヘシト雖モ土木課ノ檢査ヲ得テ差支ナキモノハ其儘据置クコトヲ得

但跡拜借人ニ於テ土木課ノ認可ヲ得其建增模樣替ヲ其儘引受ケントスルトキハ亦修覆ノ限ニアラス

第九條　官舍拜借中ハ成規ノ貸下料毎月十七日月俸ノ內ヨリ出納課ヲ經テ上納シ受領證ヲ受クヘシ

但十六日以後拜借セシモノ幷ニ十五日以前ニ返納シタルモノハ各半ケ月分相納ムヘシ

第十條　官舍前道路掃除及戶數割協議費等ハ一切自辨タルヘシ

第十一條　官舍拜借中御用出張三十日以外ニ涉リ復歸スル見込ノモノハ必ス其都度別紙四號書式ノ通リ留守引受人相立連署ヲ以テ屆出ツヘシ

但留守引受人ハ同僚者ニ限ルヘシ

第十二條　歸省養痾墓參等ノタメ任地方ヲ離ルヽモノ三ケ月ヲ過ルトキハ拜借ノ官舍ヲ返上スヘシ

但家族ヲ遺留スル時ハ此限ニアラス尤モ留守引受人ハ第九條ノ通リタルヘシ

○明治二十二年十二月二十七日北海道廳訓令第五十八號（區郡役所（札幌區役所ヲ除ク）宛）

貸渡官舍宿代徴收額ハ郡區長之レヲ定メ其都度屆出可シ

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十二號（集治監宛）

其監官吏中左ノ通官舍居住ヲ命スル旨内務大臣ヨリ達セラル

一　集治監典獄

一　集治監分監長

一　集治監看守長及看守ノ内勤務上特ニ官舍居住ノ必要アルモノ

○明治二十二年七月二十七日北海道廳訓令號外（郡區長宛）

明治二十年法律第壹號登記法第十八條ニ依リ民有ノ地所建物及船舶ヲ官有ト爲シタルトキノ登記ハ自今其所ニ於テ登記請求スヘシ

○明治二十四年三月二十日北海道廳訓令第二十一號（各部札幌農學校、郡區役所、警察署、集治監、監獄署宛）

明治二十三年三月當廳訓令第十三號北海道廳地所物件賣買貸借順序及入札人心得書同訓令第十四號北海道廳物品賣買貸借隨意約契手續ハ本年三月三十一日限リ廢止ス

## ○物品會計

○明治二十四年三月十一日北海道廳訓令第二十七號（各郡、札幌農學校、郡區役所、警察署、集治監、監獄署、戸長役場、北海道尋常師範學校、函館商業學校、北海道病院宛）

當廳物品出納規程別冊ノ通リ定メラル（二十四年四月訓令第五十九號ヲ以テ本規程第十條刪除ヲ傳令ス）

但本規程第十四條ノ物品出納順序規定スルマテ從前ノ通取扱フヘシ

（別冊）

訓第一一一號

物品出納規程別冊ノ通相定ム

右訓令ス

明治二十四年二月十六日

内務大臣伯爵　西鄕從道

北海道廳

### 物品出納規程

#### 第一章　總則

第一條　品物出納ノ命令ハ北海道廳長官ヲ部局長トシ之ヲ委任ス但本廳ヲ離ルヽ支部局ニ於テハ長官ノ代理トシテ其各支部局長出納ノ命令ヲ發スルコトヲ得

第二條　物品會計官吏ハ本廳財務部ニ一名ヲ置キ其官氏名ヲ屆出ツヘシ但各支部局ニ物品會計官吏若クハ代理官ヲ置クノ必要アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ置クコトヲ得（二十四年十月訓令第七十一號ヲ以テ本廳ノ下第三部ヲ財務部ト改正）

第三條　物品會計規則第十一條第十二條ノ檢査ノ官吏及第十五條第二項但書ノ官吏ハ部局長之ヲ命スルコトヲ得

#### 第二章　物品ノ出納及帳簿

第四條　部局長ハ廳中數要ノ物品ニシテ常時出納ニ係ルモノハ其品種若クハ數量ヲ規定シ置キ物

品會計官吏ヲシテ直ニ出納セシムルコトヲ得

第五條　物品出納整理ノ爲メ出納原簿及內譯簿ヲ備ヘ置クヘシ

## 第三章　保管及責任

第六條　物品ノ保管ハ貯藏物品ニ在ツテハ物品會計官吏共用品ニ在ツテハ當該部局物品取扱主任各自使用ニ係ルモノハ各自之ヲ保管スヘシ

第七條　物品會計官吏ハ既ニ交付シタル物品ト雖トモ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責任ヲ有ス

第八條　第六條ノ保管ノ責アル官吏ニシテ物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リ亡失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當ノ代償ヲ辨償セシムヘシ

第九條　直接ニ保管ノ責ナキ官吏ト雖トモ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍ホ前條ニ依ル

## 第四章　報告書及計算書

第十條　（二十四年七月十三日內務省訓令第六五六號ヲ以テ第十條ヲ刪除シ第十一條ヲ十條トシ以下順次繰上ク）

第十條　物品會計規則第十五條ノ計算書ハ會計檢査院ニ於テ定メタル定式ニ依リ年度後三ケ月以內ニ調製シ證憑書類ヲ添ヘ部局長ニ差出部局長ハ之レカ下檢査ヲ了シ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十一條　物品會計規則第十五條第二項ノ計算書ハ事故ノ生シタルトキヨリ一ケ月以內ニ差出スヘシ

## 第五章　不用品處分





第十二條　不用ニ屬スル物品及毀損品ニシテ再度用ヲ爲サヽルモノハ部局長ノ指揮ヲ得テ處分スヘシ

## 第六章　雜則

第十三條　物品出納ノ順序ハ適宜之ヲ制定シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○明治二十四年十月十日北海道廳訓第七十號（內務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、戶長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛）

當廳物品出納順序左ノ通改定本年十一月一日ヨリ施行ス

但書式ハ別ニ頒ツ

### 北海道廳物品出納順序

#### 總則

第一條　物品出納規程ノ支部局ト稱スルハ札幌農學校郡區役所集治監同分監警察署監獄署同支署北海道廳種畜場同七重分場北海道尋常師範學校函館商業學校トス（二十六年六月訓令第二十六號ヲ以テ本條及第二條ヲ改ム）

第二條　農學校長郡區長典獄集治監分監長警察署長監獄支署長師範學校長商業學校長北海道廳種畜場長同七重分場ハ龜田郡長北海道廳長官ノ代理トシテ物品出納ノ命令ヲ爲スヘシ

第三條　各支部局ニ物品會計官吏ヲ置ク

第四條　本廳官房及各部ニ物品取扱主任若干名ヲ置キ各支部局ハ必要ニ依リ之ヲ置クコトヲ得物品取扱主任ハ本廳ハ官房首席書記各部長支部局ハ支部局長之ヲ定メ異動ノ都度物品會計官吏ニ報告スヘシ

## 物品ノ出納及帳簿

第五條　物品ノ出納ハ部局長又ハ支部局長ノ命令ヲ受クヘシ

第六條　左ニ掲クル物品ハ物品會計官吏ニ於テ直ニ出納スヘシ

一　官吏常時執務上ニ要スル備品消耗品

一　廳中各所ニ於テ常時使用スル備品消耗品

一　畜類ノ飼料及之ニ要スル備品消耗品

一　一般ノ規定ニ依リ支給スル備品消耗品

第七條　本廳及物品取扱主任ヲ置ク支部局ニ於ル物品ハ其ノ使用者ヨリ物品取扱主任ニ請求シ物品取扱主任ハ物品會計官吏ニ請求スヘシ但物品取扱主任ヲ置カサル支部局ハ其使用者ヨリ第八條第九條ニ準シ直ニ物品會計官吏ニ請求スヘシ（二十六年六月訓令第二十六號ヲ以テ本條及第八條第九條ヲ改ム）

第八條　物品取扱主任ハ消耗品ハ別紙第一號樣式ニヨリ請求シ物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ領收ノ月日ヲ記スヘシ

第九條　物品取扱主任ハ備品ハ別紙第二號樣式ニヨリ請求スヘシ

前項物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ別紙第三號樣式ノ領收證ヲ出スヘシ

第十條　官吏派出先ニ於テ執務上必要ノ場合ニ備品ヲ購入シタルトキハ別紙第五號樣式ノ物品購入報告書及物品領收證書ニ會計規則第八十二條ノ契約書ニ代用スヘキ書類ヲ添ヘ（本廳ハ部長物品取扱主任支部局ハ支部局長物品取扱主任ヲ經テ）物品會計官吏ニ送付スヘシ



消耗品ヲ購入シ直ニ消費セスシテ漸次之ヲ使用スルトキハ其時々前項ニ依リ關係書類ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ

前項ノ消耗品ハ別紙第十二號樣式ノ受拂報告書ニ領收證書（別紙第四號樣式）ヲ添ヘ翌月五日迄ニ物品會計官吏ニ報告スヘシ（二十六年三月訓令第七號ヲ以テ上兩項ヲ改正シ同年六月訓令第二十六號ヲ以テ割注第三號ヲ四號ト改ム）

第十一條　現金前渡シヲ受ケタル官吏ノ購入セシ備品ハ仕拂計算書提出ト同時ニ第十條ノ手續ヲ爲スヘシ

消耗品ヲ購入シ直ニ消費セスシテ漸次使用スルトキハ第十條第二項第三項ノ手續ヲ爲ス可シ（二十六年三月訓令第七號ヲ以テ本項ヲ加フ）

第十二條　（二十六年三月訓令第七號ヲ以テ本條ヲ刪リ第十三條以下繰上ク）

第十二條　物品會計官吏ニ於テ第十條及第十一條ノ報告ヲ得タルトキハ該報告書ニ依リ物品出納簿ニ登記スヘシ

第十三條　物品會計官吏ハ別紙第六號第七號樣式ノ物品出納簿同內譯簿ヲ設ケ憑書ニ據リ登記スヘシ但內譯簿ハ便宜省略スルコトヲ得

第十四條　物品會計官吏（物品取扱主任ヲ置カサル支部局）及物品取扱主任ハ別紙第八號樣式ノ備品臺帳ヲ設ケ其增減現在高ヲ明カニシ且適宜帳簿ヲ調製シ常ニ其保管者ヲ明瞭ニスヘシ（二十六年三月訓令第三號ヲ以テ現在高ノ下（及）ノ一字ヲ削リ（ヲ明カニシ且適宜帳簿ヲ調製シ常ニ其）ノ十七字ヲ加フ）

## 物品ノ生產

第十五條　生産物品ハ當該主任ニ於テ別紙第九號樣式ノ報告書ヲ調製シ（本廳ハ部長物品取扱主任支部局ハ支部局長物品取扱主任ヲ經テ）物品會計官吏ニ送付スヘシ

物品會計官吏ノ保管ニ係ル物品ニシテ生産ノ爲メ支出ヲ要スルモノハ其主任ニ於テ拾ニ請求スヘシ

## 物品ノ修理及處分

第十六條　物品ノ修繕ヲ要スルトキハ物品取扱主任ニ於テ其修理ヲ要スル理由ヲ詳記シタル書面ヲ以テ（本廳ハ部長支部局ハ支部局長ヲ經）物品會計官吏ニ請求スヘシ

但本條ノ書面ニハ領收シタル時ノ年月日ヲ併記スヘシ

物品取扱主任ヲ置カサル支部局ニ於テハ其使用者ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　物品會計官吏ニ於テ前條ノ請求書ヲ領受シタルトキハ之ヲ審査シ第六條ニ揚クルモノハ直ニ修理ノ請求ヲ爲シ其他ノ物品ハ部局長若クハ支部局長ノ指揮ヲ得テ修理スヘシ

第十八條　物品亡失毀損シ若クハ盜難ニ罹リタルトキハ物品取扱主任ニ於テ其保管者ヨリ理由書ヲ徵シ之ニ意見ヲ付シ（本廳ハ部長支部局支部局長ヲ經テ）物品會計官吏ニ差出スヘシ但官房又ハ課中共用ノ物品ニ係ルトキハ物品取扱主任ヨリ其理由書ヲ差出スヘシ

物品取扱主任ヲ置カサル支部局ニ於テハ其保管者ヨリ（支部局長ヲ經テ）即時理由書ヲ物品會計官吏ニ差出スヘシ

第十九條　物品會計官吏ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ審査シ部局長若クハ支部局長ノ指揮ヲ得テ相當處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　不用ニ屬シタル物品ハ別紙第十號樣式ノ備品返納簿ニ依リ物品會計官吏ニ返納スヘシ

第二十一條　物品會計官吏ノ保管スル物品中使用ノ見込ナキモノハ部局長若クハ支部局長ノ指揮ヲ得テ處分ノ手續ヲナスベシ

## 報告書及計算書

第二十二條　物品會計官吏ハ出納規程第十條ニヨリ物品會計規則第十五條ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度六月三十日迄ニ北海道廳長官ニ提出スヘシ（二十六年六月訓令第二十六號ヲ以テ改正）

第二十三條　物品會計官吏ハ毎三ケ月末日ニ於テ保管スル物品ノ現在高表ヲ調製シ部局長若クハ支部局長ノ閲覽ニ供スヘシ

第二十四條　物品取扱主任ハ毎年三月三十一日ノ物品現在報告表ヲ別紙第十一號樣式ニ依リ調製シ翌月七日マテニ物品會計官吏ニ提出スヘシ（二十六年三月訓令第七號ヲ以テ主任ハ毎ノ下「三ケ月間ノ物品增減」ノ九字ヲ削リ「年三月三十一日物品現在」ノ十一字ヲ加フ）

## 雜　則

第二十五條　支出證明規程第十九條ニ依リ物品購買ニ關スル領收證書ニ證記スヘキ手續及本順序ニ其樣式ヲ示サヽルモノハ適宜簡易ノ方法ヲ設ケ整理スヘシ

第二十六條　物品會計官吏ト物品取扱主任懸隔ノ地ニ在ル場合ニ於テ備品消耗品ヲ請求セントスルトキハ其請求書及領收證ハ別紙第壹號乃至第三號樣式ニ準シ適宜調製スヘシ但消耗品ハ便宜三ケ月以内概算ヲ以テ請求スルコトヲ得

第二十七條　本順序及別紙樣式ニ部長又ハ課長トアルヲ官房首席書記ニ適用ス

（別紙略ス）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十四號函館區役所宛

明治二十五年度ヨリ函館一等測候所地理課函館派出所租稅檢査員函館派出所々屬及高砂町並仲濱町暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（地理課函館派出所ハ二十四年八月告示第二十四號ヲ以テ廢ス）

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十五號小樽郡役所宛

明治二十五年度ヨリ地理課小樽派出所租稅檢査員小樽派出所々屬及小樽暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（地理課小樽派出所ハ二十四年八月告示第二十四號ヲ以テ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十六號檜山郡役所宛

明治二十五年度ヨリ地理課檜山派出所江差租稅檢査員派出所々屬及檜山暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（檜山派出所ハ二十四年八月告示第二十四號江差租稅檢査員派出所ハ二十四年十月告示第四十號ヲ以テ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十七號室蘭郡役所宛

明治二十五年度ヨリ地理課室蘭派出所々屬及室蘭暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（二十四年十月告示第四十號ヲ以テ地理課派出所ヲ廢ス）



（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第八十九號釧路郡役所宛

○明治二十五年度ヨリ十勝三等測候所地理課釧路派出所々屬及釧路暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（釧路派出所ハ二十四年八月告示第二十號ヲ以テ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十號釧路分監宛

明治二十五年度ヨリ釧路二等測候所物品ノ出納ヲ委任ス

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十一號根室郡役所宛

明治二十五年度ヨリ根室一等測候所地理課根室派出所租稅檢査員根室派出所々屬及根室暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（二十四年八月告示第二十四號ヲ以テ兩派出派ヲ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十三號壽都郡役所宛

明治二十五年度ヨリ壽都一等測候所地理課函館派出所壽都分遣所々屬及壽都暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス（壽都分遣所ハ二十五年十一月廳令第三十四號ヲ以テ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十四號岩内郡役所宛

明治二十五年度ヨリ岩内暴風信號用物品出納ヲ委任ス

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十五號（松前郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ松前暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十六號（亀田郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ茅部郡森村暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス

（但書同上）

○明治二十五年四月一日北海道廳訓第九十七號（網走郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ網走二等測候所及地理課根室派出所網走分遣所々屬物品ノ出納ヲ委任ス（網走分遣所ハ二十五年十一月廳令第三十四號ヲ以テ廢ス）

（但書同上）

○明治二十五年四月二十九日北海道廳訓第百二十二號（札幌區役所宛）

明治二十五年度ヨリ札幌一等測候所物品ノ出納ヲ委任ス

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十五年四月二十九日北海道廳訓第百二十三號（札幌外九郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ上川二等測候所物品ノ出納ヲ委任ス

（但書同上）

○明治二十五年七月二十六日北海道廳訓第百八十一號（浦河郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ襟裳崎燈臺物品ノ出納ヲ委任ス

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十五年七月二十六日北海道廳訓第百八十一號（宗谷郡役所宛）

明治二十五度ヨリ宗谷崎燈臺物品ノ出納ヲ委任ス

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十五年十月十四日北海道廳訓第二百四十一號（増毛郡役所宛）

明治二十五年度ヨリ増毛暴風信號用物品ノ出納ヲ委任ス

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十六年七月三十一日北海道廳訓第二百十七號（函館區役所、函館度量衡檢定所宛）

函館度量衡檢定所々屬物品ノ出納命令ハ函館區長ニ委任ス

但現品ハ本廳物品會計官吏ヨリ引繼カシム

○明治二十六年十一月十四日北海道廳訓第三百十六號（監獄署、同支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校、種畜場、七重分場宛）

明治二十四年內務省訓第一一一號物品出納規程第八條ノ處分ハ支部局長（七重分場ハ亀田郡長）限リ決行シ得ル儀ト心得ヘシ

○明治二十四年四月二十五日北海道廳訓令第三十六號（各部、札幌農學校、郡區役所、警察署、集治監、監獄署、戸長役場、北海道尋常師範學校、函館商業學校宛）

特別用文具トシテ左ノ種類ヲ廳中ニ備ヘ使用セシムルコトヲ得

一文鎮　製圖用特種ノモノ
一コンパス　同　上
一烏口　同　上
一定木　雲形定木三角定木長定木等
一尺度　比例尺測尺卷尺等
一筆　警察署分署外勤巡査詰所巡査駐在所同派出所等ニシテ共同使用ノモノ及各人民扣所用又ハ製圖石版印刷上特種ノモノ及標木等大文字ヲ認メ用ノ類（墨、硯函、鉛筆ノ四項二十五年一月訓令第四號ヲ以テ改定增補）
一墨　同　上
一硯函　警察署分署外勤巡査結所巡査駐在所同派出所等ニシテ共同使用ノモノ及各人民扣所用ノモノ
一鉛筆　演說會ニ臨監スル警察官速記用及製圖上特種ノモノ
一ペン先　同　上
一インキ　製圖上特種ノモノ復寫版用
一字消ゴム　製圖上特種ノモノ（二十五年四月訓令第三十一號ヲ以テ追加）

## ○出納官吏

### ○任免

○明治二十三年三月十九日北海道廳訓令號外（郡區役所宛）
國稅ノ徵收ヲ取扱フヘキ收入官吏ハ左ノ各項ニ依リ取計フヘキ旨大藏大臣ヨリ達セラル
一收入官吏ハ府縣收稅部出張所及島廳ニ各一名若クハ二名ヲ置キ收稅屬ヲ以テ之ニ充ツヘシ
但沖繩縣ハ藏所船改所若クハ稅品公賣ノ地ニ各一名若クハ二名ヲ置クコトヲ得
一北海道廳收入官吏ハ郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ
一一箇所ニ收入官吏二名ヲ置キタルトキハ該收入官吏其執行ノ事務ニ關シ其責任ヲ連帶スルモノトス
一收入官吏及代理官ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ任命スヘシ
一北海道廳長官府縣知事ニ於テ收入官吏及代理官ヲ任免シタルトキハ官氏名所在地トモ其時々大藏省ヘ報告スヘシ
○明治二十三年五月七日北海道廳訓令號外（郡區役所宛）
明治二十三年三月十九日號外訓令ニヨリ國稅徵收ヲ取扱收入官吏壹ケ所ニ二名ヲ置クトキハ其任命ノ際同訓令第三項ノ趣旨ヲ豫メ承諾セシメ連署ノ受書ヲ徵シ差出スヘシ
○明治二十三年六月十七日北海道廳訓令第四十七號（各部、農學校、郡區役所、監獄署宛）
本年五月大藏省訓令第九十二號ニ據リ收入官吏轉免死亡等ノタメ交替ノトキ前任後任事務取扱區分各部局長ヨリ金庫ヘ通知スヘキ儀ト心得ヘシ

○明治二十三年十月十日北海道廳訓令號外（三集治監、三監獄署、札幌農學校、郡區役所、（紗那網走兩郡役所ヲ除ク）宛）

仕拂命令官及會計主務官變更ノ節ハ該印鑑金庫ヘ到達迄假印鑑ヘ相互ニ證明シ金庫ヘ交付ノ上直ニ仕拂執行スヘキ旨內務大臣訓令セラル

○明治二十五年九月二十六日北海道訓第二百二十三號（內務部、警察部、財務部、監獄署、集治監、集治監分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校校苑）

明治二十三年八月七日訓令號外出納官吏命解ノ件及同年同月十八日訓令號外出納官吏轉免死亡ノ節立會檢査員等任命處分ノ件左ノ通リ改定ス

第一項　國稅租稅外收入官吏及常時臨時現金前渡ヲ受クル出納官吏歲入歲出外現金出納官吏物品會計官吏保管物會計官吏印紙類會計官吏ハ自今集治監典獄校長郡長區長警察署長之ヲ命解シ其官職氏名及取扱金額等別紙書式ニ照シ直チニ屆出ツヘシ

第二項　前項ノ出納官吏交替若クハ轉免死亡ノ爲メ會計規則第九十條同第九十一條及印紙類、出納規程第十四條物品會計規則第十一條同第十二條ノ檢査員會計規則第九十二條物品規則第十三條ノ立會員及會計規則第百條印紙類出納規程第十四條物品會計規則第十五條第二項但書ニ據リ計算書ヲ調製スル官吏ヲ命スル場合ニ於テハ集治監典獄、同分監長、農學校長、郡長、區長、警察署長之ヲ命シ處分ノ後具狀スヘシ

第三項　各支部局所屬ノ出納官吏ニシテ出張先ニ於テ轉免死亡其他ノ事故ニ據リ檢査員等第二項ノ官吏ヲ要スル場合ニ於テハ各支部局長ヨリ在地方部支部局長ニ移牒シ之ヲ執行セシムルコトヲ得





ヲ得

第四項　各部署（內務部、警察部、財務部、監獄署、）所屬出納官吏ニシテ在勤地若クハ出張先ニ於テ前第二項ノ檢査員其他ノ官吏ヲ要スル場合ニハ財務部長ヨリ在地方支部局長ニ移牒執行セシムルコトヲ得

（別紙略ス）

○明治二十六年十二月二十日北海道廳訓第三百四十九號（集治監郡區役所宛）

明治二十七年一月一日以降ニ係ル租稅ノ徵收及稅外諸收入ノ收納ヲ取扱フ分任收入官吏ノ命解ハ集治監獄、區長之ヲ執行シ其官職氏名及取扱金額等明治二十五年九月二十六日當廳訓第二百二十三號第一號及第二號書式ニ準シ直ニ屆出ツヘシ

但明治二十七年一月四日現在スヘキ分任收入官吏ノ官職氏名等本年十二月大藏省訓令第五十號甲號書式ニ照準シ本訓令到達二日以內ニ其地ヲ發シ報告スヘシ

○明治二十六年十二月二十二日北海道廳訓令（電報、各郡長宛（札幌ヲ除ク））

租稅外歲入ノ分任收入官吏ヲ戶長ニ命スルコトヲ得

○明治二十六年十二月二十三日北海道廳訓第三百五十七號（札幌外九郡役所宛）

租稅外諸收入ノ收納ヲ取扱フ分任收入官吏ヲ官長ニ命スルコトヲ得

## ○身元保證金

○明治二十五年六月七日北海道廳訓第百五十號（各部監獄署、集治監、郡區役所、警察署、札幌農學校、尋常師範學校宛）

會計規則第百二條第二項ニ依リ各出納官吏身元保證金ノ免除ニ係ル保證人ノ資產ハ不動產ニ限ル

但認可後右不動産ニ增減アルカ又ハ保證人ノ住居職業ニ變更アルトキハ其都度直チニ屆出ツヘシ

○明治二十六年三月九日北海道廳訓第四十九號（各部監獄署、集治監、集治監分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校宛）

本年二月二十二日大藏省訓令第四號ヲ以テ同省所管出納官吏身元保證金標準及額取扱手續別紙之通被定候條右取扱手續第一項ノ場合ニハ身元保證金標準ニヨリ保證金額ノ見込ヲ付シ當廳ヘ申出テヘク其他取扱手續第二項ヲ除クノ外各項ニ照準シ取扱フヘシ

（別紙）

出納官吏身元保證金標準額

現金前渡ヲ受クル官吏

| 取扱額 | 身元保證金額 | 取扱額 | 身元保證金額 |
|---|---|---|---|
| 五百圓以上六百圓未滿 | 五拾圓 | 六百圓以上貳千圓未滿　百圓迄毎ニ | 壹圓四十錢ヲ加フ |
| 二千圓以上壹万圓未滿　百圓迄毎ニ | 五拾錢ヲ加フ | 壹万圓以上拾万圓未滿　同　上 | 貳拾錢ヲ加フ |
| 拾万圓以上　同　上 | 拾錢ヲ加フ | 最高額ハ千圓ニ止ム | |

保證金額積算ノ上圓位以下ノ端數ハ切上クヘシ以下倣之

收入官吏

政府ニ屬スル歳入歳出外現金ヲ取扱フ出納官吏

| 取扱額 | 身元保證金額 | 取扱額 | 身元保證金額 |
|---|---|---|---|
| 五百圓以上七百圓未滿 | 四拾圓 | 七百圓以上壹万圓未滿　貳百圓迄毎ニ | 壹圓五拾錢ヲ加フ |
| 壹萬圓以上拾万圓未滿貳百圓迄毎ニ | 參拾錢ヲ加フ | 拾万圓以上　同　上 | 拾五錢ヲ加フ |
| 最高額千圓ハニ止ム | | | |



物品會計官吏

| 保管額 | 身元保證金額 | 保管額 | 身元保證金額 |
|---|---|---|---|
| 千圓以上五百圓未滿 | 貳拾圓 | 千五百圓以上壹万圓未滿　五百圓迄毎ニ | 貳圓ヲ加フ |
| 壹万圓以上拾万圓未滿　五百圓迄毎ニ | 五拾錢ヲ加フ | 拾万圓以上　同　上 | 貳拾五錢ヲ加フ |
| 最高額千圓ニ止ム | | | |

印紙類會計官吏

| 保管額 | 身元保證金額 | 保管額 | 身元保證金額 |
|---|---|---|---|
| 千圓以上二千圓未滿 | 貳拾五圓 | 貳千圓以上六千圓未滿　千圓迄毎ニ | 六圓ヲ加フ |
| 六千圓以上壹万圓未滿　千圓迄毎ニ | 五圓ヲ加フ | 壹万圓以上拾万圓未滿　同　上 | 壹圓五拾錢ヲ加フ |
| 拾万圓以上　同　上 | 七拾五錢ヲ加フ | 最高額ハ千圓ニ止ム | |

取扱手續

一造幣局長、稅關長、北海道廳長官、府縣知事ハ出納官吏新置及交替又ハ其取扱額保管額ニ增減アルトキハ各々其身元保證金標準額ニ依リ身元保證金額ヲ定メ之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ

二造幣局長、稅關長、北海道廳長官、府縣知事ハ前項達濟ノ上ハ直ニ該出納官吏ノ官職姓名其就職ノ年月日取扱額（圓以下端數ニ至ルマテ以下倣之）又ハ保管額及身元保證金額ヲ報告スヘシ

但該官吏交替ノ場合ニ於テハ前職者ノ官姓名及解職ノ年月日ヲ併セテ報告スヘシ

三出納官吏身元保證金ヲ（會計規則第百三條但書）土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ所屬長官ニ申出其認可ヲ受クヘシ

所屬長官ニ於テ之ヲ認可シタルトキハ直ニ其土地ノ所在地名、地目、反別、地價等ヲ詳悉シ其旨報告スヘシ

四出納官吏(會計規則第百二條第二項)其身元保證金ノ免除ヲ請ハントスルトキハ其願書ニ保證人(住所職業ヲ記入シ)連署シ保證人ノ資産(其種目ヲ記シ)價格調書ヲ添ヘ所屬長官ヲ經由シテ當省ヘ願出ヘシ

五出納官吏解職其他ノ事故ニヨリ既納ノ身元保證金ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ直ニ領收證書ヲ差出スヘシ

但身元保證金ニ對スル利子ノ交付ヲ受ケタルトキ亦本文ニ同シ

○明治二十六年三月二十一日北海道廳訓第七十一號各部監署、集治監、集治監分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校宛

內務省所管出納官吏身元保證金ノ件ニ付明治二十四年六月四日當廳訓令第四十五號ヲ以テ相達シ置候處今般同省所管出納官吏身元保證金標準額左記之通改定相成候條心得ノ爲メ相達ス

出納官吏身元保證金標準額

當時現金前渡ヲ受クル官吏

| 取扱額 | 保證金額 |
|---|---|
| 五百圓以上六百圓未滿 | 五拾圓 |
| 六百圓以上壹萬圓未滿 | 百圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |
| 壹萬圓以上拾萬圓未滿 | 五百圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |
| 拾萬圓以上 | 千圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |

現金領收ヲ常職トスル官吏

歲入歲出外現金出納官吏

| 取扱額 | 保證金額 |
|---|---|
| 五百圓以上七百圓未滿 | 四拾圓 |
| 七百圓以上壹萬圓未滿 | 貳百圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |
| 壹萬圓以上拾萬圓未滿 | 六百圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |
| 拾萬圓以上 | 千參百圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |

物品會計官吏

| 保管價額 | 保證金額 |
|---|---|
| 千圓以上五百圓未滿 | 貳拾圓 |
| 千五百圓以上壹萬圓未滿 | 五百圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ |
| 壹萬圓以上拾萬圓未滿 | 千圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |
| 拾萬圓以上 | 貳千圓マテ毎ニ壹圓ヲ加フ |

○明治二十六年四月十九日北海道廳訓第百十五號各部監獄署、集治監、集治監分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校宛

出納官吏身元保證金納付方之儀ニ付本年三月二十三日大藏省訓令第十一號ヲ以テ大藏大臣ヨリ一般出納官吏ニ訓令相成候ニ就テハ保證金納付上部下出納官吏ニ於テ注意ヲ加フヘキハ勿論之義ニ候得共中ニハ在職間僅カニ數ケ月ニ過サルヲ名トシ或ハ轉免等ヲ理由トシテ納付方遷延半歲又ハ

一ケ年ノ久シキニ亘ルモノ有之右ハ同訓令ニモ明記セル如ク法律規則ニ據リ一旦保證金納付ノ義務ヲ負フ以上ハ保證金額指定達后直チニ納付スヘキハ勿論ニシテ設ヒ在職數ケ月間タルト轉免等ノ事故アルトニ關セス會計規則第百二條第二項ヲ除クノ外ハ都テ保證金免除難相成義ニ付豫テ心得違無之樣部下各出納官吏ヲシテ一層注意セシムヘシ

○明治二十六年六月十二日北海道廳訓第百七十六號（各部監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校、鎮兵隊）

內務省所管出納官吏身元保證金標準額之件ニ付本年三月二十一日當廳訓第七十一號ヲ以テ相達置候處其取扱手續別紙之通被定候條右取扱手續第一項ノ場合ニハ身元保證金標準額ニ據リ保證金ノ見込ヲ付シ第三項ノ場合ニハ出納官吏異動表ニ其事由ヲ付シ當廳ヘ申出ヘク其他取扱手續第二項ヲ除クノ外各項ニ照準シ取扱フヘシ

（別紙）

內務省所管出納官吏身元保證金取扱規程

一土木局長衛生局長庶務局長警視總監北海道廳長官府縣知事臨時橫濱築港局長集治監典獄土木監督署長衛生試驗所長ハ出納官吏新置及交替又ハ其取扱額保管額ニ增減アルトキハ其身元證金標準額ニ據リ身元保證金額ヲ定メ之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ（二十六年十二月訓第三百三十六號ヲ以テ集治監ノ下假留監ノ三字ヲ刪リ典獄ノ下土木監督署長ノ六字ヲ加フ）

二所屬長官ハ前項達濟之上ハ直ニ該出納官吏ノ官職姓名其就職ノ年月日取扱額又ハ保管額及身元保證金額ヲ內務大臣ヘ報告スヘシ

但該官吏交替ノ場合ニ於テハ前職者ノ官姓名及解職ノ年月日ヲ併セテ報告スヘシ

三出納官吏取扱額又ハ保管額減少シ爾後身元保證金ヲ要セサルトキ及出納官吏解職後任者ヲ置カサルトキハ其解職ノ年月日及事由ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

四出納官吏身元保證金ヲ（會計規則第百三條但書）土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ所屬長官ニ申出其認可ヲ受クヘシ所屬長官ニ於テ之ヲ認可シタルトキハ直ニ其土地ノ所在地名地目反別土地臺帳登記價格等ヲ詳悉シ其旨內務大臣ニ報告スヘシ

五出納官吏（會計規則第二條第二項）其身元保證金ノ免除ヲ請ハントスルトキハ其願書ニ保證人（住所職業ヲ記入シ）連署シ保證人ノ資產（其種目ヲ記シ）價格調書ヲ添ヘ所屬長官ヲ經由シテ內務大臣ニ願出ヘシ

## ○諸證明

### ○檢查

○明治二十三年五月二十三日北海道廳訓令號外（各部、農學校、郡區役所、監獄署宛）

會計規則第六十七條第九十條第九十一條ニ屬スル檢查事務同規則第百條ノ件ハ大藏大臣ヨリ特ニ當廳長官ヘ委任相成候條此旨心得ヘシ

○明治二十五年三月十六日北海道廳訓第五十九號（集治監、監獄署、警察署宛）

會計檢查院ヨリ會計檢查院法第十六條ニ據リ左ノ物品出納計算ノ檢查及責任解除ヲ明治二十三年度以降當廳ヘ委託セラル

一、監獄則ニヨリ北海道集治監及北海道廳監獄ニ於テ典獄ノ領置スル在監人所持品
二　遺失物取扱規則ニヨリ警察官吏ノ保管スル拾得品及賊捨置品等官ニ於テ保管ノ義務アルモノ

○明治二十五年六月一日北海道廳訓第百四十九號各部、郡區役所、集治監、監獄署、札幌警察署宛

本年大藏省訓令第三十號出納官吏檢査規程ニヨリ派出檢査員ヨリ同規程第五條ニ基ツキ關係書類送付方請求ノ節ハ差支無之樣取計之旨別紙寫之通其筋ヨリ通牒有之候條豫テ爲心得此段相達ス

（別紙二通）

坤第四三〇號

本年大藏省訓令第三十號出納官吏檢査規程ニ據リ檢査員派出之節關係書類請求方之件ニ付乾第二三三〇號大藏省ヨリ照會有之候ニ付即チ別紙寫及御送付候條夫々御通達置相成度候也

明治二十五年五月二十四日　　大藏大臣官房第四課長　大藏書記官　山本豐躬

北海道廳長官渡邊千秋殿

乾第二三三〇號

本年當省訓令第三十號出納官吏檢査規程ニ據リ檢査員ヲ各地ヘ派出セシメタルトキハ同規程第五條ニ基キ關係書類ノ送付方ヲ該檢査員ヨリ請求スル義モ可有之ニ付右ノ場合ニハ差支無之樣御取計有之度且右之趣ハ貴省所屬部局ヘモ夫々御通達置相成候樣至度此段及照會候也

明治二十五年五月二十一日　　大藏大臣伯爵松方正義　大藏大臣伯爵　松方正義殿

○明治二十六年五月二十四日北海道廳訓第百四十八號札幌農學校、監獄署、同支署、集治監、同分監、郡區役所、警察署、戸長役場宛、尋常師範學校、函館商業學校宛

會計檢査院ヨリ會計檢査院法第十六條ニヨリ左ノ各部局ニ屬スル歳入歳出外現金出納計算ノ檢査及責任解除ヲ明治二十五年度以降當廳ニ委託セラル

一　北海道集治監
二　札幌農學校
三　北海道廳監獄署
四　北海道各郡區役所
五　北海道各警察署其他各部局

○明治二十六年十一月十四日北海道廳訓第三百十五號監獄署、集治監、農學校、郡區役所、警察署、尋常師範學校、函館商業學校宛

水火盜難其他ノ事故ニヨリ保管ノ現金物品ヲ紛失毀損シタルトキ及會計檢査院ノ檢査判決ニヨリ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ左ノ書類ヲ添付シ即時本官ニ具申スヘシ

一　政府ノ損失ヲ生シタルトキ及保管ノ現金ヲ紛失シタルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘキモノトス
當該吏ノ顚末書
監督ノ任アル官吏ノ實況取調書
物色偵察ニ關スル書類アルトキハ其書類

二　會計檢査院ノ檢査判決ニヨリ金錢物品ヲ問ハス辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘキモノトス

辨償ヲ命セラレタル判決書ノ謄本

判決ニ對スル處分ノ了否

責任解除ヲ得ントスル理由書ノ謄本

三　內務省物品出納規程第八條ニヨリ辨償ヲ命レタル者アルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘキモノトス

毀損亡失ノ事由書謄本

辨償ヲ命シタル判決書ノ謄本

## ○下檢査

○明治二十三年三月二十九日北海道廳訓令號外（各部、農學校、郡區役所、監獄署宛）

大藏省所管歳出ニシテ當廳所屬ノ現金前渡ヲ受クル出納官吏ノ仕拂計算提出期限及其仕拂命令官ニ於テ下檢査執行ノ件別紙ノ通大藏大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ヘシ

北海道廳府縣

（別紙）

第八五一號

當省所管歳出ニ係ル現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ（翌月七日迄臨時ニ現金前渡ヲ受タル官吏ハ其事件ノ一ケ月中ニ了リタルトキハ其了リタル日ヨリ七日以內）其仕拂命令官ニ送付セシメ下檢査執行スヘシ此旨訓令ス

大藏大臣伯爵　松方正義

明治二十三年三月十三日

○明治二十三年六月十一日北海道廳訓令第四十五號（會計主務官宛）

大藏省所管當廳所屬經費ニ關スル下檢査當廳長官ヘ委任セラレ候條左ノ通心得ヘシ

一　每月證明スヘキ仕拂內譯書ハ翌月十五日以內ニ當廳會計監督員ヘ送付スヘシ

一　仕拂內譯云々（二十四年四月訓令第二十七號ヲ以テ支拂以下五十五字ヲ廢ス）

一　支出簿云々（同上支出以下三十三字ヲ廢ス）

○明治二十三年六月二十五日北海道廳訓令號外（農學校、監獄署、郡區役所宛）

會計規則第九十八條ニ因リ支拂計算書下檢査執行中同則第八十八條ニ該當スル事件發見ノ節ハ右證憑書類ノ寫ヲ添ヘ大藏大臣ヘ申報スヘシ

○明治二十四年五月九日北海道廳訓令第四十二號（郡區役所戶長役場宛）

明治二十三年會計檢査院達第一號第五條ニ據リ歳入調定官ノ差出スヘキ北海道地方收入調定額明細書々式別冊ノ通定ム（二十四年七月訓令第五十七號ヲ以テ冒頭租稅外歳入收入計算書添付ノ十三字ヲ明治二十三年十一月會計檢査院達第一號第五條ニ據リ歳入調定官ノ差出ノ三十二字ニ改ム）

○明治二十四年十一月十日北海道廳訓第百六十一號（內務部、札幌農學校、北海道集治監、郡區役所、監獄署宛）

會計檢査院ノ審理ニ對スル答辨書提出ノ儀本年九月會第千三百四十九號ヲ以テ財務部長ヨリ通牒セシメ置候處尙未提出ノモノ有之整理上不都合不尠候條既ニ受領ノ分ハ本令到達即時今後受領スルモノハ其受領ノ日ヨリ五日以內ニ必ス答辯書提出セシムヘシ

○明治二十四年十一月二十六日北海道廳訓令第七十九號（郡區役所宛）

政府ヨリ補助金ヲ受クル公共事業費受拂主管者ヨリ提出スル受拂計算書ニハ左ノ書式ニヨリ調書ヲ作リ之ヲ添付スヘシ

書式

書調

政府ヨリ補助金ヲ受クル公共事業何々費受拂主管者官職氏名ノ證明ニ係ル何年度（自何月何日至何月何日）受拂計算書ト帳簿ト對査シ符合ヲ認ム

右調査候所相違無之候也

年號月日　　官氏名印

○明治二十四年十一月二十六日北海道廳訓令第八十號（集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

歳入歳出外ノ現金ヲ取扱出納官吏ヨリ提出スル現金出納計算書ニハ典獄校長郡區長ニ於テ左ノ書式ニ依リ保證書ヲ作リ之ヲ添付スヘシ

書式

保證書

出納官吏官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度（自何月何日至何月何日）歳入歳出外現金出納計算書ト現金出納簿及現存金額ノ符合ヲ認ム

右保證候也

年號月日　　（典獄）（校長）（郡區長）氏　名印



○明治二十五年一月二十九日北海道廳訓令第五號（監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所宛）

本年一月内務省訓令第一號ニヨリ典獄分監長學校長郡區長ハ本年一月分ヨリ内務省所管歳出ノ下檢査ヲ執行スヘシ

○明治二十五年八月五日北海道廳訓第百八十四號（監獄署、集治監、空知分監、札幌農學校、札幌區、札幌小樽、岩内、寿都檜山、松前、亀田、函館、室蘭、浦河、増毛、郡區役所宛各通）

其（署）（監）（校）（所）歳出下檢査ノ義ハ詮議ノ次第有之趣ヲ以テ當廳ニ於テ下檢査執行スヘキ旨内務大臣ヨリ訓令有之候條本年九月分ヨリ當廳ヘ進達スヘシ

○明治二十五年十二月二日北海道廳訓令第五十號（監獄署、集治監、郡區役所、警察署宛）

囚徒領置品拾得品其他官ニ於保テ管ノ義務アル物品出納計算書ニ關スル證明書並ニ保證書ハ爾後左ノ甲乙兩樣式ニ從ヒ調製スヘシ此旨訓令ス

（樣式畧ス）

○明治二十六年五月十一日北海道廳訓第百三十八號（物品會計官吏宛）

自今物品出納規程第十條ニヨリ物品出納計算書ヲ提出スルトキハ前年度若クハ前期物品出納計算書ノ扣書ヲ添付スヘシ其扣書ハ下檢査執行後返付ス但物品會計ヲ新置シ又ハ保管轉換ニヨリ物品會計ヲ分置シタルモノハ其年度若クハ其取扱期間ノ證明ニ限リ扣書添付セサルモノトス

○雜

○明治二十四年一月十五日北海道廳訓令第七號（各部、札幌農學校、郡區役所、集治監、監獄署宛）

稅外諸收入證明規程ニ依リ部長又ハ各部局長ハ收入官吏ノ求メニ應シ收入計算書ノ金額ハ收入簿現金出納計算書ノ金額ハ現金出納簿ニ照合シ具確實ヲ認メ別紙書式ノ對照表ヲ收入官吏ニ交付スヘシ

（別紙畧ス）

○明治二十四年一月十五日北海道廳訓令第八號（收入官吏宛）

稅外諸收入證明規程ニ依リ計算書差出方左ノ通リ心得ヘシ

一　收入計算書金額ハ收入簿現金出納簿計算書金額ハ現金出納簿ト符合ノ保證ヲ要スルニ付當該部長又ハ部局長ニ要求シ對照表ヲ得各計算書ト同時ニ當廳ヘ差出スヘシ

一　收入官吏交替ノトキ證明スヘキ收入計算書及現金出納計算書モ前項同樣ノ對照表ヲ添スヘキモノトス

○明治二十五年七月十九日北海道廳訓令第三十九號（郡區役所宛）

政府ヨリ助補費ヲ受クル公共事業費ニシテ二十三年十二月會計檢査院達第四號ニ依リ受拂決算ノ證明ヲナスヘキモノハ補助費ノ種類金額及各主管者ノ官職氏名左記樣式ニ據リ翌年度四月十五日以內ニ本廳ヘ報告スヘシ

但二十四年度分ハ本訓令到達五日以內ニ進達スヘシ

（樣式略ス）

○明治二十六年六月二十七日北海道廳訓第百九十四號（各部、監獄署、同支署、集治監、同分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、戶長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛）

出納官吏物品會計官吏ヨリ會計檢査院ヘ證明スヘキ諸計算書ハ各證明規程ニヨリテ調製スルハ勿論ナリト雖モ既證明事項ニ徵スルニ規程ニ背戾スルモノ計算ニ異勵アルモノ或ハ出納事蹟ノ不分明ナルモノ比々之レアリ獨リ下檢査上ノ障碍ノミナラス會計檢査院ノ審理ヲ受ケ答辨ヲ發スル等往復頻繁ニシテ遂ニ計算完結ノ期限ヲ超越シ其障害繁文冗費ニ歸スルノミナラス會計監督上甚シキ失態ヲ釀生スルニ至ルヘシ是レ當該官吏ノ交替事務受渡及平素執務上ノ注意周到ナラサルニ職由スルモノ最モ多キヲ占ム苟モ當該官吏ノ職務ニ從事スルモノハ金錢物品ノ出納ハ勿論計算證明ニ至ル迄特ニ鄭重注意シ各成規ニ定メタル順序ヲ踐ミ處務適實ニシテ將來下檢査官ノ摘出及會計檢査院ノ審理ヲ受クルコトナキヲ期スヘシ依テ出納官吏交替及諸證明ニ關スル要件別冊之通相定候條當該官吏ヘ懇篤達示スヘシ

（別冊）

出納官吏交替及諸證明ニ關スル要件

一　會計主務官、收入官吏、現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及政府ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏交替ノトキ後任出納官吏ハ別紙第一號書式ノ屆書ヲ製シ左ノ謄本ヲ添付シ受授後直ニ北海道廳長官ニ提出スヘシ

一　明治二十三年四月大藏省訓令第五十四號第四條ニ基ケル收入計算書

二　同上第五條ニ基ケル收入計算書

三　同上第六條ニ基ケル保管金現在高計算書

二　出納官吏交替事務引繼ヲナストキ帳簿憑書ハ前任出納官吏ニ於テ完結スヘキハ勿論ナリト雖トモ尚後任出納官吏ハ前任出納官吏取扱期間ニ係ル責任解除以前ノ帳簿憑書ノ完然調理ヲ確認シ受授スルヲ要ス

三　出納官吏交替ヲ爲シタルトキ計算書調製方ハ會計規則第九十九條ノ規定ニ從フハ勿論其前任出納官吏轉免非職ノトキト雖モ在職期間ニ執行シタル計算書帳簿ハ完結ノ上後任出納官吏ニ引繼スヘキモノトス

四　出納事務完結ノ後官衙廢合ノ爲繼續廳ヘ引繼ヲナストキハ別紙第一號書式ニ準シタル目錄ヲ製シ其繼續廳ヘ引繼ヲナスヘシ繼續廳ハ其目錄ノ謄本ヲ添ヘ北海道廳長官ヘ屆出ツヘシ

五　臨時現金前渡ヲ受ケタル出納官吏責任解除ヲ得繼續スヘキ事務ナキトキハ別紙第一號ニ準シタル目錄ヲ製シ其本屬廳ヘ引繼ヲナスヘシ

六　物品會計官吏交替ノトキ後任會計官吏ハ別紙第一號書式ノ屆書ヲ製シ左ノ書類ヲ添付授受後直ニ北海道廳長官ニ提出スヘシ

一　受授ヲ了シタル現在物品數量價格調

七　物品會計官吏交替事務引繼ノトキ後任會計官吏受理ノ手續ハ第二項ニ準シ官衙廢合又ハ事務完結ノトキ繼續廳或ハ本屬廳ヘ引繼屆出ノ手續ハ第四項第五項ニ倣フヘシ

八　物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏計算書調製方ハ二十四年十月當廳訓令第七十號第二十三條ノ規定ニ從フハ勿論其前任官吏轉免非職ノトキト雖トモ在職期間ニ執行シタル計算書帳簿ハ完結ノ上後任官吏ニ引繼スヘキモノトス

九　前任者取扱事務ニ對シ會計檢査院ノ審理ヲ受クルコトアルヘキニ付後任者又ハ引繼ヲ受ケタル官衙ノ主任官吏ハ交替ニ際シ便宜ノ爲其答辨ノ代理委任ヲ受クルヲ要ス

十　出納事務取扱管理期ハ任免月日又ハ交替事務引繼月日ヲ以テ分界トスル等往々區々ニ渉レリ右ハ當該官吏ノ新設ハ任命月日交替ハ事務引繼月日ヲ以テ分界トスルヲ要ス

十一　同上ノ管理期ハ二十五年九月訓第二百二十三號當廳訓令別紙書式第二號乃至五號當該官吏異動表ニ適宜備考ノ欄ヲ設ケ揭載スルヲ要ス

十二　會計檢査院ノ審理ニヨリ會計主務官既證明事項ニ對スル追給追徵科目訂正ハ其處分ヲ了ルト同時ニ必ス金額事由處分濟年月日ヲ記載シ會計檢査院長ニ宛タル申報書ヲ調製シ當廳ヘ提出スルヲ要ス

同上ニヨリ出納官吏既證明事項ニ對シ追給追徵科目訂正ヲ要スルコトヲ發見スルトキハ其時々速ニ本屬會計主務官申出處分ヲ請フヘシ但出納管理期限內追給ヲ要スルモノハ本文ノ手續ニヨラス出納官吏自身ニ處分ヲナスヘキモノトス

第一節第二節ノ處分ヲ了シタルモノアルトキハ該計算書備考ニ其金額事由ヲ記載スヘキモノトス

十三　同上ノ場合ニ於テ計數正誤ヲ要スルトキハ更正計算書(計算書ノ書式ニヨル(シ)調製シ正誤ノ事由書ヲ添付シ會計檢査院長宛名ヲ以テ當廳ヘ提出スルヲ要ス

十四　會計檢査院ノ審理ニ對スル答辨中審理ノ旨趣ニ適セサルモノ又ハ其要領ヲ得サルモノ或ハ文意ヲ盡サヽルモノアルトキハ再審理ヲ受ケ收束ノ期ヲ遲緩ナラシムルハ勿論ニ付審理書及答辯書ハ監督ノ任アル官吏ニ於テ査閲シ當廳ヘ提出スヘシ若シ答辨不充分ナルトキハ其提出者ニ糺合スルヲ要ス

十五　出納官吏ヨリ證明スル計算書中違式違算誤謬等寡ナカラサルヲ以テ下檢査官ノ摘出及會計檢査院ノ審理ヲ受ケ爲メニ數回ノ往復ヲ累ヌルニ至ル是皆會計事務沮滯ノ基因タラサルナハナシ依テ計算書ハ督監ノ任アル官吏ニ於テ査閲シ當廳ヘ提出スヘシ若シ不充分ナルトキハ其提出者ニ糺合スルヲ要ス

十六　會計檢査院ノ審理ニ對スル答辨中他ノ答辨ノ旨趣ヲ援引スルモノアリ或ハ送第何號ノ答辨ノ如シト記載スルモノアリ檢査上甚タ不都合ニ付審理事項毎ニ其答辨ノ事項ヲ明暢ニ掲載スルヲ要ス

十七　從來提出セル精算證書ハ編纂區々ニシテ一定セス計算書對照甚タ不便ニ付別紙第二號甲書式ノ如ク編纂提出スヘキモノトス

十八　現金前渡金ノ精算アリタルトキハ會計主務官ニ於テ各出納官吏毎ニ其精算額ヲ區分シタル精算額目表ヲ製シ仕拂内譯書ニ添付提出スヘシ

十九　概算支出ノ精算ニ至リシ證憑書類ハ他ノ精算證書ト區分スヘキモノナルニ往々此區分ヲ誤ルモノアリ右ハ追給ノ有無ニ係ラス別紙第三號ノ如ク證憑書類ヲ編纂スヘキモノトス

二十　送金ニ係ル證憑書類ハ到達ニ從ヒ一ケ月分ヲ數回ニ分チ提出セシ處右ハ檢査上不便ナルノミナラス散佚ノ憂アルニ付爾後ハ可成一ケ月分ヲ取纏メ一回ニ提出スルヲ要ス但少件數回取纏ラサル爲メ他ノ既整ノ分迄進達ヲ遲緩ナラシムヘカラサルニ付未到達證書取纏メハ凡三ケ月ヲ期トシ此期月内ニ其月全部證書ヲ取纏ムヘシ若シ取纏ラサルモノアルトキハ金庫ヘ照牒シ其金額事由ヲ申報セシメ會計主務官之ニ證明シ及仕拂命令官認定ヲ經會計檢査院ヘ證明スヘキモノトス

二十一　送金明細書ハ精算證書ニ編入セス別冊ニ整理スヘキモノナルニ往々精算證書中ニ合綴スルモノアリ檢査上不便尠カラサルニ付必ス精算證書ト別冊ニ編綴シ別紙第二號乙書式ノ如ク編纂提出スヘキモノトス

二十二　送金ニ屬スル請求書及契約書其他證憑書類ハ支拂タル月ノ證憑書提出ノトキ同時ニ別紙第二號丙書式ノ如ク編纂提出スルヲ要ス

二十三　不足拂ニ對シ追給ヲナシタルトキハ其金額事由ヲ仕拂内譯書備考ニ記載スルヲ要ス

二十四　恒例ノ支出ニアラサル事項ハ支出證明規程第八條ニヨリ計算書若クハ内譯書ノ備考ニ掲載スヘキモノナルニ往々之ヲ脱却シ審理ヲ受クルコトアリ右ハ同條ノ各項ニ該當スル事項アルトキハ必ス備考ニ掲載ヲ脱スヘカラス

二十五　會計主務官新任交替死亡等ノ場合ニ其管理期ヲ仕拂内譯書ニ記載セサルモノアリ右ハ其管理期ヲ該内譯書ニ明記シ及管理期ノ區分ニヨリ内譯書ヲ調製提出ヲ要ス

二十六　支出證明規程第十九條第二項ニヨリ物品購買ノ領收證書ニハ物品出納簿登記濟年月日ヲ記載スヘキモノナルニ往々此記載ヲ脫却シ會計檢査院ノ審理ヲ受クルコト屢之レアリ右ハ必ス同項ノ順序ヲ履行スルハ勿論物品證明ニ誤脫ナキ樣注意ヲ要ス

二十七　數月通用スヘキ契約書等ハ後月證明ノトキヨリ「何々書類ハ何月ニ於テ提出濟」ノ旨ヲ付記スヘキモノナルニ往々之ヲ脫スルヲ以テ檢査上不便少シトセス爾後必ス後月ノ證憑ニ付記スルヲ要ス

二十八　集合支拂命令ニ對スル金庫領收證書ニ金額氏名表ヲ添ヘ尙算出ノ基ク所ヲ明示スル爲一人別調書若クハ各人ノ請求書ヲ添付證明セシ處右ノ場合ニ於テハ金額氏名表寫提出廢止ノ義今般主務大臣ヨリ指揮セラル爾後一人別調書若クハ請求書添付スルモノハ金額氏名表寫ヲ要セス

二十九　租稅外收入ノ下檢査ヲ執行スルニハ必ス調定明細書ニ照合セサルヘカラサルニ付爾後收入證明ハ先ツ調定明細書ヲ提出シ而シテ成規ノ日限ニ收入計算書提出スルヲ要ス

三十　地所貸下料官舍貸下料ノ如キハ每年調定額明細書ニ地價並官舍ノ價格ヲ付記セサレハ既往年度ニ就テ檢査セサルヘカラス行務上差支不尠ニ付該明細書ニハ必ス右價格ヲ付記スルヲ要ス

三十一　地所家屋拂下代ノ如キハ其價格ノ標準並ニ主管省ノ聽許書及關係書ヲ類計算書ノ付屬證憑ニ添綴シ尙其計算書備考ニ該事由ヲ記載スルヲ要ス

三十二　收入計算書備考ニ左ノ事項金額ヲ明記スヘシ

一　收入濟額ニ對スル金庫名





二　收入濟額ト月計對照表ト照合ヲ認メタル金額

三　收入濟額ノ內拂込未濟（交替ノトキ前任者ノ調製スル計算書）ヲ後任者ヘ引繼タルモノアルトキハ其引繼ヲ受タル官氏名及引繼年月日事由

三十三　現金出納計算書ノ備考ニ左ノ事項金額ヲ明記スヘシ

一　拂込濟ニ對スル金庫名

二　拂込未濟額ヲ後任者ヘ引繼タルモノアルトキハ其引繼ヲ受ケタル官氏名及引繼年月日事由

三十四　歲入現金取扱ハ現年度ヲ以テ分界トナスヘキモノナルニ往々其分界ヲ誤ルモノアリ故ニ下檢査上摘出ヲ受ケ或ハ審理ニ答ル等ノ繁冗ヲ釀成ス爾後如此コトナキ樣注意ヲ要ス

三十五　收入官吏交替スルトキハ二十三年五月二十七日大藏省訓令第九十二號ニヨリ當該官衙ヨリ金庫ヘ通知ヲ達スヘキモノナルニ往々此報告ヲ怠ル爲ニ金庫拂込月ニ異動ヲ生シ不都合ニ付必ス同號手續ニヨリ異動ヲ報告スルヲ要ス

三十六　諸收入規程ニヨリ提出スル收入計算書首欄「前年度未收入高」ノ區ニハ明治二十五年四月大藏省訓令第二十五號ニヨリテ繰越タル三月三十一日ノ未收入越高ト前年度所屬調定額（八月三十一日ヨリ九月一日ヘ繰越未收入額ヲ云フ）トヲ併算證明方二十六年三月當廳訓第六十二號ヲ以テ訓令致置候處往々三月三十一日ノ越高ヲ併算セサルモノアリ爾後同號ノ旨趣ニヨリ必ス併算證明スルヲ要ス

三十七　收入計算書未收入額ノ前ニ欠損額ノ一欄ヲ設ケ欠損ノ金額ヲ掲記シ別ニ每件金額、事由、所屬年度ヲ詳記セル欠損額明細書ヲ調製シ該計算書ニ添付スヘシ

三十八　物品出納計算書ト現在高ト符合ヲ認メタル監督ノ任アル官吏保證書アルニ拘ラス前年度計算書若クハ現在品ト符合セサルモノ往々之アリ右ハ物品證明程式第六條第二項ニヨリ必ス其符合ヲ確認シ保證ヲナスヘキモノトス

三十九　物品出納證明ハ二十六年六月當廳訓令第二六號物品出納順序第六條ヲ除ノ外物品會計規則第六條ニヨリタル命令書若クハ上官ノ認定書ヲ要スルモノナルニ往々該證憑書類ヲ脫落シ計算書ヲ提出スルモノアリ當該官吏ハ特ニ注意シ完整ヲ期スヘシ

四十　物品出納計算書ト證憑ト對照スルニ品名數量ノ異動甚シキモノアリ又ハ計算書ト受入物品明細書ト照合スルニ自他誤謬尠カラサルモノアリ或ハ前期越高ト本期越高ト差異アルモノアリ檢査上不都合ナルノミナラス處務ノ進捗ヲ妨ルコト甚シ當該官吏ハ執務上如此誤謬ナキ樣最モ注意ヲ要ス

四十一　物品保管轉換ハ其引繼元ヲ計算書備考ニ記載スヘキモノナルニ往々之ヲ脫却スルヲ以テ沿革不明ノモノ少シトセス右ハ何所官氏名ヨリ受入タル旨ヲ備考ニ記載スルヲ要ス

四十二　歲入歲出物品計算書現在高ト帳簿若クハ現品ト符合ヲ認ムル保證ハ爾後該計算書結文ニ「本計算書ト帳簿又ハ現品ト對査シ符合ヲ保證ス」ト記載シ監督ノ任アル官吏官氏名調印年月日ヲ記載スヘシ



四十三　諸計算書料紙ハ紙質堅牢ノモノヲ用ヰヘキモノナルニ往々西洋紙ヲ用ユルモノアリ右ハ礬引美濃紙又ハ之ニ類スル硬質ノ料紙ヲ以テ計算料紙トナスヘシ

（別紙略ス）

## ○雜款

○明治二十四年八月十五日北海道廳訓令號外（札幌、函館、七飯、福山。江差、森部、岩內、小樽、增毛、室蘭、釧路、根室、警察署長宛）

其署來ル十六日ヨリ警部ヲ以テ署長ニ充テ警察事務取扱ハセ候條引繼方準備ヲ爲スヘシ

但金錢物品出納ニ關スル事務ハ當分ノ內郡區長ニ於テ取扱フヘシ（二十四年十月訓令第七十號ヲ以テ物品出納順序ヲ定ムルニ依リ物品ハ消滅）

右訓令ス

○明治二十四年十月三十日北海道廳訓令第五十一號（札幌、龜田、松前、檜山、森部、岩內、小樽、增毛、室蘭、釧路、根室、各郡長宛）

今般廳令第三十五號同第三十八號ヲ以テ更ニ警察分署ヲ置キ警部ヲシテ分署長ニ宛テ候處金錢出納ニ關スル事務ハ當分ノ內戶長ニ於テ取扱ハシムヘシ

○明治二十四年十一月十九日北海道廳訓第百六十九號（增毛宗谷郡役所宛）

今般宗谷郡稚內村ヘ札幌金庫ヨリ金庫員派出ノ上宗谷郡役所々屬國稅及租稅外歲入並ニ經費支出ノ事務取扱候條此旨心得ヘシ

但二十四年度經費仕拂豫算更正方申出ヘシ

○明治二十五年五月三十一日北海道廳訓第百四十六號（網走郡役所集治監宛）

根室本金庫網走派出所ニ於テ雜部保管金及爲換納金取扱方別紙寫ノ通主務大臣令達有之候條此旨相達ス

（別　紙）

大藏省指令第一〇五九號

北海道廳

本月十日第三四七二號上請根室本金庫網走派出所ニ於テ雜部保管金及爲換納金取扱方ノ件ハ上請之通金庫ヘ令達ス

明治二十五年五月二十日

大藏大臣伯爵　松方正義

（上請書ハ畧ス）

○明治二十六年六月二十三日北海道廳訓第百九十二號各部監獄署、集治監、札幌農學校、郡區役所、警察署、戸長役場、尋常師範學校、函館商業學校宛

預金局保管證書保管規則內務大臣ヨリ別紙ノ通リ定メラル

（別　紙）

預金局保管證書保管規則

第一條　官廳ニ於テ保管スル預金局保管證書ハ之ヲ保管スル所ノ部局長其保管ノ責ニ任スルモノトス

第二條　保管證書ハ鐵庫又ハ堅牢ナル函內ニ之ヲ收藏シ其鎖鑰ハ部局長之ヲ管守スルモノトス

第三條　部局長ハ一名ノ保管證書出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立合員ヲ命シ是ニ立合ハシムヘシ





第四條　部局長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書ノ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類券面ノ金額並ニ出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部局長檢印ヲナシタル後之ヲ執行スヘシ

部局長ハ毎月末日保管證書出納簿殘高ト保管證書ト對査點檢スヘシ

第五條　各省大臣若クハ北海道廳長官府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ命シ保管證書ノ出納ヲ臨時檢査セシムヘシ

第六條　部局長ハ會計檢査院ノ要求アルトキハ保管證書出納計算書ノ謄本ヲ同院ニ送付スヘシ

○明治二十六年九月四日北海道廳訓第二百四十七號內務部、警察部、財務部、監獄署、全支署、集治監、全分監、札幌農學校、郡區役所、警察署、戸長役場、尋常師範學校宛

預金局保管證書保管規則別紙之通リ定メラル

（別　紙）

第一一九八號

北海道廳

府縣

大藏大臣　渡邊國武

預金保管證書規則別紙ノ通心得ヘシ

預金局保管證書保管規則

第一條　官廳ニ於テ保管スル預金局保管證書ハ之ヲ保管スル處ノ部局長其保管ノ責ニ任スルモノトス

第二條　保管證書ハ鐵庫又ハ堅牢ナル函内ニ之ヲ收藏シ其鎖鑰ハ部局長之ヲ管守スルモノトス

第三條　部局長ハ一名ノ保管證書出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ一名ノ立會員ヲ命シ是ニ立會ハシムヘシ

第四條　局部長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書ノ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類劵面ノ金額幷ニ出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部局長檢印ヲナシタル後之ヲ執行スヘシ

部局長ハ毎月末日保管證書出納簿殘高ト保管證書ト對照點査スヘシ

第五條　各省大臣若クハ北海道廳長官府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ命シ保管證書ノ出納ヲ臨時檢査セシムヘシ

第六條　部局長ハ會計檢査院ノ要求アルトキハ保管證書出納計算書ノ謄本ヲ同院ニ送付スヘシ

○明治二十六年十月四日北海道廳訓第二百七十五號（函館區役所宛）

本年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規則第四十條ニヨリ定メタル證憑書類證明書檢閲之儀別紙第一三四四號之通リ大藏大臣ヨリ囑託セラル

（別紙）

第一三四四號





北海道廳

本年當省訓令預金保管物及供託物金庫出納事務規則第四十條ニ定メタル證憑書類證明書檢閲ノ件其廳ヘ囑託候條便宜札幌本金庫ハ書記官又ハ財務長函館本金庫ハ區長根室本金庫ハ郡長ヲシテ左ノ手續ニ依リ該證憑書類ヲ閲檢セシムヘシ

明治二十六年九月二十八日　　大藏大臣　渡邊國武

一札幌本金庫ノ預金保管物供託物ニ依ル證憑書類ノ檢閲ヲ擔當スル官吏ヲ豫メ定メ置キ其官氏名ヲ金庫ヘ通知スルモノトス

一證憑書類ノ檢閲ヲ擔當スル官吏ハ金庫ヨリ提出シタル證憑書類證明書及證憑書類ヲ受ケタル場合ハ三日以内ニ之ヲ檢閲シ相違ナキモノハ式ノ如ク證明書ヘ檢證ヲ與ヘ證憑書類ト共ニ金庫ヘ返付スルモノトス

○明治二十六年十月四日北海道廳訓第二百七十五號（根室郡役所宛）

本年大藏省令第三十號預金保管物及供託金庫出納事務規程第四十條ニヨリ定メタル證憑書類證明書檢閲之儀別紙第一三四四號之通大藏大臣ヨリ囑託セラル

（別紙前ニ出）

# ○第十類

## ○監獄署

### ○本支署

○明治二十四年八月十六日北海道廳告示第二十三號

監獄署及監獄支署ヲ設置シ其名稱位置左ノ通リ定ム

| 名稱 | 位置 |
|---|---|
| 北海道廳監獄署 | 石狩國札幌郡苗穗村 |
| 北海道廳監獄署龜田支署 | 渡嶋國龜田郡龜田村 |
| 北海道廳監獄署根室支署 | 根室國根室郡根室村 |
| 北海道廳監獄署增毛支署 | 天鹽國增毛郡增毛永壽町 |
| 北海道廳監獄署厚岸支署 | 釧路國厚岸郡床潭村 |

（二十五年七月告示第四十六號ヲ以テ福山江差壽都三支署ヲ廢ス）

○明治二十五年七月二十二日北海道廳告示第四十六號

明治二十四年八月北海道廳告示第二十三號中監獄署福山江差壽都三支署ハ本年六月三十日限リ廢止ス

但該地方ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚人ハ本年七月一日ヨリ監獄署龜田支署ニ押送ス

### ○職員

○明治二十二年六月五日北海道廳訓令號外典獄宛
本年五月內務省訓令第二十一號ニ依リ看守ノ精勤證書ヲ請フ時ハ當人ノ履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ
○明治二十二年六月十一日北海道廳訓令第三十一號（巡査看守休暇規則第八類警察職員ノ部ニ出ツ）
○明治二十二年九月四日北海道廳訓令號外警察署長宛
巡査看守精勤證書授與沒收ノ件別紙之通內務大臣ヨリ訓令有之ニ付此旨心得ラルヘシ
右訓令ス
（別紙ハ第八類警察職員ノ部ニ出ツ）
○明治二十三年九月十日北海道廳訓令號外監獄署宛
看守ヲシテ職務上必要ノ法令ヲ諳知セシムル爲メ訓授方別紙ノ通內務大臣ヨリ訓令有之候條適宜施行手續ヲ設ケ少クモ一ケ月十間以上訓授セシムヘシ
（別紙ハ集治監ノ部ニ出ツ）
○明治二十三年十月二十八日北海道廳訓令號外監獄署宛
自今看守ヲシテ看守長ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得ス
右訓令ス
○明治二十三年十一月六日北海道廳訓令號外監獄署宛
新ニ採用スル看守ハ別紙教習規則標準ニ依リ獄務ノ要領ヲ訓練シ實務ニ通曉セシムヘキ旨內務大臣ヨリ訓令相成候條右執行手續相定メ屆出ヘシ



（前紙ハ集治監ノ切ニ出ツ）
○明治二十三年十一月二十七日北海道廳訓令號外監獄署典獄宛
本年十月二十八日看守ヲシテ看守長ノ職務ヲ代理セシムルヲ得サル旨訓令及候處看守長寡少ニシテ看守ノ監督行屆キ難ク實際差支ノ場合ハ看守ヲシテ其本務ノ旁ラ看守勤務上ノ監督ヲ補助セシムル義ハ苦シカラス
○明治二十四年八月二十八日北海道廳訓第九十四號（巡査看守判任官待遇セラルヽニ付訓諭ノ件第八類警察職員ノ部ニ出ツ）
○明治二十五年一月二十一日北海道廳訓第十四號監獄署宛
其署內ニ看守教習所ヲ設ケ其規定左ニ相定ム

## 看守教習所規程

### 第一章　組織權限

第一條　看守教習所ハ北海道廳監獄署ニ屬シ新ニ採用スル看守ヲシテ實務ヲ教習スル所トス
第二條　看守教習所ニ左ノ職員ヲ置ク
一　所長　一名
一　幹事　一名
一　教官　若干名
第三條　所長ハ書記若クハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ典獄ノ指揮監督ヲ受ケ所內一切ノ事務ヲ綜理ス
第四條　所長ハ受業生ノ學科ヲ怠リ又ハ規則ヲ犯シタルモノアルトキハ典獄ノ指揮ヲ得テ之ヲ處

罰スヘシ

第五條　幹事ハ書記若クハ看守長ヲ以テ之ニ充テ常ニ所長ヲ補翼シ所長事故アルトキハ代テ其職務ヲ行フヘシ

第六條　教官ハ書記若クハ看守長ヲ以テ之ニ充テ所長ノ指揮ヲ受ケ訓練ノ事務及受業生一般取締ヲ掌ル

第七條　教官ハ受業生ノ學科ヲ怠リ又ハ規則ヲ犯シタルトキハ所長ニ具申スヘシ

第八條　受業生心得ハ所長之ヲ定メ典獄ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

## 第二章　授業法

第九條　授業ハ監獄ノ實務ニ應用セシムルヲ以テ目的トス

第十條　新ニ採用シタル看守ハ前期受業生トシ先任看守ハ後期受業生ト爲ス

但前期受業生ハ教官又ハ先任看守ノ指導ヲ以テ實務ニ齊ラシムヘシ

第十一條　授業左ノ如シ

一　禮式及ヒ姿勢ノ心得
一　服裝及帶劍ノ心得
一　立番巡警押送外役戒護ノ心得
一　在監人ノ身体衣服臥具人員及監房檢査ノ心得
一　看守監獄傭人分掌例
一　監獄則及施行細則
一　監獄ニ關スル諸法規ノ大要
一　刑法刑事訴訟法大要
一　官吏服務規律ノ大要
一　在監人所遇方ノ心得
一　非常變災時ノ心得
一　戒具施用方及海防ノ心得
一　役業督勵ニ關スル心得
一　在監人行狀視察及記載法
一　看守懲罰例及賞與規則ノ大要
一　傳染病豫防及患者取扱ノ心得
一　教誨接見差入品取扱ノ心得
一　告發及在監人ノ願訴文代書
一　算術
一　擊劍

第十二條　授業ノ方法ハ左ノ三種ニ區別ス

一　講義

一　口授
一　實地演習

第十三條　講義及口授ハ時宜ニ依リ受業生ニ筆記又ハ應問對策セシムル事アルヘシ

第十四條　前期ハ六十日間後期ハ九十日間ヲ以テ卒業ノ期トス

第十五條　前期受業生ハ其期間毎日八時間以内期後受業生ハ定日ノ日没ヨリ三時以内トス

但時間割ハ所長之レヲ定ム

第十六條　大祀令節日曜日ハ休業ス

## 第三章　試驗法

第十七條　受業生受業ノ成蹟ハ受業期限ノ終ニ於テ之ヲ試驗ス

但教官ノ意見ヲ以テ臨時問題ヲ下シ答接ヲ作ラシムルコトアルヘシ

第十八條　學術ニ係ル教科ノ試驗ハ各々問題ヲ出シ之ニ對策セシム實地演習等ノ試驗ハ教官ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　試驗ノ成蹟ハ毎科十點ヲ以テ最高點トシ各科平均點數六點以上ヲ以テ及第トシ其六點ニ滿タサルモノヲ落第トス

但試驗成蹟ノ順序ヲ定ムルハ其點數ノ多少ニ據ル點數同一ナルトキハ拜命順序ニ從フ

第二十條　前期ノ試驗ニ及第シタルモノハ本務ニ服セシメ後期ノ授業生トナスヘシ

第二十一條　前期後期ノ試驗ニ於テ及第シタルモノニハ卒業證書ヲ附與スヘシ（二十六年五月訓第百五十九號ヲ以テ冒頭ニ前期ノ二字ヲ加フ）





第二十二條　前期後期ノ試驗ニ於テ其成蹟優等ナル者ニハ優等證ヲ付與ス

第二十三條　前期後期ノ試驗ニ於テ落第シタルモノハ左ノ日數仍ホ練習セシメ更ニ試驗ヲ爲スヘシ

一　前期ハ三十日間
一　後期ハ六十日間

第二十四條　卒業及優等證書ノ書式ハ別紙雛形ニ依ル

（別紙）

優等證書式

看守教習所受業生
看守　某
學術技藝特ニ優等ナルヲ以テ茲ニ之ヲ證ス
年　月　日　教習所印
北海道廳看守教習所

卒業證書式（二十六年五月訓第百五十九號ヲ以テ本書式中看守教習所ノ下「前期後期」ヲ加フ）

看守教習所受業生
看守　某
看守教習所（前期後期）科程卒業
年　月　日　教習所印
北海道廳看守教習所

○明治二十五年十二月二十二日北海道廳訓第三百五號監獄署宛

龜田根室ノ兩監獄支署ヘ看守教習所支所ヲ設ケ本年一月訓第十四號看守教習所規則ニ據リ來ル明治二十六年一月ヨリ之ヲ實施スヘシ

○明治二十六年三月四日北海道廳訓第四十七號監獄署宛

其署看守服務心得別紙之通リ相定ム

（別紙）

看守服務心得

第一條　看守ハ職務上一定ノ義務ヲ有ス故ニ其義務ハ堪忍ト熱心等ヲ以テ誠實ニ之ヲ盡ス可キ者トス但服務外ト雖モ官吏タル名譽ニ耻サルノ注意アルヲ要ス

第二條　看守ハ服務中定規ノ服裝ヲ爲可キモノトス

第三條　看守ハ其上官タル典獄看守長ノ命令ニ對シテハ之ヲ遵奉スルノ義務アルモノトス故ニ其命令ニ對シ同僚若クハ囚徒ノ面前ニ於テ自己ノ意見ヲ主張シ不遜ノ言語ヲ發シ上官ノ命令ヲ遵奉セサルカ如キ擧動アル可ラス

第四條　看守ハ囚徒ヲ嚴確ニ監察シ且ツ作業ニ熟練セシムルコトニ注意ス可シ

第五條　看守ハ執務上過誤失錯其他秩序ヲ亂ストキハ相當ノ處罰ヲ受ク可キモノトス

第六條　看守ハ一署ニ勤務年數滿三年ニ至ルトキハ甲乙監獄ニ相轉勤セシム可キモノトス

但シ典獄ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第七條　受持看守ハ其囚徒ノ鄕貫氏名年齡罪質刑名及平素ノ行狀等ヲ記臆シ典獄看守長等ノ質問ニ答フルニ差支ナキノ注意ヲ要ス

第八條　看守ハ獄務ニ關スル諸般ノ事故及上官ヨリ受ケタル命令ハ常ニ能ク之ヲ熟知シ若シ過失アル場合ニ於テハ不知ヲ口實トシテ懲戒ヲ免ルヽコト能ハサルモノトス

第九條　看守ハ囚人ニ對シ其遵守ス可キ事項ヲ指示シ必要ノ物品ヲ授受シ監房被服等ノ清潔及秩序ヲ保維シ且ツ教誨聽聞ニ誠意誠心ナラシムル樣之ヲ勸誘スルモノトス

但押丁ヲシテ物品ヲ授受セシムル場合ハ之ニ立合フヘシ

第十條　看守ノ言語ハ簡明且ツ嚴肅ニシテ凡テ長談ニ涉ルコトヲ得ス

第十一條　在監人ニ親屬故舊等アルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ屆出ツ可シ

第十二條　在監人ノ願訴アルトキハ之ヲ報告簿ニ記載シ凡テ看守長ニ提出スルモノトス

第十三條　病囚ノ診察治療ニ立會ヒタルトキハ其擧動ヲ手帳ニ記載シテ之ヲ看守長ニ報告スルモノトス

第十四條　監房ノ開閉ハ凡テ看守長ノ指揮ニ依リテ之ヲ爲スモノトス

第十五條　各受持ノ看守ハ毎日罷役后其囚徒疾病ノ有無及翌日使役ノ順序ヲ調査シ之ヲ看守長ニ報告ス可シ

第十六條　日々各監房及其常置ノ器具ヲ點檢シ其狀況ヲ具サニ看守長ニ申告スルモノトス

第十七條　囚人ヨリ密告ニ係ル事故ハ如何ナルモノタルヲ問ハス典獄看守長ヲ除クノ外凡テ之ヲ他ニ漏泄スルヲ禁ス

第十八條　朝夕各其受持工場ノ器械ヲ點檢シ其異狀ナキヲ認了シタル上之ヲ器械庫ニ納付スルモノトス

但異狀アルトキハ看守長ニ申告シテ其指揮ヲ受クヘシ

第十九條　看守ハ其受持囚徒ヲシテ決シテ獨歩セシムルカ如キコトアル可カラス

第二十條　囚徒ハ一日三回一定ノ時間ニ於テ一齊ニ行厠セシメ決シテ不紀律ニ時々之ヲ便セシムヘカラス

第二十一條　囚徒ニハ寸時ノ閑ト雖モ之ヲ取ラシムヘキモノニ非ラサルヲ以テ假令當日ノ科程ヲ了ルモ服役時限內ハ尙服役セシム可キモノトス

第二十二條　囚徒ニ午飯ヲ爲サシムルニハ午前十一時三十分ニ之ヲ號報シ工場ヲ掃除セシメ了テ喫飯セシム可キモノトス

第二十三條　看守ハ囚徒ニ對シ力メテ其威嚴ヲ保持スルハ勿論ニ付苟クモ自ラ醜行不正ノ擧動等アリ若クハ處務ノ不注意ヨリシテ反ツテ囚徒ノ蔑視ヲ受ケ監獄ノ尊嚴ヲ汚スガ如キコトナキ樣平素注意ヲ要ス

第二十四條　囚徒ト私事ヲ交談シ或ハ蔭カニ自己ノ爲メ作業ヲ爲サシムルカ又ハ囚徒ノ爲メ斡旋シ信書或ハ差入物等ノ媒介ヲ爲シタル者ハ其職ヲ免セラルヘシ

第二十五條　囚徒ハ役業上互ニ談話セサルヲ得サルコトアルトキハ看守者ノ聞キ得可的ケノ高聲ニ之ヲ爲サシム可シ

第二十六條　押丁及授業手ニ於テ囚徒ト相狃レサル樣注意ス可シ

第二十七條　在監人ノ犯令違行ハ直チニ看守長ニ申告シテ指揮ヲ受ク可シ

但暴行又ハ逃走ノ虞アルモノハ直チニ引致シ外役先キニ係ルトキハ歸監ノ后申告スヘシ

第二十八條　囚徒ノ出入監毎ニ自己又ハ押丁ヲシテ衣体ヲ檢シ包藏物ノ有無ヲ嚴密ニ査覈ス可シ

第二十九條　監外ニ押發スル囚徒ニ施用シタル戒具ノ完否ヲ檢査シ其不完全ナルモノハ押丁ヲシテ之ヲ正サシムヘシ

第三十條　監外押送途上ニ於テ囚徒疾病ニ罹ルカ或ハ暴行又ハ逃走等ノ患アルトキハ一面ハ典獄ニ報告シ一面ハ臨時ノ處分ヲ爲ス可シ

但此場合ニ於テハ臨時雇人ヲ使用シテ報告スルコトヲ得

第三十一條　囚徒引卒スル場合ハ凡テ紀律正シク通路ノ廣狹ニ應シ二名乃至四名ヲ並列セシメ縱隊ヲ作リテ進行セシム可シ

第三十二條　囚徒ノ動作ヲ命スルニハ必ス簡明ナル號令ヲ以テ爲ス可キモノトス

第三十三條　監外押發ノ囚徒常人ト談話シ或ハ之ヲ嘲笑シ又ハ作業ニ關セサル他事ヲ交談シ歩列ヲ亂シ往來人ヲ妨クル等ノ所爲ハ堅ク之ヲ戒メ尙外人シテ囚徒ト接近セシム可カラスト雖モ猥リニ權威ヲ以テ之ヲ制ス可カラス

第三十四條　刑事被告人及囚徒等ニ對シ發スル稱呼等ハ粗暴ニ渉ラス急激ニ失セス可成個人的ニ適スルノ言語ヲ以テナス可シ

第三十五條　監外押發ノ囚徒多數ナルトキハ雜沓ニ乘シ逃走ノ恐レアルヲ以テ看護者三人アル場合ニ於テハ第一看守ハ隊伍ノ最前左側第二看守ハ最後ニ其最モ責任アル上級者ハ中部ニ在テ司令者タルヘキモノトス

第三十六條　何人ニ限ラス監外ニ於テ囚徒ニ飲食物ヲ與ヘントスル者アルトキハ之ヲ拒絶ス可シ

第三十七條　囚徒ニシテ逃亡脫監等ヲ企圖セントスルモノアルトキハ各自其職ニ當リ事若シ防止シ難キニ至ルトキハ看守長ニ報告シ指揮ヲ受ク可キモノトス

第三十八條　職務上ニ關スル事故ハ細大遺漏ナク手帳ニ筆記シ余白ナキニ至ラハ舊帳ヲ添ヘ警守課ニ引換ヲ請フ可シ

第三十九條　職務ニ服スル間ハ放歌吟詩ハ勿論總テ讀書スルヲ得ス但休憩時間ハ此限ニアラス

第四十條　立番中ハ看守長ノ許可ヲ得スシテ擅ニ受持場ヲ離レ又ハ佩劍及ヒ帽幷ニ靴ヲ脫シ或ハ數人双合シテ談話等ヲ爲ス可カラス

第四十一條　職務上ニ付人民ヨリ金錢物品ニ拘ハラス謝儀ヲ受クルヲ禁ス

第四十二條　凡テ檢束上ニ係ル事故ハ濫リニ他人ノ聞キ得ヘキ所ニ於テ之ヲ談論シ他ニ漏泄スルカ如キコトアル可カラス

第四十三條　病氣ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ開監前ニ屆出テ引込中ハ醫師ニ於テ外出ノ必要ヲ認明スルニ非レハ外出スルヲ得ス但醫師ノ診斷書ニハ二十四時間內ニハ之ヲ出スコトヲ得

第四十四條　看守長ハ必要アル場合ニ放テ獄醫ヲ伴ヒ臨時其病者ノ家宅ニ臨ムコトアルヘシ

第四十五條　製造品ノ注文ヲ託セラルヽコトアルモ直チニ役囚ニ向テ注文スルヲ得ス必ス掛官吏ニ申出ツ可シ

門衛勤務

第四十六條　門扉ハ常ニ之ヲ嚴重ニ閉鎖シテ其戶前ニ立番シ交代ノ都度其鍵ヲ授受スヘシ但門扉ハ所用者請求ノ都度差支ナシト認ムル場合ニ於テハ之ヲ開クヲ得ルト雖モ囚徒ノ起床前又ハ還房後ハ當直看守長ノ指揮アルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第四十七條　門衛ハ一定ノ地ニ在テ視察シ得ル所ノ事故ニシテ監獄戒護ニ關シ靜謐及秩序ヲ害スルモノト見認メタルモノハ凡テ之ヲ禁制シ殊ニ監門出入ノ人物ニ注目シ其都度嚴重ノ監察ヲ爲スモノトス

第四十八條　門衛ニ於テ常ニ熟知セサルモノハ凡テ外人ト見做シ先ツ其者ノ來意ヲ訊問シ之ヲ事務所ニ案內シ若クハ自ラ此ヲ受附係リニ同伴スヘシ此場合ニ於テハ鑑札ヲ下付シテ通門セシムヘシ

官吏公吏又ハ人民ニシテ若シ典獄ニ面接セント欲スルモノアルトキハ直ニ之ヲ典獄室ニ案內若クハ同伴ス可シ

第四十九條　囚人ニシテ或ハ其被服ヲ換ヘテ監門ヨリ逃走セント欲スルモノアルヲ以テ夜間ハ殊ニ嚴密注意ヲ要スヘシ

第五十條　若シ荷車等ヲ挽キ入レント欲スルモノアルトキハ門衛ハ其來旨ヲ訊問シ尙其係官ヲ指

名セシム可シ故ニ其荷車等ハ指名シタル官吏若クハ之レカ委託ヲ受ケタル官吏ノ來ルヲ待チ入門セシム可シ出門スルトキハ其車中ヲ精密ニ檢査ス可シ

第五十一條　監内ニ於テ不穩ノ事件發生スルカ又ハ水火風震等ノ場合ニ於ケル門衛ハ現ニ一定ノ位地ニ立番シ應援ノ爲メ來監シタル警察官吏等ハ直チニ之ヲ通過セシム可トシ雖モ一私人ニシテ來監シタルモノハ典獄若クハ其代理者ノ許可ナクシテ入門スルヲ許サス

第五十二條　總テノ物品ハ相當官吏ノ付與セシ通章アルニアラサレハ門外ニ出サシムヘカラス

第五十三條　各課ハ物品通門簿ヲ調製シ物品ヲ通門セシムル毎ニ之ヲ記入シ門衛ノ承認ヲ得可シ

第五十四條　平常出入ノ商工ニハ豫テ交付シ置ク處ノ監札ヲ檢シテ其出入ヲ許ス可シ

第五十五條　備付ノ鑑札ハ交代ノ時々其員數ヲ點檢シテ之ヲ授受ス可シ

受持事務

第五十六條　看守ニハ一定ノ區域及囚員ニ就キ其受持ヲ指定シテ之ヲ管掌セシム故ニ受持看守ハ其受持部内ノ場所備品囚人等ニ就テハ凡テ之カ責任ヲ有スルモノトス

居房ハ最モ清潔ニ之ヲ拂拭シ常ニ秩序ヲ保タシム可シ

第五十七條　看守ノ受持ハ典獄ノ認可ヲ得テ警守課長之ヲ命ス看守ハ其受持ヲ命セラレタルトキハ先ツ其部内ノ狀態ヲ精檢シ監房ノ汚損備品ノ缺虧等ノ有無ヲ確保シ其事故ハ受持報告帳簿ニ記載シ引繼者之レニ連署シ看守長之ニ認印ス可シ

第五十八條　看守ハ物品會計官吏若クハ看守長ノ命令ナクシテ猥リニ其受持部内ノ備品ヲ增減スルヲ得ス

第五十九條　受持看守ハ其受持部内ノ備品目錄ヲ調製シ置クヘシ

第六十條　看守ハ其受持部内ノ囚徒ノ被服又ハ鎖鑰戸扉及ヒ窓牖ノ完否ニ付殊ニ周密視察ヲ爲シ尙ホ日々之レカ點檢ヲ行フヘシ

第十六一條　看守若シ囚人ノ逃走若クハ破獄ヲ企圖スル者ヲ認メタルトキハ直ニ其囚名ヲ看守長ニ報告シ當該囚ノ檢束ヲ一層嚴ニシ若シ之カ密告者アルトキハ其姓名ヲ隱匿シ他囚ヲシテ之ヲ知ラシメサルヲ要ス

第六十二條　看守ノ囚徒ニ對スル命令ハ正肅明白ナル音聲ヲ以テシ急劇ニシテ高聲ニ失シ又ハ粗暴ノ言語ヲ用ユ可カラス

第六十三條　囚徒自ラ疾病ヲ訴出ルトキハ之ヲ診察簿ニ記入シ看守長ヲ經由シテ醫師ノ診療ヲ求ム可シ若シ疾病ヲ虛構スルトキハ直ニ看守長ニ引致ス可シ

炊事看守

第六十四條　炊所ニ關スル必要ノ事項ヲ所理セシムルカ爲メ其必要ニ應スル囚人ノ員數ヲ以テ炊事看守ニ付屬セシムルモノトス看守ハ此囚人ヲ監督シ且ツ行狀ヲ視察ス可シ

第六十五條　炊事看守ハ毎日食物ヲ配與ス可キ在監人ノ現員表ヲ調製シ物品會計官吏及看守長ヲ經由シテ典獄ノ檢印ヲ受ク可シ

但食料品ノ數量及ヒ其品名ヲ指定ス可キモノトス

第六十六條　炊事看守ハ前條ノ手續了ラハ適當ニ其食物ヲ調理配合シ規定ノ喫飯時ニ配與スルノ準備ヲ爲スヘシ

第六十七條　炊事看守ハ炊事用ノ備品及素品ハ正確ニ之ヲ取扱ヒ常ニ炊夫ノ衣体及倉庫内ノ清潔ヲ保ツヘシ

第六十八條　炊所備付ノ諸物品ハ看守ニ於テ其目録ヲ所持シ之レカ保存ノ責任ヲ擔保スルモノトス

第六十九條　炊事看守ハ特ニ竈釜井戸及下水樋ノ完整ニ注意シ並ニ炊所内ニ生スル屑物類ハ物品會計官吏ノ指揮ニ從テ所分ス可キモノトス

第七十條　本例ノ外看守勤務法及外役病監洗濯等ニ關スル心得ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○明治二十六年十一月三十日北海道廳訓第三百三十三號監獄署宛

其署押丁本月三十日限リ廢止ス

## ○給與

○明治十九年三月十七日北海道廳丙第二號達本支廳宛

舊札幌函館根室三縣ニ於テ定メタル警部巡査給與規則相廢シ巡査被服幷旅費左表之通改定ス

右相達ス

巡査看守被服表（二十三年九月三十日訓令號外ヲ以テ「巡査被服表」ヲ「巡査看守被服表」ト改ム旨監獄署ヘ令ス本表ハ第八類警察ノ部ニ出ツ）

○明治二十二年五月十八日北海道廳訓令第二十五號監獄署宛





看守長其他戒護ノ事務ニ從事スル者ハ本年内務省訓令第一號看守押丁ノ例ニ準シテ賞與スルコトヲ得

○明治二十二年十月三日北海道廳訓令第四十一號郡區役所、警察署、監獄署宛

巡査看守ニシテ他ノ官吏ヘ轉任ノ場合ニ於テハ經濟ヲ同フスルモノト雖モ自今其際滿年賜金打切支給スヘシ

○明治二十三年二月八日北海道廳訓令第三號監獄署宛

明治二十年五月勅令第十二號私設鐵道條例第二十二條ニ據リ囚徒護送ノ監獄吏ニシテ半價ヲ以テ乘車スル場合ニ於テハ明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則及明治二十年二月廳令第四號看守雇員内國旅費ニ屬スル氣車賃ハ半額ヲ支給スヘシ

○明治二十三年九月十八日北海道廳訓令第六十八號（看守歸國旅費滿年賜金支給ノ件第八類警察ノ部ニ出ツ）

○明治二十五年一月十九日北海道廳訓第一號監獄署、集治監宛

看守給與品ノ内靴下及長短靴ノ三種ニ限リ自今左ノ方法ニ據リ代料ヲ支給スヘシ

但シ本件ハ新ニ支給スルモノヨリ施行ス

一給與品代料渡ノ期日ハ毎月二十六日トス（二十六年十月訓令第三十三號ヲ以テ十六日ヲ二十六日ト改ム）

但休暇日ニ當ルトキハ繰下ケ任免ノトキハ臨時支給ス

一各種ノ給與スヘキ相當代價ヲ定ムル方法ハ既往三ケ年度ノ實費價格ヲ平均シテ之ヲ定メ其算出上厘位未滿ノ端數ハ四捨五入ノ法ニ依リ厘位ニ止ム

一給與品代料支與方ハ各其保存期限ニ基キ月割ヲ以テ支給ス採用罷免ハ月ノ十五日前後ノ區分ニ從ヒ半額若クハ全額ヲ給ス

一給與品ノ代料ヲ支給スルニ方リ生スル所ノ厘位未滿ノ端數ハ四捨五入ノ法ニ據ル

## ○在監人

○明治十五年七月二十八日札幌縣乙第四十三號達（郡區役所戸長役場宛）

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還ノ時籍ヲ望ミノ地ニ定メシメ典獄ヨリ就籍地區戸長ヘ通知書ヲ作リ本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相達候事

但典獄ハ前年中監獄內無籍人ノ出入出生死亡ノ員數並ニ其年一月一日ノ現員ヲ毎年一月限リ在監地區戸長ヘ通知スヘシ郡區戸長ハ之ヲ受ケ該地ノ人口ニ算入スヘシ

○明治二十年四月十三日北海道廳丁第五號達（監獄署宛）

陸海軍々法會議ノ處刑者費用及ヒ收監ノ義別紙訓第二二八號之通內務大臣ヨリ訓令アリ

右相達ス

（別　紙）

訓第二二八號

北海道廳

陸海軍々法會議ノ處刑者費用區分方客歲一月甲第一號ヲ以テ別紙ノ通廳府縣ヘ相達置候ニ付テハ其廳ニ於テモ來ル二十年度以降右處刑者アル毎ニ該軍監獄ヨリ直チニ送付スル筈ニ付其都度之ヲ相



當監獄ニ收監シ其費用ハ當該監獄ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

明治二十年三月十八日

內務大臣伯爵　山縣有朋

（別　紙）

甲第一號

警視廳
府縣

陸海軍々法會議ニ於テ經重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以降軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

但從前陸海軍々律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相達ス

內務大臣伯爵　山縣有朋

明治十九年一月二十九日

○明治二十二年六月十九日北海道廳訓令號外（札幌監獄署典獄宛）

賭博犯懲罰中ノ者服役方幷ニ獄則ヲ謹守シ悛改ノ情狀アルモノ全免假免上申方ニ付別紙之通リ內務大臣訓令有之候條右心得ラルヘシ